

社会福祉法人 宮城厚生福祉会

2014 年度事業報告

はじめに

東日本大震災から4年が経過しました。しかし復旧、復興は依然として進まず、福島第一原発事故等による避難者は東北三県を中心に20万人以上が未だ避難生活を余儀なくされています。被災者の医療、介護の制度の充実と、原発廃止の運動にも積極的に取り組んできました。

2014年度はマスコミを総動員しての「社会福祉法人バッシング」がありました。権利としての社会福祉が、社会福祉基礎構造改革をはじめとした制度改変のなかで市場化・営利化が促進され、また自己責任と自助・共助の押しつけにより、本来の人権保障としての役割が歪められようとしています。

「社会福祉法等の一部を改正する法律案」は、一部の社会福祉法人の不正や、明確な定めのない「いわゆる内部留保」問題をはじめとした社会福祉法人バッシングを背景に、社会福祉法人が「余剰財産(内部留保)」を再投下して「地域における公益的な取り組み(社会貢献)」を行うことを法律で義務化するなど、政治や市場の失敗によるさまざまな社会福祉の諸課題に対して、社会福祉法人が自己責任で自主的慈善事業として実施することを求めるなど、戦後築いてきた社会福祉事業のあり方を大きく変質させるものとなっています。

介護報酬では「内部留保」を根拠に2015年4月から大幅なマイナス報酬改定が実施されます。また介護費用の適正化と称して介護保険制度が、使いにくい方向へと改定されます。

2015年度より保育では、新制度へ移行し「公定価格」が導入されます。そのため試算を行いました。今まで自治体から補助のあった事業が公定価格内に包括されるなど変更されています。

児童厚生分野では一部負担金の実施や、障がい者分野では報酬改定が準備されています。

社会保障後退と消費税増税、公共料金の値上げなどが、経営や暮らしを直撃し、黙っていたままでは、国民の生活権・生存権が大幅に後退する危機的状況にあります。

このような中で、全日本民医連に結集し、法人の社会保障委員会を中心に活動してきました。「報酬」の課題だけでなく、政府の「集団的自衛権の行使容認」など戦争をする国づくりに向けた策動があり、今後も平和活動に取り組みます。

職員研修も、1年目研修から管理者研修まで段階的に開催しています。法人設立から17年間で急速に施設展開してきましたが、人材育成と教育が施設展開に追いついていない感はありません。情勢が複雑化、困難となっていく中で、施設の中核を担う職員の教育や制度を充実させる必要を感じます。

今年度の決算は17百万円の黒字決算となりました。しかし夏季賞与引当金8千万円が計上できない事態となっています。また4月の介護保険改悪の経営に与える影響は今までにない深刻なものであり、労働組合に対して労働条件の変更、賃金改定の申入れを行っています。利用者を守り、経営を守り、職員を守り、地域を守っていくために経営的には現実的な対応が必要です。同時に社会保障の充実の運動を旺盛に展開する中で、経営的にも運動的にも法人、施設の展望を切り開きたいと思えます。

高齢者福祉施設宮城野の里

4月に宮城野の里、11月にケアハウス宮城野の里の施設長交代がありました。また、年度途中でデイサービスセンター、ショートステイ、居宅の管理者の変更があり、組織が大きく変わった1年となりました。6月には居宅、ヘルパー、友の会事務所の旧福田町クリニックの建物への移転もありました。

2014年度は利用率アップのための取り組み、経費削減のための取り組みの両面から「経営の改善」に向けて職員が一丸となった一年でした。全体的な経営から見るとなかなか及ばない数字ではありましたが、経費削減部分では、成果が表れたところもあり、手ごたえを感じました。が、開所から15年が経過し、建物、備品が次々に修理、修繕が必要な状況になっております。計画的な対応が今後の課題です。

それぞれの事業所が、おひとりおひとりの要望に丁寧に対応し満足度が高まった事、他事業所との連携で、利用率のアップにつながったことは職員たちの自信になりました。今後もご利用者、ご家族の思いに寄り添った介護を追求して参ります。

地域の皆さんとの交流の場になっている「宮城野の里まつり」は、今年度、隣接する田子のまちと初めて合同開催としました。600名ほどの方にご来場いただき例年に増して盛況でした。今後、地域包括ケアシステムの構築の中で、「地域と共に」を具現化していくことが大切です。次年度は、田子のまちと共に、介護教室や様々な活動を通して、地域の皆さんと、さらに良い関係が築けるように努めていきたいと思っております。

事業所・部門

【 福田町デイサービスセンターⅠ 】

1、利用者動向

今年度は昨年度の反省を活かし、利用当日に体調不良などで休みが出る事を見越しての登録人数を設定し、キープしてきました。それにより利用率を大幅に下げる事なく、11月には過去最高の99.0%まで上げる事ができました。また、ご利用に繋がられるよう、一日体験利用を無料化したり、短時間の受け入れを開始したりと工夫してきました。

ケアマネジャーや地域包括などから、デイサービスに対してのご意見、ご要望を頂けた際には、改善に向けて努めてきました。その結果、一つひとつがご利用者への満足度の向上に繋がり、以前よりもデイサービスが楽しいとおっしゃってくださる方が増えたり、休まずに来所して下さったりといった方も多くいました。

1月からは、気候や体調不良でのお休みが目立ったり、ショート利用をメインにされる方が多くなったりと、欠席数の増加があり、それを埋められる程の新規獲得には至らず、利用率の低下がありました。来年度も、新規ご利用へ繋げる取り組みと、現在利用して下さっている方の満足度の向上の両方に力を入れていきたいと思っております。

①介護度別年間利用回数・年間利用率・年間収入額 ※定員：30名

介護度別 利用回数	要支 援1	要支 援2	要介 護1	要介 護2	要介 護3	要介 護4	要介 護5	利用回 数合計	年間 利用率
2014年度	751	598	3,714	1,843	1,117	403	209	8,635	93.3%

②入退所者数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	2013	2014
開始者数	2	2	3	6	3	2	5	3	1	0	1	3	34	31
終了者数	3	3	2	1	4	2	0	6	3	2	3	0	23	29

③利用開始理由

開始理由	交流目的	ロコミ	家族の介護 負担軽減	見学体験で 気に入った	入浴 目的	認知症進 行予防	他デイより 移行
人数	10	8	2	5	3	2	1

④利用終了理由

終了 理由	入 院	死 去	入 所	デイⅡ へ移行	本人が希望 しない	家族が希 望しない	リハへ 移行	転 居	その他
人数	5	10	6	6	0	0	0	0	2

⑤要介護度別利用者数

※年間利用者数：8,635人（実人数：91人）

	要支援1		要支援2		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5	
	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実
利用 人数	751	19	598	4	3,714	38	1,843	16	1,117	9	403	2	209	3
割合	8.6	20.8	6.9	4.3	43.0	41.7	21.3	17.5	12.9	9.8	4.6	2.1	2.4	3.2

2、具体的な取り組みについて

1) 環境整備

居心地の良い環境作りを目標にしていますが、まだまだ大広間のデイサービスの形式でとどまっており、『落ち着きたい時に一人で過ごせる場所』や『気心の知れた仲間だけで話したい時に過ごせる場所』等のプライベートな環境が無い状況です。空間の工夫、活用は、来年度も引き続き目標としていきたい部分です。

2) 年間行事・デイ便り

行事やデイ便りは力を入れてきたと言える部分です。敬老会や忘年会では、鍋パーティーなど新たな取り組みも行い、ご好評いただきました。デイ便りも職員の想いが詰まった味のあるものに仕上がっており、「毎月楽しみにしています」とおっしゃってくださるご家族も多いです。

3) 余暇活動

今年度、余暇活動についてのアンケートを実施し、趣味や特技、今デイサービスに求めている活動内容等をお聞きしました。そして集計結果を参考に、日々の関わりの中に取り

入れてきました。そうして個別活動の充実化も少しずつはしてきたのですが、来年度、さらに掘り下げ、サークル活動の導入や個別の活動の充実が図れるようにしていきたいです。

4) 介護者支援・家族懇談会

送迎時、朝にはご家庭でのご様子を伺ったり、お送りの際にはデイでのご様子をお伝えしたりと、ご家族との日々の関わりを大切にしてきました。また、介護をする上での悩みを打ち明けてくださった際には、お気持ちに十分配慮しながら、専門的立場からの助言を行ってきました。その為に職員もより介護の知識が必要とされましたが、心からご本人とご家族の事を想い、職員同士でも相談し合う事で、知識を深めていく事が出来ました。

家族懇談会にも多くのご家族に参加していただき、かねてからご希望のあった食事をしながらの交流会や、法改正についての説明会なども取り入れることができました。

5) 職員教育

職員の入れ替わりも多く、募集をしてもなかなか応募が無い苦しい時期もありました。その後新たな職員が加わり、職員の連携の大切さを改めて実感した一年でした。その為、職員間の担当制を取り入れたり、リーダー会議を導入したりといった新たな取り組みも行い、効果的な指導環境が整うよう工夫してきました。

6) 内部・外部研修

職員体制上の問題もあり、今年度は認知症実践者研修への参加が1名、認知症実践リーダー研修への参加が1名のみと、積極的な参加が出来ませんでした。法人内研修には体制を工夫し、なるべく対象者が出席出来るようにしました。それにより、参加した職員も有意義な研修を受ける事が出来たのと同時に、デイサービスの職員以外の職員との交流も図れ、その後の仕事への活力になった事と思います。内部研修では介護保険制度や法改正等の研修も取り入れ、今後求められるデイサービスの在り方を考える事が出来ました。

【 福田町デイサービスセンターⅡ 】

1、利用者動向

昨年度、大きな利用者減の穴埋めが出来ず、例年に比べて大幅に利用率が下がってしまった状況がありました。今年度は他事業所の皆様から意見を頂いたり、デイサービス職員で臨時会議を設け、具体的な方法を検討したりと、様々な対策を考え、実践してきました。具体的には、体験利用を無料化したことで、今年度は希望される方も多く、ケアマネジャーからの問い合わせも増えました。また、短時間の受け入れや、認知症対応型独自の散髪対応や手ぶらサービスを開始した事で、ご利用者、ご家族からの希望も多く、「ありがたい」「助かっています」等との声も頂きました。そのような事もあってか、今年度はキャンセル数が減少しました。新規ご利用者も、Ⅱ型への移行等により少しずつ増加、年度後半から利用率が上昇傾向になってきました。「認知症対応型」という名称に不安を感じ、利用開始を躊躇するご家族も多い現状も見えてきました。来年度は、さらに「認知症対応型」についてご理解いただくために、見える化の方法を検討していきます。

1) 介護度別年間利用回数・年間利用率・年間収入額 ※定員：12名

介護度別 利用回数	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	利用回 数合計	年間 利用率
2014年度	548	650	477	251	327	2,253	60.8%

2) 入退所者数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	2012	2013
開始者数	1	2	2	0	2	2	1	0	1	1	3	2	12	17
終了者数	0	0	1	1	1	0	0	1	1	2	0	2	19	9

3) 利用開始理由

開始理由	交流目的	ロコミ	家族の介護 負担軽減	見学体験で 気に入った	入浴 目的	認知症進 行予防	デイIより 移行
人数	2	1	2	2	1	1	8

4) 利用終了理由

終了 理由	入院	死去	入所	本人が希 望しない	家族が希 望しない	リハへ 移行	転居	その他
人数	1	4	0	0	0	0	0	4

5) 要介護度別利用者数(年間) 年間利用者数：2,253人(実人数：24人)

	要支援1		要支援2		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5	
	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実
利用 人数					548	6	650	5	477	7	251	3	327	3
割合					24.3	25	28.8	20.8	21.1	29.1	11.1	12.5	14.5	12.5

2、具体的な取り組みについて

1) 環境整備

今年度、環境づくりに力を入れてきました。昨年度まで活用出来ずに眠っていたソファや和室の再活用を検討し、毎日、ご利用者に合わせてレイアウトを変え、居心地良く落ち着いて過ごして頂けるように努めました。一般型から移行して来られた方は特に、もともと過ごしていた席への意識もある為、より居心地の良い環境を準備出来るように考えました。現在ではお一人おひとりにお好きな場所ができ、過ごして頂いておりますが、まだまだ課題が多く、さらに過ごしやすい環境づくりに取り組んでいきます。

2) 年間行事・デイ便り

職員が、積極的に写真撮影を行い、昨年よりも普段の様子分かる写真が増えました。年度末には、一年間のご様子を写真集にまとめ、ご本人、ご家族にお渡しする事ができました。来年度は、毎日の連絡帳にその日の写真を貼り付け、ご家族にお渡しできるように検討していきます。

3) 食事

2月からおかずの盛り付けを開始しました。ご利用者の役割づくり以外にも、お互いが協力する様子が見られ、笑顔も多く見られました。お便りにてご家族にご様子をお伝えしたところ、「表情がいきいきしてきた」とのご報告も頂きました。来年度も、より美味しい食事を目指していきたいと思えます。

4) 認知症ケア

毎月のカンファレンスでお一人おひとりについて細かく検討し、根拠に基づいた認知症ケアを提供できるように努めました。そんな中、何年も前よりご利用してくださっている方で、他デイを中心に利用されていた方が、福田町デイを中心に移行してくださる事になり、何よりも、職員の励みになりました。今年度作成した「課題分析シート」を土台に、来年度も、「課題分析シート」の内容を見直しながらか活用していきたいと思えます

5) 内部・外部研修

外部研修としては、認知症介護実践者研修、同リーダー研修に各1名ずつの参加となりました。職場内研修では、デイサービス全体で課題に取り組んだことで認知症ケアについての理解を全員で深めることができました。

【短期入所生活介護施設福田町】

1.利用者動向

キャンセル発生時の空床案内や延長利用の依頼、そして急な利用依頼にも応えていくことによって、7月以降は目標稼働率の94.5%を達成しています。しかし、施設入居や急な入院等で発生する長期間のキャンセルや同時期のキャンセルが重なってしまった場合の空床を埋めることが困難な状況もありました。が、3ヶ月以上等の長期利用の受け入れと共に、病院からの退院後、ご自宅で安心して生活するために1週間から半月程度と長めに利用して生活動作を自信のあるものにしてからご自宅に戻る、というご利用の方もいらっしやったことや田子のまちと協力することでご希望の期間への対応がより可能になったことも安定した稼働率に繋がったと思えます。

1) 利用者実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	30	31	30	31	31	31	30	31	31	31	28	31	366
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
利用実人数	78	68	75	79	80	80	78	76	76	70	68	75	903
利用延人数	559	582	562	601	609	596	600	599	612	611	551	604	7,086
利用率	93.2	93.9	93.7	96.9	98.2	99.3	96.8	99.8	98.7	98.5	98.4	97.4	97.0
平均介護度	2.77	2.94	2.9	2.68	2.79	2.77	2.78	2.76	2.92	2.9	2.76	2.79	2.81

2.取組について

1) 『また来たい』と思っただけのショートステイを目指す

① 『暮らし易さ』について

24h シートを作成し、以前に比べてその方の生活リズムや意向に合わせたケアができてきています。今後はシートを更新しながら、内容を充実させていくと共にシートを活用したケアを統一していきたいと考えています。そして、両ユニット間での情報伝達や職員間の意見交換が不十分でケアが曖昧になっている部分があったため、今後円滑に情報を共有し、意見交換を行い、統一したよりよいケアに繋げていきたいと思ひます。

くつろげる空間づくりが進んではいるものの、フロア等まだまだ進んでいない部分も多いので継続して進めていきたいです。

今年度、法人内研修以外の研修にはほとんど参加することができなかつたため、参加できるような体制にし、ケアに生かしていけるようにしていきたいと思ひます。さらに職場内での学習の機会を持ち、根拠に裏付けされたケアを行えるようにしていきたいです。

② 『暮らし甲斐』について

毎月の行事を行うことができました。はじめは計画の立案に苦慮していましたが、回数を重ねるうちに慣れ、「楽しかったよ。」「泊りでもこんなことするんだね、良かったよ。」と、ご利用者からもご好評の言葉をいただき、ぜひ今後も継続していきたいと思ひます。さらに、昼食前の口腔体操や日曜日にレクリエーションを行っていますが、今後はご利用者にも伺いながら、行事のある特別な日だけではなく、日々の余暇活動を充実させていきたいと考えています。

誕生日カードを作成し、誕生日のお祝いをすることができました。「恥ずかしいねえ。」と話されながら、皆さん笑顔で写真撮影に応じてくださり、やはり誕生日をお祝いするということは大切なことなのだと思ひました。今後も継続していきたいと思ひます。

③ 『暮らしを繋ぐ』について

介護記録が食事や排泄のみの記録になってしまい、ご利用中どのように過ごされているのか、どのようなケアを行っているのかの中身が見えづらひように感じています。わかりやすい記録になるよう改善が必要だと考えています。そして、予定していたショートステイの広報紙が途中まで作成しながら発行までには至りませんでした。初めて行う取り組みは非常に時間や手間のかかる事ではありますが、情報を発信していくことが必要であると思ひますので、来年度は発行したいと思ひます。

今年度より送迎を介護職が行うことで、車内でのご利用者とのコミュニケーションやご家族との関わりも増え、今まで知らなかつたご利用者のことを知ることができました。ご利用者一人一人のご自宅の駐車場所や周囲の状況を「送迎情報シート」に書き込み、安全に送迎できるようにしています。

2) 目標稼働率 94.5%(緊急ショート専用個室 1 室確保)

稼働率平均 97.0%と達成できました。介護者の入院等による緊急利用に対応できたことや利用延長の依頼を積極的に行ったことが目標達成に繋がったように思います。長期施設の入居や入院等で長期間のキャンセルが出てしまうことは避けられないため、新規のご利用者、ご家族に安心して、定期的な利用に繋がられるよう努力していきたいと思っております。さらに、田子のまちのショートステイと協力し、受け入れや延長の要望に応えていきたいと思っております。

【ヘルパーステーション宮城野の里】

1. 利用者動向

1) サービス種類別 利用者数

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
介護 保険 サー ビス	要支援 1	21	20	21	21	20	20	20	22	23	23	21	21	253
	要支援 2	6	6	7	7	8	9	10	9	11	10	11	11	105
	小計	27	26	28	28	28	29	30	31	34	33	32	32	358
	要介護 1	18	18	17	15	16	13	13	15	16	15	15	13	184
	要介護 2	7	6	6	6	8	7	9	8	9	7	8	9	90
	要介護 3	2	2	2	4	2	2	2	3	3	3	3	3	31
	要介護 4	5	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	4	42
	要介護 5	2	2	2	2	3	3	2	1	3	3	3	4	30
	小計	34	32	31	31	32	28	29	30	34	31	32	33	377
	① 合計	61	58	59	59	60	57	59	61	68	64	64	65	735
② 独自サービス	6	7	6	6	7	6	6	10	6	6	5	8	79	
③ 市委託事業	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	20	
① ②③合計	69	67	67	67	69	65	67	73	75	71	70	74	834	

2) 月間延べ件数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成 26 年度予防	165	168	157	178	160	175	192	165	199	187	177	196	2119
平成 26 年度介護	433	472	454	479	461	396	406	432	580	546	516	612	5787
平成 26 年度合計	598	640	611	657	621	571	598	597	770	733	693	808	7906

3) 利用開始・終了者数

○利用者開始者数

○利用者終了者数

	内部 依頼	外部 依頼	委託 事業	合計	転居	入院	入所	死去	他	合計
4月	3			3	1		1			2
5月	2			2						0
6月		2		2						0
7月	3			4		1	2			3
8月	2			2				1		1
9月	1			1		1		1		2
10月	3			3					1	1
11月	3			3				1		1
12月	3			2						0
1月	2			2						0
2月				0	2					2
3月	3			3	1				1	2
合計				27						14

4) 開始理由

掃除支援	買い物支援	調理支援	入浴介助	送り出し	排泄介助	その他
8名	3名	7名	3名	2名	3名	1名

5) まとめ

今年度も毎月平均2名程度新規依頼がありました。内部居宅からの新規依頼が多かったのですが、営業活動がなかなかできなかった事もあり外部居宅からの依頼が少ない状況でした。

2. 総括

1) 個別ケアの実践

ご利用者のケアカンファを密に行い、一人一人の目標を把握したうえでケアすることが出来たと思います。しかし、今年度は人員不足ということも有り、ケアマネ主催のサービス担当者会議にヘルパーを参加させることが出来ませんでした。

独自サービスのあり方については、ご利用者のご家族へのサービスに入るなど、これまで実践してきてなかった新しいサービスを提供することができ、家族支援にも役立つことが出来たと思います。

2) 人材育成

認知症や精神疾患を患っているご利用者が多く、専門性の高いスキルを求められる1年でした。認知症や精神疾患の方の対応スキルを今後伸ばしていかなければなりません。

今年度は外部研修へ参加する事が出来ませんでした。来年度は知識を習得するためにも積極的に参加していきたいと考えております。

3) 安定した人材の確保

今年度は事務所が移転し、福田町駅の目の前に広告を貼り求人をしました。また、ワーキンや母子福祉連合会などにも求人を出しておりました。宮城野の里入口に貼っていたポスターを見たところ応募があり、10月に登録ヘルパーを1名採用する事が出来ましたが、やはり人員は不足しています。今後も継続して人材の確保に努めます

4) 収益アップ

年間3千万円の収入を目標にしておりましたが、上半期は要介護の方のキャンセルが多く、新規利用は要支援の方が多かったこともあり、なかなか収入が伸びませんでした。下半期、ターミナルケアを必要とされる方や、認知症対応が必要な方等の新規利用が多くあり、訪問回数も増加し、月の目標収入を超えることが出来ました。

【ケアハウス宮城野の里】

1.入居者動向

1)入居年数

(2015.3.31)

	0～5年	6～10年	11～15年	計
男性	5	0	1	6
女性	17	3	4	24
計	22	3	5	30

2)年齢状況

年齢(歳)	61～65	66～70	71～75	76～80	81～85	86～90	91～	合計	平均年齢
男性	0	0	0	1	1	3	1	6	87.17
女性	0	1	3	3	6	8	3	24	83.76
合計(人)	0	1	3	4	7	11	4	30	84.0

3)退所者数・理由内訳

退所後	特養	死亡	他施設	入院	合計
人数(名)	2	0	2	2	6

4)要介護認定者・内訳

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数(名)	12	2	4	0	2	0	1	21

5)介護保険サービス利用者数・内訳

サービス 種別	訪問介護		通所介護	通所リハ	訪問入浴	訪問看護	居宅療養 管理指導	合計
	生活援助	身体介護						
人数(名)	13	6	6	3	1	1	6	36

- 6) 入院者：8名（内訳：白内障手術3名、心不全2名、肺炎1名、大腿部骨折1名
痔手術1名、転倒による硬膜化血腫の除去手術1名）
- 7) 車椅子利用者：2名
- 8) 入居待機者数：60名（2015.3現在）

2.取り組み

高齢化に伴い、体調管理やメンタルケアの必要性が高まってきました。高齢による様々な変化や症状に早期に対応できるよう、お一人お一人の心身状態の把握、生活の継続性について取り組みました。

1) 個別処遇について

ご入居者1人1人の思いを直接聞くために職員が各居室へ訪問し聞き取りアンケートを実施しました。体調変化が見られた際にも、「ケアハウスに住み続けたい」という、ご入居者の意向を尊重したサポートを心がけました。

2) 健康管理について

ご入居者の心身の状態把握をするため、毎朝、居室訪問を行いました。急変時は、主治医への連絡指示に基づいてスムーズに医療機関へつなぎ、早期発見、早期対応にて重篤化を防ぐことができました。健康づくり、介護予防の取り組みである昼食前の健康体操については実施できない日も多かったため、次年度は継続できるようにしたいです。

3) 趣味活動、グループ活動について

自治会おもと会主催での誕生会を3,4か月に1回実施し、ご入居者の誕生をお祝いしました。コーラスめだかの活動は、週2回（火・金）コーラスの練習を実施していましたが、高齢化による参加率の低下もあり、12月より週1回（金）のみ実施しています。宮城野の里まつりでは、コーラス参加の有志を集って素敵な歌声を披露する事ができました。カラオケサークルやケアハウスでの喫茶店を始め2年目を迎え、ご入居者の楽しみのひとつとなっています。施設主催での親睦会、田子のまち入居者との交流会も実施し、行事参加への楽しみを増やす事で暮らしの楽しみとなれればと思います。

3.ご家族（保証人）、入居待機者とのつながり

ご入居者に変化が見られた際には、ご家族（保証人）へ連絡、報告し、必要時は面会を実施しました。また、入居がスムーズに行えるよう年1回のアンケート調査を実施し

状況把握に努め、入居が滞る事が無いよう努めました。

4. 職員のスキルアップに向けて

ケアハウス業務に関わる研修へ積極的に参加し職員のスキルアップにつなげる事ができました。今後も、意欲的に研修へ参加していきたいと思ひます。

研修参加実績)

- 2014.4 宮城民医連 介護職部会 総会及び研修会
- 2014.6 民医連学校「民医連の歴史と綱領に基づいての実践」講師
- 2014.10 第28回東北ブロック軽費老人ホーム施設長及び職員研修大会（宮城）
- 2014.12 仙台市認知症実践者研修
全国老人福祉施設大会（仙台大会）

【居宅介護支援宮城野の里】

1. 利用者動向

① 請求件数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年度
介護	118	118	132	129	132	131	128	133	128	125	127	126	1527	1451
予防	3	4	6	6	5	5	5	5	6	6	6	6	63	60
計	121	122	138	135	137	136	133	138	134	131	133	132	1590	1511

② 利用受付

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年度
新規	7	4	5	5	4	2	7	6	2	2	5	7	56	37
終了	1	4	2	3	4	2	3	7	5	2	2	4	39	32

新規が一番多いのが3月4月、次が10月11月というのは前年度同様です。利用者数を増やすには、この時期のスケジュールにゆとりを持たせておくことが重要と考えます。

③ 新規紹介者

紹介者	福田町包括	高砂包括	本人	家族	知人	薬科大	坂病院	計
件数	41	4	0	7	1	1	2	56

包括次第であることは明白ですが、ご本人・ご家族の希望が無い限り紹介は得られないので、宮城野の里全体が、地域の方々からそれなりの信頼が得られていることを感じます。

病院からの急な依頼で、体制上難しく、受け入れることが出来なかったケースがありました。入院期間の短縮化により、不安定な状態での在宅復帰者が増えているように感じます。次年度は5名体制になりますし、急性期病院からの信頼も得ていきたいと思ひます。

④ 契約終了理由

理由	死亡	特養	小規模多	グルホ	特定	老健	要支援	長期入院	移転	他	計
件数	22	3	1	1	2	1	3	4	2	0	32

前年度よりも亡くなられた方が3%増加、終末期の方の受け入れ増の影響が考えられます。

2. 苦情・要望への取り組み

苦情は、利用者に寄り添ったケアマネジメントの為、毎回事業所全体で取り組みました。より生の声が聞ける様、満足度調査も工夫して実施しました。また、利用者や家族からの内部・外部も含めた各サービス事業所に対する要望・情報の発信に努めました。それによりサービスの質が上がり、利用者・家族の満足度が上がり、内部事業所では収益もアップするのを実感しました。地域における居宅介護支援事業所の持つ大きな役割を再確認しました。

3. 支援困難ケースの対応

下記①の Aさんは宮城野区の担当者も区で一番と認める、最も支援困難を感じた方でした。しかし、同時に多くのことも学びました。それは、生活する上で最低限必要なものがどこにも無い時、その隙間を埋める為、ケアマネがやむを得ず本来役割を超えた支援をすることが必要な時があります。しかし、課題や問題を顕在化させない為には、利用者と一対一の関係で本来役割以外の支援を担うのではなく、事業所全体で議論 → 本来役割とそれ以外を明確に区別・整理 → 隙間の存在を明確に包括（行政）等に問題提起 → 当座その場をしのぐ手段として誰が何を担うか複数の関係者と話し合う → 政策上の課題として議論のテーブルにのせてもらえるようにする、という手続きを踏むということです。

支援困難ケース受入れ状況・類型（→：利用継続中 ×：利用終了 ★：困難時期脱出）

氏名	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	計
経過	×	→	×	→	×	→	→	→	→	→	→	→	→	→	×	×	×	→	→	→	20件/年
類型					★	★		★		★		★		★	★	★	★		★		脱出10件
認知症	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○	○		16
独居（日中独居）	○	○	○	○			○		○	○	○				○				○		10
本人がサービス拒否	○				○	○	○			○			○	○			○				8
医療依存度が高い			○	○	○	○		○	○						○		○	○		○	10
在宅ターミナル期			○												○						2
複数の疾患を合併					○			○			○	○	○	○							6
精神障害	○			○		○	○		○	○			○	○						○	9
状態の変動					○		○	○	○					○					○	○	8
サービスの過剰要求											○										1
本人から苦情が多い											○										1
本人の暴言・暴力							○						○								2
不衛生な居住環境	○					○	○														3
キーパーソンいない	○						○		○			○	○								5

介護力不足	○	○	○	○	○		○			○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	16
家族の介護協力が無い	○						○			○		○								○	5
家族がサービス拒否		○	○						○												3
高齢者世帯	○		○		○		○			○	○										7
虐待(疑い)									○											○	2
家族が精神障害											○								○		2
家族から苦情が多い										○											1
家族内の意見不一致	○		○				○			○											4
家族関係が悪化	○		○	○		○		○	○		○									○	9
経済的問題	○	○	○	○			○										○	○		○	9
事業所と関係悪い										○											1

【福田町地域包括支援センター】

2014年度の総括

①予防プラン件数 ()委託件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
135件	135件	138件	142件	139件	144件	146件	142件	149件	148件	155件	151件
(18)	(21)	(23)	(24)	(23)	(25)	(26)	(26)	(24)	(23)	(28)	(27)

②相談件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
100件	96件	76件	66件	70件	100件	87件	70件	97件	90件	81件	127件

③介護予防教室

全20回 6会場 延べ333名

テーマ：認知症のテーマを各会場開催、各地域で啓発活動を実施しました。高砂地区社協の心の健康づくり懇談会の取り組みの一環として地区社協の共催を得ることができたため新たな参加者が増えました。

会場：田子西復興公営住宅の集会所で開催し、包括のPRと実態把握を進めるうえでのきっかけを作りました。

講師：ご利用者に多く関わっている生活習慣病(糖尿病)専門医のまひと内科院長に初めて依頼しました。生活習慣病の予防について分かりやすい内容で好評を得ることができました。

④田子西復興公営住宅への支援

地域の関係機関(田子中、田子小、市民センター、高砂社協、第1民協、田子6町内会、区社協)と支援者会議で支援内容について協議し連携して支援することができました。また自治会発足後は自治会との関係づくりにも力を注ぎました。

⑤認知症サポーター養成講座

商店や郵便局、銀行なども巻き込んで開催し認知症の啓発とネットワークづくりのための活動にも力を入れてきました。

⑥田子10町内防災訓練

防災訓練に向けての会議に出席し各町内の防災組織の情報収集ができました。しかし災害時に各関係団体と連携した取り組みや役割の確認などが不十分でした

⑦ 包括ケア会議の開催

○開催回数 3つの小学校区で各2回、全体会議を1回、計7回開催しました。

○参加団体 高砂地区町内会連合会、第1第3民生委員児童委員協議会、高砂地区社会福祉協議会、高砂老人クラブ連合会、田子市民センター、小鶴老人福祉センター、鶴巻コミュニティセンター、岡田コミュニティセンター、グループホームデイジー、セントケア小規模多機能居宅介護、くつろぎデイサービス、ステラパークス仙台、色川内科医院、東北薬科大病院、宮城野区役所

○内容

認知症の事例などで地域でできることなど意見交換しました。そして地域の課題を共通認識しました。

⑧ 関係団体とのネットワーク構築

第1、第3民児協定例会、高砂老人クラブ連合会理事会、田子を愛する住民塾、田子西地区復興住宅にかかわる支援者会、高砂在宅ケア連絡会、グループホームデイジー推進会議、セントケア小規模多機能居宅介護推進会議、小規模多機能居宅介護ゆづる推進会議などの会議に参加し関係団体とネットワークを深めました。

⑨地域ケア会議開催

10月と3月に2回開催しました。

震災から4年が経過した地域の状況は、仮設住宅から住宅を再建し戻った方、復興公営住宅へ引っ越された方など高齢者を取り巻く環境は変化してきました。

予防プラン件数が増えたことと、社会福祉士の専門性を活かした活動により、新たな高齢者との関わりの中で地域の根差した活動ができたと思います。

今後は国の進めている包括ケアシステムの構築に向け行政、地域、法人と連携して取り組んでいきたいと思っています。

【医務部門】

1. 目標

ご利用者に安心して過ごしていただき、ご自宅での生活が継続できるよう支援します。

2. 取り組み

2) 関係機関との連携

ご利用者が安心して過ごしていただけるよう、必要時にご家族、主治医、訪問看護師な

どとの連携を図りました。介護職とは常に連携し、十分な情報交換を行うようにしました。

2) ご利用者対応

利用者の状態を的確に判断できるよう医務会議では『高齢者に良く使われる薬と注意すべき副作用、対処法』、『高齢者の脱水予防ケア』、『認知症高齢者のBPSDへの対応』などの勉強会を実施しました。

3) 緊急時や急変時の対応、感染防止対策

救命救急の講習会を6月に実施し緊急時や急変時に対応できるようにしました。また感染防止対策について、嘔吐時の対応は実際にできるよう各部署で確認するようにしました。今年度も全職員にインフルエンザ予防接種を実施し感染防止対策を強化しましたが、勤務中に職員がインフルエンザを発症してしまい、予防的にタミフルを服用していただいたご利用者が数名いました。

4) 薬の管理

間違いがないように薬の管理を徹底しましたが、臨時処方薬で間違いがありました。誤薬の事故も1件ありました。マニュアルの再確認、徹底を図りました。

5) 機能訓練

ご利用者の目標が達成できるよう介護職と協力しました。適宜、個別機能訓練プロジェクト会議で話し合いを持ちました。グループでの訓練の他にできるだけ個別の希望をお聞きして対応できる体制にしました。

【食養部門】

1、嗜好に応える食事について

1) フロア訪問

食事を召し上がっている方に料理の感想を伺い、調理の参考にする目的でフロア訪問を行いました。業務の都合、日曜日の訪問が多く、ショートステイに35回伺う事が出来ました。実際に調理している職員が、直接意見を聞いて参考になりました。

2) 喜んでもらえる、献立を取り入れる

「朝食にパンを食べたい」、「昼にラーメンを食べたい」などの要望が食事委員会や普段の職員と入居者様の会話の中で要望が出され、委員会や食養会議で提供方法について話し合って実現することができました。現在は、通常の献立に定期的に取り入れており、喜ばれています。最近ではラーメンのスープや麺の種類について多様な要望をいただいております。

2、介護食について

介護食についてのテレビ放送を見る学習会を開いたり、凝固剤のメーカーに依頼して厨房で新しい凝固剤の調理方法を全員で学習することが出来ました。

3、適時適温な食事

1) 盛り付けについて

従来の中央配膳から各フロアでの盛り付けに変わるように取り組む年でありましたが、年度末にようやく認知症対応型デイで取り組むことが出来ました。次年度は、まだ取組んでいない事業所で取り組めるよう話し合いを進めていく必要があります。

2) 食器の購入

食事委員会で検討して、おやつ用の皿を購入することができ、おやつに合わせた食器に盛り付けできて好評でした。

4、今年度の行事食

月	行事名	献立
4	観桜会	ふくさ寿司、白魚と京人参のかき揚げ、独活と海老の木の芽味噌、桜ゼリー、山菜の清汁
5	宮城野寿司開店	握りたてお寿司の食べ放題
6	ステーキ祭り	焼き立てステーキとバイキング料理
7	七夕会	梅御飯、茄子と帆立の南蛮漬け、豚じゃが金平、オクラとベーコンくずし奴、ヨーグルトゼリー、茶そば汁
8	ビアパーティー	焼き鳥、帆立のバター焼き、フランクフルト、枝豆
9	敬老の祝い膳	二色ご飯、刺身の盛り合わせ、茶碗蒸し、カニもずく寄せ梅酒ゼリー、清汁
10	芋煮会	芋煮汁、おにぎり、卵焼き、一夜漬け、梨
11	秋刀魚炭火焼大会	秋刀魚炭火焼、ゆかり御飯、けんちん汁、柿
	宮城野寿司開店	握りたてお寿司の食べ放題
12	クリスマス会	ロールパン、ビーフシチュー、青梗菜とエリンギの炒め物 気まぐれサラダ、ルージュブランゼリー、コーンスープ
	大晦日	ナメタ鰯の煮付け、お煮しめ、おかか和え、なめこ汁
1	お正月	お雑煮、あんこ餅、手作りのお節料理（鱈の照り焼き、黒豆、有頭海老酒煮、数の子、鶏肉の八幡巻き他
	新年会	浅蜷炊き込みご飯、刺身の盛り合わせ、カニ真丈磯部揚げ 茶碗蒸し、マジックオレンジゼリー、三色茶そば汁
3	雛祭り	ちらし寿司、独活の黄身酢かけ、蕨の甘辛炒め、浅蜷の清汁

【事務部門】

1. 目標

地域と施設、業務と経営を繋ぐ架け橋になる。

2. 取り組み

1) 各事業所との連携

予算、補正予算作成時には各事業所と打合せを行い、より正確な予算を作成することが出来ました。

また、職責会議や全職会議で収支の状況、予算達成状況、光熱水費の削減状況を報告し、職員への意識付けを行うことが出来、特に光熱水費では値上がりしたにも関わらず使用料、料金ともに昨年度よりも抑えることが出来ました。

2) 接遇

外部研修に参加したり、各自で接遇・マナーを向上するよう努めましたが、お互いに声を掛け合ったりなどの定期的な振り返りが行えませんでした。

3) 実務

事務員内での情報の共有化、現在の業務の進捗状況、業務連携を行うことで、作業の効率化を図ることが出来ました。

また、施設内の事業や介護保険制度の自己学習を進め、スムーズに事業所につなげることが出来ました。

4) 各種運動

国会要請やジャンボリー、福祉ウェブ、辺野古支援連帯行動など各種運動に積極的に参加し、現場職員の運動への参加を組織することもできました。

委員会

【在宅事業所連携委員会】

1. 委員会の目的

この委員会は、宮城野の里にある在宅介護7事業所間の風通しを良くする為に、2013年度から活動を開始しました。委員は、7事業所の各職責者7名で編成しています。自事業所の課題、他事業所への意見や要望、地域の情報を持ち寄って話し合い、その結果をスピーディーに現場に活かすのが、各委員の使命です。

2. 活動内容

① 7事業所間の連携・協力体制の構築と質の向上

ご利用者が自宅での生活を続けていく上で、ご利用者、ご家族、主治医、ケアマネ、各介護サービス事業者などが「繋がる」ことがとても重要であり、それによりご利用者やご家族は格段に暮らしやすくなります。

宮城野の里に7つの事業所がある意味「宮城野の里の価値」を考え、相互に作用する中で、最大限にケアの効果が発揮できる様、連携・協力体制の構築と、互いの事業所の質を高め合う取り組みを行ってきました。忌憚の無い意見が飛び交う中、悔し涙が流れてしまうこともありましたが、明らかにグットネスイピソードが増えていく中で、取り組みの効果を実感することができました。

② 地域向け介護教室の企画

7つの分野におけるそれぞれの視点を活かし、地域向け介護教室について検討しました。「住み慣れた地域で暮らし続けるには…」をテーマに次年度5月から隔月に定期開催する予定です。老若男女を問わず、介護をしている人にも、していない人にも来ていただき、交流する中で「地域の社会資源としての宮城野の里の役割」を発揮していきたいと考えています。

【広報委員会】

- ・目標である「役立つ広報活動」は年間3回の広報誌発行で出来たと思います。
- ・年4回みどりの風を発行することとしていましたが、広報誌を作成する時期が遅れてしまい年3回の発行となってしまいました。
- ・委員会メンバーが各事業所の職員だった事や、風の音から異動してきた職員もおり、色々な情報を得ながら活動することが出来ました。
- ・昨年度、まったく進まなかったHPは順調に更新することが出来ました。
- ・パンフレットについては、今年度完成には至りませんでした。ひな形を作る事はできました。来年度に繋がります。

【事故・感染症・身体拘束、虐待防止委員会】

- ・事故、苦情報告書の見直しを行いました。報告書を通して原因を整理し対策が考えられること。同様の事故や苦情が起きないように、今後の向上に繋がられること。そして、仙台市への事故報告書の内容も網羅している様式にしました。7月より各事業所で使用開始できました。
- ・デイサービスでの実地指導の際、転倒、溺水などの項目ごとのマニュアルが必要とのご指摘をいただいた事もあり、事故マニュアルの見直しを行いました。1月末より転倒、誤嚥、溺水のマニュアルを統一して使用開始する事ができました。その他、車両事故や離設時の対応マニュアルの確認も行いました。
- ・身体拘束、虐待防止のマニュアルの見直しも行う予定でしたが、途中になっていますので、来年度も引き続き検討していきたいと思っています。

【地域連携ボランティア委員会事業報告】

1. 平成26年度の目標

「地域を知る・見る・行く」

今年度は地域との関わりを積極的に行うことを目標にし、町内会の夏祭りや保育所の行事への参加はしましたが、打ち合わせや職員のボランティアへの意識に関しては今後の課題として考えていきたいと思えます。

2. 活動報告

①地域活動への参加

横丁町内会夏祭りにショートステイのご利用者と、職員のボランティアを募り参加しました。また、保育所のクリスマス会にショートステイのご利用者とお出かけ参加しました。

②各部署のニーズを知り、受け入れ計画を立てました。

今年度、新しいボランティアの受け入れを個人・団体共に行いましたが、各部署のニーズや受け入れ計画まではできませんでした。ボランティアに継続的に来てもらうためにも、来年度以降の課題です。

③ボランティアに関する学習

5月に風の音のボランティアコーディネーターを講師に、ボランティア受け入れの状況や職員の対応などについて委員が学習しました。今後委員だけでなく職員全体でのボランティアに対する意識づくりが大切だと感じています。

【食事委員会】

今年度は、おやつ用食器の購入、ご飯茶碗の種類を多くする等、用途に合わせ「見た目も良く、美味しく召し上がって頂く器」を揃えることが出来ました。また、選択食の内容の充実、献立、味付けなどご利用者、ご入居者に満足して頂ける食事の提供に尽力してきました。現場での「盛付け」についても認知症対応型デイサービスで実現することが出来ました。食事アンケートは内容を検討し、実行しました。

【労働安全衛生委員会】

1. 目標

職場での職員の安全と健康を確保し、快適な職場環境を作ります。

2. 取り組み

1) 委員会の開催

毎月委員会を開催し、職場巡視することにより、快適な職場環境作りのために適切な提言ができる委員会の組織作りをすることができたと思えます。

2) 職場巡視

毎月実施することで、ストレッチなどの必要性について話ことができました。パソコン環境(照度)は改善できませんでした。

3) 職員の腰痛予防、肩こり予防のためのストレッチ

2月の全職員会議で学習会を実施しました。予防が大事であり取り組みを続けていきます。

4) 職員に合った椅子の購入

椅子の実態を把握しただけで終わってしまいました。

5) サービス残業、持ち帰り残業のアンケートの実施

正規職員のみ実施し、回収率は84%でした。

あきらかに仕事をしているのに超勤をつけない人がいるなどの問題点を職責会議で報告し、職員にも超勤は事前申告ではあるが、どうしても伸びてしまったら、事後に報告してもよいことを伝えることができました。残業やサービス残業をなくすような意識づけが出来たと思われまます。有給休暇についてのアンケートも実施し、有給制度について知らせることができ実態を把握することができました。

5) 健康診断について

結果により再検するよう呼びかけましたが、28名中8名の再検査の報告にとどまりました。

2月の全職会議で、『心の健康チェック』を実施し、ストレスのサイン、セルフケアについて説明することができました。

【社会保障委員会】

- ・定例で会議を開催し、目標であった学習をほぼ毎回行うことが出来ました。
憲法について「日本国憲法を口語訳してみた」という本を題材にしながら、担当を決めた事前学習も行い、理解を進めました。
- ・目標であった職員分の署名を集めることができました。介護保険制度の改善、介護従事者の処遇改善を求める運動を進めました。
- ・原水禁世界大会に代表者を送り出すことが出来ました。全職員会議の中で報告も行いました。カンパのための活動も積極的に行いました
- ・福祉ウェアなど社保運動に積極的に参加することが出来ました。

介護老人福祉施設 十符・風の音

2014年度は風の音が開所して10年目の節目を迎えました。これまでの高齢者支援の在り方や地域との関わりについて、各会議や研修受入、地域行事への参加、サービス公表のための調査等を行うことでより深く取り組み、振り返ることのできた1年となりました。

第9回風の音ふれあいまつりでは、500名を超える多くの方にご参加、ご支援頂き、この間の感謝の気持ちを少しでもお伝えすることができたのではないかと思います。

経営的にはかなり困難な状況が続きましたが、それぞれの部署が創意工夫しマイナスを減らす努力をしました。ごみの削減や水道光熱費の無駄遣いを減らす等、地道な取り組みも並行して行っています。デイサービス、居宅事業においては実績が伸び悩む結果となりました。今後この地域でいかに利用者を獲得していくのかが一番の課題となっています。サービスの質をより高め、新たな取り組みにチャレンジする必要性を強く感じています。

2015年度は介護保険改定もあり、ますます施設運営は困難さが増すと予想されます。それでも、ご利用頂く皆様にご満足頂けるような支援の在り方を職員総出で考え実行していきたいと思っています。

I 事業規模

1) 長期入居

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
定員	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
延利用者可能数	1,500	1,550	1,500	1,550	1,550	1,500	1,550	1,500	1,550	1,550	1,400	1,550
延利用者実績数	1,470	1,550	1,492	1,485	1,542	1,480	1,534	1,500	1,525	1,514	1,399	1,537
残受入可能人数	30	0	8	65	8	20	16	0	25	36	1	13
一日当受入可能残	1.0	0.0	0.3	2.1	0.3	0.7	0.5	0.0	0.8	1.2	0.0	0.4
利用者/日	49.0	50.0	49.7	47.9	49.7	49.3	49.5	50.0	49.2	48.8	50.0	49.6
利用率	98.0	100.0	99.5	95.8	99.5	98.7	99.0	100.0	98.4	97.7	99.9	99.2
2014年度収入	19,757,370	20,329,654	19,566,615	19,582,766	20,369,510	19,417,005	20,055,975	19,736,190	20,171,771	20,184,721	18,643,715	20,504,723
利用者実数	49.0	50.0	49.7	47.9	49.7	49.3	49.5	50.0	50.0	49.0	50.0	49.0

2) ショートステイ（短期入所）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
定員	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
延利用者可能数	600	620	600	620	620	600	620	600	620	620	560	620
延利用者実績数	540	577	583	595	598	590	642	590	606	563	488	591
残受入可能人数	60	43	17	25	22	10	-22	10	14	57	72	29
一日当受入可能残	2	1	1	1	1	0	-1	0	0	2	3	1
利用者/日	18	19	19	19	19	20	21	20	20	18	17	19
利用率	90.0	93.1	97.2	96.0	96.5	98.3	103.5	98.3	97.7	90.8	87.1	95.3
2014年度収入	6,865,550	7,614,600	7,586,862	7,615,160	7,834,839	7,592,010	8,356,357	7,822,421	8,037,360	7,438,260	6,367,080	7,771,583
利用者実数	85	79	90	79	80	105	115	108	84	82	96	102

3) デイサービスセンター木の実(通所介護)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	26	27	25	27	26	26	27	25	25	24	24	26
定員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
延利用者可能数	780	810	750	810	780	780	810	750	750	720	720	780
延利用者実績数	639	682	625	667	632	621	673	614	646	584	569	603
残受入可能人数	141	128	125	143	148	159	137	136	104	136	151	177
一日当受入可能残	5.4	4.7	5.0	5.3	5.7	6.1	5.1	5.4	4.2	5.7	6.3	6.8
利用者/日	24.6	25.3	25.0	24.7	24.3	23.9	24.9	24.6	25.8	24.3	23.7	23.2
利用率	81.9	84.2	83.3	82.3	81.0	79.6	83.1	81.9	86.1	81.1	79.0	77.3
2014年度収入	6,456,108	6,720,103	6,132,675	6,481,285	6,191,927	6,179,235	6,689,269	6,110,070	6,446,735	5,747,005	5,498,530	5,842,010
利用者実数	75	75	73	74	70	68	71	73	72	70	71	71

4) 居宅介護支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数(うち予防)	38(3)	35(3)	36(2)	37(2)	41(2)	39(2)	46(3)	45(3)	44(3)	46(3)	44(4)	45(3)
2014年度収入	445,540	419,130	426,180	580,830	593,630	568,830	675,050	649,000	650,010	661,040	613,780	647,010

5) 予算対比

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予算合計収入	35,007,000	36,186,000	34,743,000	36,186,000	34,618,000	33,685,000	34,817,000	33,452,000	34,602,000	34,369,000	31,492,000	34,647,000
合計収入	33,524,568	35,083,487	33,712,332	34,260,041	34,989,906	33,757,080	35,776,651	34,317,681	35,305,876	34,031,026	31,123,105	34,765,326
差額合計	-1,482,432	-1,102,513	-1,030,668	-1,925,959	371,906	72,080	959,651	865,681	703,876	-337,974	-368,895	118,326

II 各事業所報告

1 長期入居

1. 利用者動向

今年度は9名の方が退居され、10名の方が新たに入居されました。

看取り介護ではご本人・ご家族のご希望を第一に、職員としてできることをお手伝いさせていただき、そして多くのことを学ばせていただきました。次年度も看取り介護について研修する機会を持ち、その方らしい最期が迎えられるよう学びを深めていきたいと考えています。

また入居に関しては、空床期間を短縮できるよう、定期的に申請者の状況を確認し、実調に取り組んだことで、利府町保健福祉課の方のご協力のもと、入居判定委員会を迅速に開催することが出来ました。昨年度96.3%だった稼働率も99%近くまであげることが出来、次年度も関係部署の協力を得ながら目標達成を目指します。

【2014年度稼働率】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
可働率%	98	100	99.5	95.8	99.5	98.7	99	100	98.4	97.7	99.9	99.2

【要介護度別】

要介護5	要介護4	要介護3	要介護2	要介護1	平均介護度
25名	14名	9名	1名	1名	4.22

【保険者別】

利府町	松島町	七ヶ浜町	多賀城市	塩釜市	その他
17名	4名	6名	5名	15名	3名

1-1 施設ケアマネ

①入居者様の状態確認とご家族、介護職員、他職種の関係性を円滑に保つ取り組みについて

毎日、全入居者様の介護記録の内容、そして直接ご本人にお会いして状態を把握しました。他職種が欠席した会議は年間総会議数の43.2%と若干高い数値となっており、今後、他職種の関係性を円滑に保つためにも、解決しなければならない課題となっています。確実に全員出席できるような、日程調整、時間帯の変更を考えていく必要があります。

す。(下記表参照)

	総会議数	ご家族 参加会議数	他職種が欠席し ている会議数	定期以外の 会議数
4月	9	3	4	0
5月	9	5	2	0
6月	13	7	6	2
7月	9	6	5	0
8月	7	4	5	0
9月	10	7	5	2
10月	9	8	5	2
11月	14	10	5	3
12月	10	8	4	1
1月	7	5	2	0
2月	7	5	4	0
3月	7	6	1	1
計	111	74	48	11
割合		66.7%	43.2%	9.9%

②市町村からの認定調査委託について

仙台2件、松島2件の委託を受け行いました。

③入居者様、ご家族からの情報収集と職員間で共有について

ご家族からの情報を、サービス担当者会議若しくは、メール等を利用し各職種間で情報共有を行いました。アセスメントシート、24時間シート等のツールを活用しています。

④ご家族参加のサービス担当者会議開催について

参加率は年間総会議数の66.7%と半数を超え、比較的高い参加率となりました。

⑤入居者様の体調に合わせたサービス担当者会議開催について

定期(6ヶ月、介護保険認定更新時期、区分変更)以外の会議は1年間で11件の会議を開催しています。開催理由は看取り、退院後の状態確認、体調不良等です。状態変化に

応じて柔軟に開催できたと思われまます。

1-2 ユニットリーダー

①リーダー同士の絆を深める

会議の時間内の報告事項を短縮することで、互いに抱えている課題について話し合える時間を増やすことができました。しかし、積極的に話し合うことができませんでした。

②施設の経営の状況を把握する

事務職員より収支報告の説明を受け、経営状態の確認を行い各職場会議で他職員へ報告し、経費削減等について報告を行い率先して実行しました。

③研修のレビューを担当する

参加できるリーダーが中心となり参加しました。他施設の情報を知る機会と共に、自分

達のケアを客観的に振り返る良い機会となりました。

④働きやすい環境づくり

職員により情報の伝わり方・学ぶ速度も様々です。どのように指導したらよいのかを話し合い、職員一人ひとりの良い部分を伸ばせるよう考えています。

1-3 サブリーダー

①居心地の良い空間作り

季節感や居心地を考えながら各部署の環境を整えています。毎月、各ユニットの設えの取り組みを確認し合うことで、互いに学ぶことができました。

施設全体で使用する物品庫を清掃し、誰もが気持ちよく働ける環境づくりを行いました。どのような物がどれぐらいの頻度で使われているのか、経済的な面も意識しながら発注を行いました。

②気持ちよく入浴できる工夫

気持ちよく入浴する工夫というよりは、入浴中の事故防止・入浴介助の統一に向けた入浴マニュアル、入浴シートの作成状況の確認を行っています。個々の入浴に合わせた入浴介助を確認することで入浴中の事故を予防につながったと思います。また特浴室の清掃や環境を整え、清潔な環境で入居者が気持ちよく入浴できるよう活動しました。

③次期リーダーとして自覚をもち学んでいきます

リーダー会議に参加し、話し合いの中で物事を決める事を学んでいます。サブリーダー会議で、リーダー会議の内容を確認しリーダーと同じ方向を向いて取り組めるように、社会保障、介護保険の現状確認、施設経営等も合わせて学びました。

④会議予定日について検討します

現状の開催日では、会議参加が厳しい状態です。次年度日程を変更します。

1-4 月見囲

①入居者様一人ひとりと向き合ったケア

入居者の今生活している時を大切にし、積極的に外出や行事へ参加する機会が多くもてた1年となりました。日々の生活の中でも「入居者様にとって何が出来るか？」と職員同士話し合い行ってきました。今年度は1名の入居者とのお別れもあり、各々の職員が「果たして入居者様一人ひとりにとって良いケアが出来ていたのか？」という想いをもち、振り返る年となりました。今後も入居者様・ご家族様と密にコミュニケーションをとり、その方らしく生活できるよう関わりをもっていきます。

②入居者様・ご家族の『想い』を大切にしていきます。

ご家族とは行事への参加呼びかけ、職員それぞれが面会時にお話をする機会も持ち日頃の様子をお伝えしました。ご家族からの想いやご要望、入居者様の昔話も聞くことができ、入居者様の昔の生活を知り、今の姿があることを学ぶ機会も多かったです。しかし、ご家族の想いと入居者様の状態の違いに戸惑う事もあり、今後はどのように互いに理解し合え

るかが重要であるとも感じました。また、「想い」を知る為には、たくさんのコミュニケーションが必要であり、良い信頼関係を築いていかなければなりません。今後はより深くコミュニケーションをとる力、「想い」を引き出す力を各々身につけ、良い関係性を築いていきます。

③職員が「伝える」「聞く」「考える」を大切にしながら、ケアの統一を図る

会議では職員同士、積極的に意見を言い合い、対応を検討することができました。しかし、日頃の職員間の“報・連・相”が不足しており、入居者様やご家族へご迷惑をかけてしまう場面もありました。また、自分なりに考えず、他者へすぐ意見を求め・丸投げになってしまうところもあったように思います。まず「どうしたらよいか？」を自分なりに考え相談する、「なぜそうしているのか？」という理由も理解した上で、責任をもちケアにあたる必要があります。基本的な報・連・相が上手く且つ正確に伝達できるよう職員一人ひとりが意識し声を掛け合い、互いの想いや意見を持ちよれる工夫をしていきます。

④「くつろぎ」「ゆとり」を様々な視点から追求

リビングの設えを行い、全体的にゆとりが持てる空間、入居者様同士の適度な距離感が持て関係性も良くなったように思います。しかし、職員の忙しさが表情・行動に出てしまう、整理整頓などの環境作りも課題に残りました。心にゆとりを持てるよう、五感からの配慮も取り入れた雰囲気作りをしていきます。

1-5 日向囲

①職員同士のコミュニケーションを大切にする

入居者様の体調の面などで、職員同士のコミュニケーションの大切さを改めて感じました。その中で職員同士話合い、どのようにしていったら入居者様がより良く生活して頂けるのか、確認出来たと思います。しかし議論という部分では目標達成には至りませんでした。

②ご家族との関わりを大切に、安心して頂けるような体制作り

2013年度と比較し、ご家族との関わりはより深く持てたと思います。その中でご家族から昔のお話を伺い、これまでの生活歴をもとにケアを行っていった部分もあったので、来年度も継続していきます。2014年度は新しい入居者様が3名入居しています。ご家族との関わりはまだ十分ではありません。来年度、しっかりと関わりを持っていきます。

③情報の伝達の正確化を図る

職員一人ひとりがしっかりと自覚を持って行えたと思います。その結果がケアに繋がった部分もありました。来年度も職員全員でしっかりと意識して取り組んでいきます。又、月1回の会議で申し送りの方法、内容を確認していきます。

④入居者様に寄り添い、傾聴し希望に沿った行動を心がける

日々の生活の中で、職員一人ひとりが入居者様に寄り添う事が出来たと思います。しかし入居者様に楽しんで頂ける事を行うことが出来ませんでした。来年度は毎月入居者様の

生活に刺激を与えることが出来るように、行事などをしっかりと企画し実行していきます。日々の生活を入居者様が健康に過ごして頂けるよう、希望に沿ったケアを行っていきます。

⑤会議・行事の取り組みについて

- ・ユニット会議を月1回9時30分より開催しました。
- ・毎月1回行事(外出を含む)を開催しました。

1-6 汐囲

①入居者様の気持ちに寄り添いながら一人一人の心の声に耳を傾ける

入居者様の気持ちを大事にし、小さなことでも職員間で共有するようになってきました。その中でご家族との関わりも密になり、ご家族の希望を大切に、外出などに活かすことができた1年でもありました。また、自分で発言できない人に対しても日々の表情や昔の話をご家族から伺うことでさらに知ることができました。ですが、忙しさからゆっくりお話を伺う時間が少なかったようにも思います。また、職員に遠慮をさせてしまったのではと思う姿もあり2014年度の反省点でもあります。

②入居者様の「今できること」を最大限に引き出す

体調を崩されたりする方も多く、日々の生活の中で自分ができることが少なくなっている方に対して、入居者様の今できることを会議で確認することで職員が過剰にお手伝いしすぎないようにしてきました。その中で今まで以上にできる事が増えた方もいる中でリスク面といったことで課題になることが多々ありました。様々な行動の中にリスクがあることを再度考えながら、少しでも事故を減らし、入居者様が安全で安心な暮らしをしていただけるようにします。

③四季を感じられる設えの工夫

ご家族と協力して畑作りを行い、1年を通して目でも、食べても楽しめました。季節にあわせたお花も自宅から持参してもらいました。今年度は家具などの購入はせず、今あるもので工夫を行いました。来年度は入居者様にあわせた設えを会議内で検討します。

④会議、行事等の取り組みについて

- ・毎月1回14時から開催しました。
- ・行事は季節にあわせた行事を行っています。また、ご家族もお誘いし一緒に楽しんでいただくことができました。

1-7 椿囲

①入居者様・ご家族の“想い”に椿囲の職員全員で応える

次に行って欲しい事が、表情やジェスチャー等で一人ひとり汲取れるようになって来ました。ですが“先”を予測する余り、入居者様の目線ではなく、職員目線で物ごとを考えてしまっている時が多く見られるようになってきたことも事実でした。かけがえない時間を、どのように過ごしていきたいのか、2015年度は想いに再度寄り添っていきます。

②入居者様、ご家族、多職種と情報共有に努める

日々の申し送りでも、ノートやパソコンを活用はしましたが、咄嗟のことになると口頭での申し送りが多くなってしまい、協力ユニット、他部署に伝わらず、ご家族や入居者に不安な思いを抱かせてしまい、ご迷惑をお掛けしてしまいました。2015年度は、何か少しでも気になったことは、その場で有耶無耶にせず、囲職員・他部署に相談し、その場で問題解決出来るよう努めていきます。

③入居者様の生活のペースに合わせたケア

業務の流れ、一日中、時間をみて動いてしまっている事もあり、入居者様のペースに合わせるのではなく、職員本位の動きに合わせていたといった事が多々見受けられました。全体的に静かなユニットであるにも関わらず、足音が響き、ばたばたした印象を与え『忙しそう』と感じさせてしまう雰囲気を作っていました。次のケアに入る際は、入居者様の目線に合わせ、一息置いた、ゆとりのある生活のお手伝い出来るよう努めて行きます。

④職員同士コミュニケーションを図る

職員が働きやすい場にする事は、働く上で大事なことです。引き継げる業務を、引きそのまま個人でこなし、最後まで作業をしていく人も目立ちました。過度な仕事は体調面にも関わって来ます。2015年度も協力ユニット間で、声掛けをし、個人に仕事を任せ過ぎないように分担して行きます。

⑤会議、行事等の取り組みについて

- ・毎月1回、囲会議は14時から開催し、協力ユニット会議は体調不良者やケアに変更があった方、または個々のスキルアップの為の勉強会を必要に応じて開催しました。
- ・行事については季節にあわせた行事のお誘いをし、ご家族も一緒に楽しめるようお声掛けをし、参加して頂きました。

1-8 桜囲

①コミュニケーションを大切にす

職員一人ひとりが忙しいながらも心にゆとりを持ち、日々のコミュニケーションを積極的に行い、関わりを大切にすることを心掛けることで入居者様の素敵な笑顔見ることができました。ご家族とは、事務的な連絡だけでは無く+αの会話を持ちかけ、関わりを深めることができました。しかし、行事や外出へのご家族様の参加が少なくアプローチ不足であったと感じています。

②自分の仕事に責任を持つ

日々の申し送りを確実に行うこと、記録漏れやチェック漏れが無いよう職員一人ひとりが注意し行ってきましたが、まだまだ無くなることはありません。ケアについても気になることを会議の場や、直接本人に伝え、互いに指摘し合い、入居者様が「自分時間」で過ごせるよう努めてきました。2014年度、「気づき」の少なさから褥瘡の事故が2件起きてしまいました。原因の追究・対策をしっかり話し合い今後のケアに繋げていきます。

③きれいな環境を整える

中庭に咲いた季節の花々をユニット内に飾り楽しんで頂いたり、観葉植物を増やしたりと癒しの空間作りを行ってきました。また、見えない部分や細かな部分にも気を配り環境作りに努めてきました。しかし、積極的な職員とそうでない職員がいて差を感じることもありました。

④会議・行事の取り組みについて

- ・ユニット会議は毎月定期開催しています。
- ・協力ユニット会議は必要時開催しています。
- ・行事・誕生会は随時行っています。

1-9 紅葉団

①みんなが「笑顔」になれるユニットを心がける

4月から新入職員が増え、職員の入れ替わりが多かった1年となりました。入居者様、ご家族には不安を抱かせてしまったと思います。始めは仕事を覚えることや職員自身のゆとりがなく、入居者様との関わりが少なくなってしまうこともありましたが、下半期は仕事にも慣れ、入居者様とゆっくりと一緒に過ごす時間を作ることができました。又、職員の心のゆとりができ、入居者様と笑顔で接することができています。しかし、入居者同士でのトラブルなどもあり、職員の配慮不足もありました。今後は、皆が落ち着ける環境を作っていきます。

②入居者様の「今できること」を大切にする

様々な視点から気づきを大事にし、会議の中で日々のケアの見直しを行うことができました。出来る限り、入居者様の希望に合った対応を心がけてきましたが、まだまだ、一人ひとりの希望に沿ったケアはできていないように感じています。職員一人ひとりが入居者様に寄り添い、入居者様の心の声に耳を傾け、関わりを大事にしていきます。

③職員同士で指摘し合いケアの統一を図る

会議の場で職員一人ひとりが、意見を言い、知りたいこと、聞きたいことを随時話し合うことができています。しかし、気付いたことをその場で報告、連絡、相談ができていないことがありました。その場で、話し合い、解決できるようにします。また、職員によってケアの仕方に違いがあり、毎月の会議で24時間シートを元にケアの見直しを行い、入居者様のケアの統一を図る取り組みを行いました。

④会議について

2014年度は、毎月1回、13:30～会議を行いました。来年度も同じ時間帯で開催します。また、協力ユニット会議も随時開催でき、協力体制について話し合うことができています。

⑤行事について

毎月行事を行うことができませんでしたが、季節にあった行事を行うことができました。また、暖かい日はお散歩に、個別外出も行うことができました。

4月	お花見	5月	個別外出	6月	家族懇談会	7月	-
8月	スイカ割、かき氷	9月	敬老会	10月	個別外出	11月	-
12月	クリスマス会	1月	お正月	2月	節分、新年会	3月	ひな祭り

2 ショートステイ

2-1 相談員業務

今年度ショートステイ全体で3つの目標を掲げ行ってきました。

①居心地のいいショートステイを作る

利用されている方々にとっての快適な空間作りの提供を行ってきました。好きな場所は人それぞれですが職員間で把握し声掛けすることが出来ました。安心・安全という面では不十分な所も多く、骨折事故・インフルエンザ感染などの重大事故や苦情の声を頂く事もありました。

②利用者様・ご家族・ケアマネジャーからの声を大切にする

相談員との協力体制も取れ、ご家族を始め他職種との連携も円滑に行う事が出来ました。現場の意見を直接相談員に伝える事でその方々に合った早めの対応を行う事が出来たことは良かったと思います。

③働きやすい職場環境を作る

リーダー、サブリーダーを中心に職員全体で意見交換が出来る環境作りに努めてきましたが、職員各々がケアに対しての「責任」の認識に違いが見られ、結果、事故や忘れ物などに繋がったケースも多く今後の課題の1つと考えています。

山吹・花水木の協力体制も良くなり、相手を思いやり仕事に取り組む姿勢は職員間で作られております。今後も周りの意見を取り入れながらケアの統一を図っていきます。

④会議について

今年度毎月のユニット会議やショートステイ会議の中で色々な意見が上がり、改善点は見直し、良いことは職員全体で行い、利用者様にとってショートステイが在宅との延長で同じペースでゆったりと過ごして頂けるように努めてきました。その結果が稼働率に繋がった1つでもあると考えています。

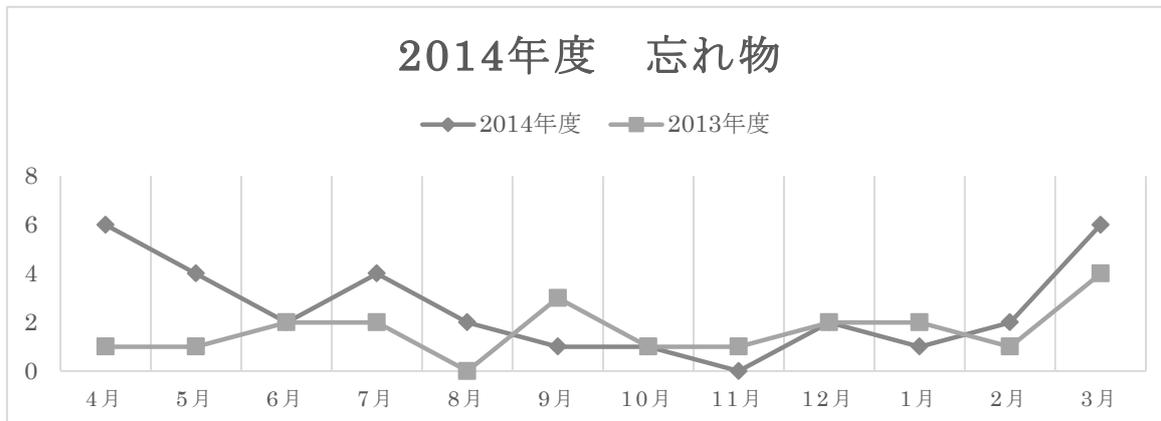
まだまだ、至らない所も多く、これからの課題も多いですが、職員全体で向上していけるよう努力していきます。

2-2 山吹

①忘れ物を減らす

新体制となり、業務を覚えるのに精一杯のため忘れ物への意識付けが上半期はなかなか出来ませんでした。その為、4月5月は忘れ物がとても多くなってしまい、利用者様・ご家族に大変ご迷惑を掛けています。今年度は忘れ物ゼロの月が11月の1回のみとなってしまったのが残念です。意識付けが出来てきた6月からは徐々に減ってきましたが、2013年度

20 件、2014 年度は 31 件となっています。



②24 時間シートの見直し

24 時間シートに関してなかなか取り組むことが出来ず、職員によって進み具合がバラバラになっています。ユニット会議で議題に挙げるものの、進みませんでした。来年度から、取り組み方が変わるので、職員一人一人責任もって対応出来るようにしていきます。

③基本に立ち返る

命に関わる重大な事故や誤薬が起きました。転倒骨折事故 4 件・食前薬飲み忘れ・血糖測定インスリン打ち忘れなど利用者様やご家族に大変ご迷惑と心配をかけています。今年度は新人職員、新リーダーとなり、不安定な一年でしたが、そんな中でも利用者との関わりの大切さが身に染みた 1 年となっています。安心安全にショートステイをご利用していただく為にも、職員一人一人が仕事に責任を持ち、日々の仕事に取り組んでいけるよう意識付けを行っていきます。

④会議・行事等の取り組み

- ・毎月第 3 水曜日の 9:30～山吹会議を行っています
- ・毎月第 4 月曜日の 18:45～ショート会議を行っています
- ・行事は、毎月行事を企画しています

ショートステイご利用中、行事を楽しみにされているご利用者様が多くいます。

2 月はインフルエンザが蔓延してしまい、行事を延期となっています。

4 月	お花見ドライブ	10 月	ハロウィン
5 月	新緑ドライブ	11 月	クリスマスリース作り
6 月	多賀城あやめ園	12 月	クリスマス会 (ケーキバイキング)
7 月	トマト農園、流しそうめん	1 月	初詣 (ミスタードーナツでお茶)
8 月	SS 合同 花火大会	2 月	なし
9 月	敬老会 (芋煮&ケーキ)	3 月	お雛様仮装大会、桜餅づくり

2-3 花水木

①質の高いサービス提供

重大事故（骨折、誤薬）をおこさない為に、マニュアルの徹底とヒヤリハットの記入、申し送りを行いました。骨折事故がショートで4件発生しています。安心、安全の元、信用していただき風の音のショートステイをご利用していただいた利用者様、ご家族には申し訳なく思っています。誤薬事故に関して、基本であるマニュアルを守らなかったことによる事故がほとんどです。今後、事故が起こらない様に基本に立ち返り、マニュアルの徹底と職員同士の確認の徹底を行っていきます。

②24時間シートの見直し

24時間シートの見直しに関しては、各担当に割り振りを行いました。出来ている職員、出来ていない職員がいます。職員1人にまかせっきりになり、ユニット会議での確認も不徹底で個人差が出ています。24時間シートが利用者様のケアの根拠であることを、職員ひとりひとりが肝に銘じ、決められた利用者の24時間シートの作成、見直しを行っていきます。

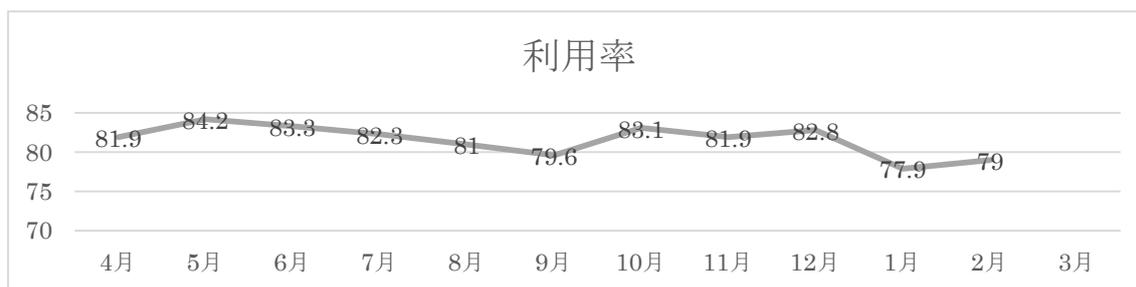
③忘れ物ゼロを目指す

2013年度の反省を踏まえ、今年度も引き続き「忘れ物ゼロを目指す」ことを目標としていましたが、預かりカゴを確認せず、見落としてしまったこと、退所される居室の引き出しの中に忘れ物があるなど、初歩的なミスによる忘れ物がありました。また利用者様の洋服に名前が記載されていないことを確認せず、洗濯し誰の物か分からないこともあり、やるべきことをやらないことで忘れ物が発生しています。

利用者様が持って来られたものを忘れずに私達は、入所された日と同じ状態で退所していただくことをしなければならない使命があります。一つひとつに目配り、気配りをして、忘れ物をなくしていきます。

3 デイサービスセンター 木の実

①稼働率93%を目指す



- 入院・キャンセルなどが多く、登録数が減少しています。キャンセルや欠席の数に比べ、新規利用者が少なく、登録数を増やせませんでした。85%を超える月はありませんでした。
- 今年度は、今までできなかったような行事にも積極的に取り組み、施設全体で行事を盛り上げました。数年ぶりに行う行事もあり、ご利用頂いている方に好評でした。

②機能訓練の充実

- 5月から機能訓練指導員が不在になり、個別リハビリを意欲的に行われている方の利用回

数減やリハビリ目的のためのキャンセルも少数いらっしゃいました。現在も歩行訓練のご希望がある方には付き添いを行っていますが、体制が不十分な時には支援ができないこともありました。

●初めてプランターでの野菜作りをしました。利用者様から沢山アドバイスをもらい育てました。実りを心待ちし、指導している時の生き生きとした表情を拝見し、意欲の向上や生活機能の維持・向上を意識した取り組みは引き続き検討しなければいけないと感じています。

③利用者様、ご家族、ケアマネジャーからの情報の共有

●送迎の際のご家族からの申し送りなど、申し送りノートの活用で共有できています。記載忘れがないよう、その都度確認しています。その他、部署会議等において、細かな内容を周知・確認しています。

●ケアに対する疑問や対応に関する問い合わせがあった場合は、早い段階で対応するように心がけています。引き続き、真摯な対応を心掛けていきます。

④働きやすい職場環境を作る

職員間でコミュニケーションを多くとるようになり、情報の共有が図れるようになってきました。職員教育の部分で課題は残っていますが、お互いが気持ち良く仕事ができるよう引き続き一人一人が努力します。

④会議・行事の取り組み

●毎月第3月曜日に会議を定期的実施しています。

●毎月行事を提供しています。

4月	5月	6月	7月	8月	9月
お花見ドライブ (月～土)	畑作り 端午の節句	映画上映会	倶楽部活動	夏祭り (3日間)	敬老会 水族館鑑賞
10月	11月	12月	1月	2月	3月
芋煮会 運動会	お出掛けドライブ (石巻へ)	クリスマス会・ケー キバイキング	新年会 初詣ドライブ	節分	桃の節句 (パフェ 作り・ランチ)

4 居宅介護支援事業

①利用者動向

1) 新規契約推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規契約数	1	4	1	2	4	0	4	2	2	1	2	2

新規紹介の経路は、地域包括や病院からの紹介は少なく、ご家族から直接のご相談が多かったです。ケースにより2名で対応させていただくこともありました。

2) 契約終了理由

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
死 亡	2	1	1		1		1				1	
施 設 入 居	1											2
入 院								2				
行 方 不 明								1				

例年に比べて亡くなられた方、施設入居の方は少なかったです。11月独居の方が行方不明となり現在も消息が不明です。

②特定事業所加算Ⅱ算定

4月より介護支援専門員3名体制となり毎週会議を開催することで利用者様についての情報共有、介護保険制度や障害、生活保護等の制度についても話し合う機会を持つことができ、お互いにスキルアップできたと思います。また、ご相談があった際はタイムリーに訪問させていただきサービス利用につなげることができました。

③事業廃止

平成17年7月より利府町赤沼に誕生した事業所でしたが、2014年度をもちまして事業廃止となりました。4月1日より同法人居宅介護支援事業宮城野の里に統合となり、継続してご利用希望の利用者については無事に引継ぎを終えています。長きに渡り日頃ご愛顧頂いておりました各担当・各事業所の皆様へもご挨拶させていただきました。継続利用の皆様にも今後も真摯に対応させていただきたいと思っております。ありがとうございました。

Ⅲ 各部署報告

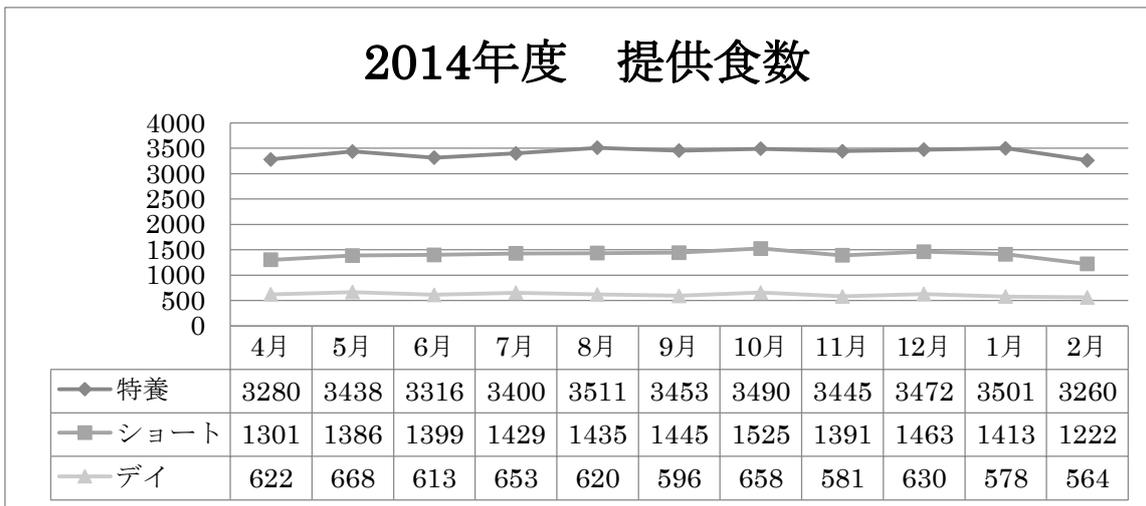
1 食養部門

①メニューの重複や偏り、味のバラつきや組み合わせなどは食事委員会やユニットの現場からの目線、栄養士からの目線で活発に意見を出し合うことが出来ました。そして8月より計3回、田子のまち、セントラルキッチンと合同の献立会議を開催しました。2015年度も引き続き定期的な献立会議を開催し、メニュー改善に努めていきます。

②多職種と連携、ご家族との関わりについては、サービス担当者会議を活用し、より個人に合った嗜好や食形態を議論、検討することが出来ました。栄養マネジメントに関してはユニットに足を運び、入居者様、利用者様の摂食状況を細かく観察する時間を作ることがなかなか出来ず、よりその方を理解した計画作成と実施に努めたいところでしたが、課題や反省が残りしました。

③厨房内作業の効率化については、毎月1回食養会議を実施し、より安全な食事が提供でき

るよう、作業工程の見直し、仕分け・配膳ミス防止、デイサービスへの提供方法、厨房内の
 の
 清掃・機器類管理などを中心に話し合いを行いました。また、定期的に食中毒や衛生に関
 す
 る勉強会を行いました。



2 医務部門

2-1 医務

7月より常勤看護師が1名増え、医務体制も新たにショートステイでの看護師体制加算が対象となりました。受診ではユニット職員に付き添ってもらおう等、それぞれが協力しながら入居者様やご家族の意向に沿えるよう支援が出来たと思います。

施設での看取りも定着し、その段階に移行するに当たっては、ご家族、嘱託医、施設ケアマネジャーや生活相談員、介護職と検討を重ね、ご家族に見守られながら最期を迎えることを支援することができました。個別の取り組みとなるため、勿論それぞれに課題はありましたが、今後の看取りにつなげられるようにしたいと思います。

2014年度の目標に対する総括は以下の通りです。

①安全・安心な服薬へ取り組み

誤薬はゼロにできませんでしたが、同じ事故が起きないように対策・取り組みを行いました。

②24時間シートへの関わり、看護職のユニット担当制導入

サービス担当者会議やユニット会議へ参加し、情報の共有や24時間シートなど日常生活への関わりを持つことができました。一時ユニット担当制を中止しましたが、機能訓練や情報共有のため再開しました。

③研修会へ積極的参加

各自研修に参加する事ができました。

④地域連携や他職種との情報共有

嘱託医病院や協力病院など、昨年よりも情報の共有を密にすることができました。インフルエンザ感染の際は、協力病院の認定看護師から指示を受け、無事に終息しています。今後も必要に応じ関係機関より協力を仰ぎたいと思います。

2-2 機能訓練

①入居者様個人のADL沿った機能訓練計画書の作成と他職種との連携

ユニット担当職員と話し合い協力し、個々の状態や生活に沿った計画書の作成を行いました。

②日常生活の中で入居者様との関わりを深くする

日々の関わりを大切にし、入居者様と関わることができました。

③研修会へ参加

研修に参加する事ができました。

3 事務部門

3-1 事務

【総括】

5月より職員が1名産休に入ったことにより、施設長、常勤2名、パート職員1名（ボランティアコーディネーター含）の総勢4名で業務を担当しました。

4月から事務職員へと職種変更した職員が2名おり、手探り状態での運営となりました。

以下、事業計画の目標に沿って総括します。

①施設窓口として

下半期の取組みとして掲げていたCS向上に向けた具体的な取組みを行うに至りませんでした。事務職員は施設における窓口という役割であることから、来期以降も継続課題として取組んでいきます。

②職務知識の習得

法人学習会へ参加することで、一定の知識習得は出来たかと思えます。

しかし、実務以外の職務知識については個人に依拠してしまった部分が多く、組織的に学習を行うことは出来ませんでした。

③経営管理

今年度、特に力を入れて取組んできた部分だと感じています。収入面、支出面の両方でどのように数字を提示すれば分かりやすいか、考えながら取組むことが出来ました。

④施設管理

今年度10年目を迎え、各所に修繕必要な箇所が出てきました。下半期の取組みとして「施設修繕計画」の策定を掲げましたが、修繕箇所への対応のみで終わってしまいました。来期以降も増加傾向にあると考えられるため、「施設修繕計画」については、継続課題としま

す。

また、契約の見直しでは、仲介の業者を入れることで価格の交渉がしやすくなり、かつ業者側からの提案もあることで、コスト削減につながられたと思います。

⑤運動の組織者として

常勤職員が全員社会保障委員会に所属していることもあり、率先して運動に参加してきました。今後も継続するとともに、職員へ広げていくことが求められていくと感じています。

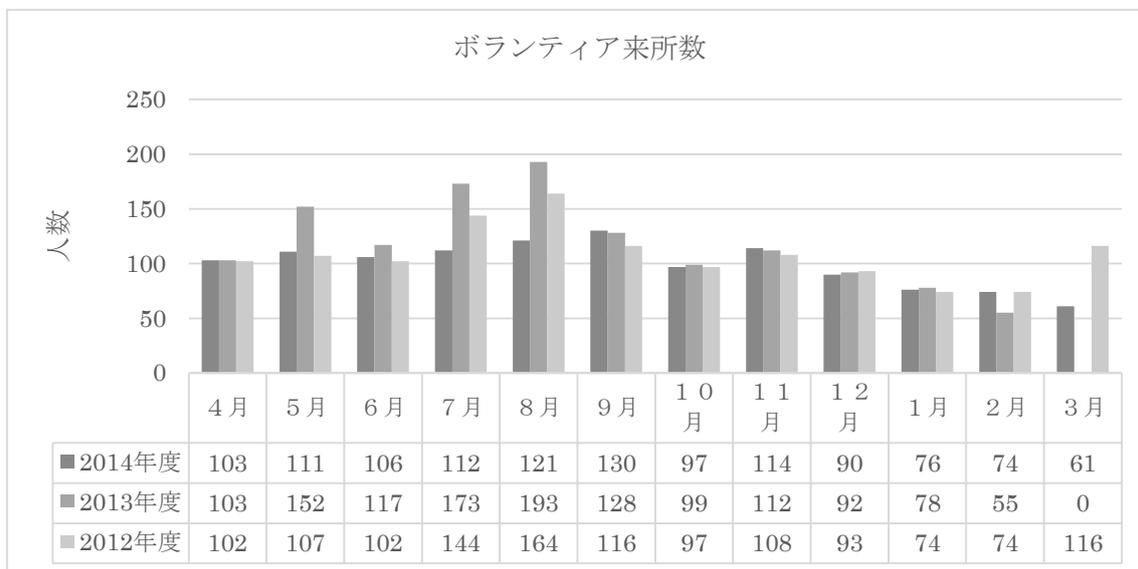
3-2 ボランティア

① 地域への参加

ボランティア委員が中心となり地域行事（8月の地区夏祭り、6月10月清掃活動、廃品回収随時）に積極的に参加しました。

② ボランティア来所数

今年度は年間で延べ1,200人のボランティアが来所しました。例年冬期についてはインフルエンザや気候の影響でボランティアの人数は減少しています。お楽しみ会等大人数で来てくれるボランティアとは別に、少人数や個人で来所される方については、入居者や職員との顔なじみの関係ができあがり、部署の行事等にも参加するケースが定着しています。また、葉山地区にお住まいの方々が夏祭りのお礼にと、風の音の祭りにブースを設けてくれたり、地域とのつながりを確認できるものとなりました。専任のボランティアコーディネーターが不在のなか、これだけ多くの方々がボランティアに来て下さったことは、この数年間の取り組みの成果と感じています。



ボランティアの内容：歌や踊り、演奏のお楽しみ会、ネイル、ハンドマッサージ、お化粧品、清掃、外出付き添い、各種教室のお手伝い等

③ 教室の開催

定期的な教室の開催し、書道作品は展示会へ出展しました。

教室の種類：押し花、フラワーアレンジ、水彩画、書道、陶芸、手工芸

④ イベントの開催

5月	利府吹奏楽団演奏会	7月	わくわくサイエンス
8月	ピアノ教室発表会	9月	利府吹奏楽団演奏会
11月	ベガ号星の観察・音楽会		

※ イベントを通して、地域の方々と交流を行なっています。

3-3 LSA 部門

① 葉山シルバーハウジングと町営住宅への定期的訪問

葉山シルバーハウジング・葉山町営住宅には月曜日から金曜日（土日祝を除く）、八幡崎町営住宅・石田町営住宅・堀川町営住宅へは月1回以上訪問を行いました。

② 利府町と地域包括支援センターとの連携を図り、町営住宅の情報を図ります。

毎月1日（土・日・祝日の時は休み明け）に前月の報告書を利府町に提出しています。4・7・10・1月に利府町・地域包括支援センターの方と報告会議を開催しています。町営住宅高齢化に伴い、身体的な不安を抱える方には、地域包括支援センターの看護師に訪問して頂くなど、対応をしています。

③ 夜間帯のシルバーハウジングの対応について、LSA が不在でも素早く対応が出来るように、研修を行います。4月に宿直を行う職員を対象に研修を開催しました。また、シルバーハウジングにて2月逝去された方がおりましたが、宿直者がマニュアル通りの対応を行っています。逝去されたご家族より、「早い段階で連絡を頂き、大変お世話になりました。」と言葉を頂きました。

④ 訪問時、適切なアドバイスを行う

日々の生活や心配事など話を傾聴し、介護保険制度の利用を勧め、話を傾聴することで安心される方もいます。相談事について、LSA 間で情報を共有し利府町・地域包括支援センターに相談しながら対応しています。また、町営住宅の方の介護支援専門員と連携を図り、訪問時にいつもと違う様子が見られた際は連絡し対応することで、一人暮らしが不安なく過ごせるように支援することが出来たと思います。

IV 委員会報告

1 ボランティア委員会

① 2014 年度事業報告

風の音ボランティア理念のもと、勉強会班、地域交流会班、交流会・Tシャツ作成班の3つのグループに分かれ、活動を行っています。

〔勉強会班〕5月と2月に全職員へ向けての勉強会を開催しています。ボランティア理念、ボランティア活動の実態について勉強会を開催しています。全国調査のデータをもとに今後の課題等検討しています。

〔地域交流班〕毎月、風の音たよりを発刊しています。町内会の回覧板を利用し、風の音からのお知らせを記載しています。清掃活動や廃品回収、葉山の夏祭りへ積極的に参加し地域の方々との交流を深めています。

〔交流会、Tシャツ作成班〕今年度は、昨年度までTシャツだった風の音Tシャツを、初めて Poloシャツにし作成しています。お祭りなどの地域活動で着用し交流を深めています。

ボランティア交流会は鳴子方面へドライブに出かけています。あまり接することのなかった、ユニットの職員やボランティア同士での交流ができ、好評を得ています。

②年間活動報告

4月	風の音たより第1号発行	10月	風の音たより第7号発行、葉山清掃
5月	風の音たより第2号発行 廃品回収、勉強会	11月	風の音たより第8号発行 ボランティア交流会
6月	風の音たより第3号発行 葉山清掃、マニュアル見直し	12月	風の音たより第9号発行 委員会内勉強会
7月	風の音たより第4号発行、廃品回収、ボランティアTシャツ完成	1月	風の音たより第10号発行
8月	風の音たより第5号発行 葉山夏祭り、委員会内勉強会	2月	風の音たより第11号発行 勉強会
9月	風の音たより第6号発行 廃品回収	3月	風の音たより第12号発行

委員： 佐藤美 小林 伊藤裕 佐藤恵 糸井 児玉 佐伯 尾形 和賀 佐々木陽
佐藤真 齊藤陽 菊池 皆川

2 広報委員会

①年4回の発行

広報誌「風くるま」を6月、9月、12月、3月に発行することができました。

②読者が目を引くような広報誌を作る

毎回全体のイメージカラーやテーマを決め、写真を多くし、雰囲気を変えられるようにレイアウト等を考えました。楽しく可愛らしい広報誌になり昨年度とはまた違う雰囲気が出せたと思います。

③計画通りの発行と発送・配布作業の効率化

事務所の協力もあり配布・発送もスムーズに行えましたが遅れることが多かったです。町内会には直接ポスティングし、住民の方々と挨拶を交わし直接感想を伺う良い機会となりました。ふれあいまつりの記事を盛り込んだ 29号を最後に、その後町内会配布を修了し、回覧板で回覧して頂く形に変更しました。

④会議の取り組みについて

●発行前の4月7月10月1月に委員会を開催し、内容の検討を行いました。

●委員会開催翌月にレイアウト等を持ち寄り、編集会議を行いました。

⑤発行部数について

	第 28 号	第 29 号	第 30 号	第 31 号
発行部数	1.200 部	1.000 部	500 部	500 部
金額(予算年 40 万円)	95.904	95.040	83.700	83.700

委員：山田 松浦康 佐藤大 高橋彩 三戸部 渡辺

3 事故対策・身体拘束廃止検討委員会

①2014 年度事業報告

搜索訓練、リスクマネジメント、身体拘束の3つのプロジェクトチームを核とし、活動しました。

【搜索チーム】

5月に新人職員を中心に、11月に夜間帯を想定し当直者・夜勤者を対象に搜索訓練を実施しています。2014年度に行方不明者が出る事故が起きています。近隣住民の連絡を受け、早期発見することができています。日ごろの訓練と対象者の情報共有の重要性を感じています。

各部署で行方不明になる恐れがある方を委員会の中で確認、その後各部署で周知しています。必要と思われる方のプロファイル作りや内容の見直しを行い、もしもの時に備えています。搜索を行う職員の勤務体系の変更、周辺道路の拡張が行われており、搜索マニュアルの見直しが必要になっています。今後の課題です。

【リスクマネジメントチーム】

10月に「ヒヤリハットについて」「薬について」の勉強会を開催しています。ヒヤリハットについては、分析手法の「SHHEL」を使い、中身の濃い対策が立てられること、1人1人の行動を明確に分析することで原因がどこにあるか確認しています。薬については、外部講師を招き、服薬している薬の危険性や知識、体にどのように影響するのか等学んでいます。ヒヤリハット・事故集計を行い、事故の傾向を確認しています。転落・滑落事故が多くみられています。また、内出血や外傷も多くある中で、原因不明の物が135件上っています。事故に至るまでの環境はどうであったか、排泄状態・食事や水分量、いつもと違うことが起きていなかったか、様々な視点を持って重大事故の予防に繋げています。

【身体拘束チーム】

12月に身体拘束の勉強会を開催しています。実際に自分だったらどう感じるのか、体験を通しながら身体拘束の基礎の部分等を学習しています。利用者、入居者様の方が安心して暮らす為に、日々のケアを振り返るきっかけになったと思います。

●2014 年度事故集計表

事故合計	転倒	転落・滑落	誤嚥・窒息	誤薬・誤配	溺水	火傷	異食・誤飲	暴力	紛失・破損	感染症	無断外出	褥瘡	骨折・あざ・外傷(自傷)	介護中の骨折・あざ・外傷	原因不明の骨折・あざ・外傷	その他	計
0～3	1	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	3	0	13
3～6	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	0	2	1	17
6～9	5	12	0	9	0	1	0	0	3	0	1	1	18	4	30	5	89
9～12	7	13	1	10	0	0	0	1	3	0	3	1	18	16	32	9	114
12～15	6	15	1	7	0	0	1	0	3	8	2	3	14	15	25	9	109
15～18	8	17	0	3	0	1	2	0	3	8	2	0	7	8	19	10	88
18～21	3	11	0	9	0	0	0	0	1	0	2	2	9	4	22	3	66
21～24	2	17	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	2	2	29
計	34	96	2	39	0	2	4	1	13	16	5	7	65	48	135	39	524

◎2014年度ヒヤリハット集計表（3月分は入力されていません）

ヒヤリハット	転倒	転落・滑落	誤嚥	溺水	火傷	異食・誤飲	暴力	感染症	無断外出	介護中の外傷	外傷	褥瘡	その他	計
0～3	8	18	1						5		4		3	39
3～6	4	14	2			1			7	1	5		2	36
6～9	8	22	2		1	1		1	7	1	4	1	8	56
9～12	33	33							13		4		9	92
12～15	35	28	7			1			17	1	3		10	102
15～18	21	33	2			1	1		11	3	2		21	95
18～21	12	15	2		1				6	1	2		3	42
21～24	7	28	1						4		2		5	47
不明	1		1								1			3
計	129	191	18	0	2	4	1	1	70	7	27	1	61	512

委員：庄司 鈴木惟 小野寺 兎澤 菅原賢 小野 武内 後藤 安田 菅原広 三浦 近藤
 菊池 湯村 佐々木隆 渡辺

4 感染・褥瘡対策委員会

今年度も感染症グループと褥瘡グループに分かれて活動を行いました。

【感染症グループ】

うがい・手洗いの注意喚起を目的に、新たに委員がデザインしたポスターを作成しています。各ユニット、職員の更衣室に掲示しています。

感染症対策とし流行前に勉強会を開催しましたが、特養・SS・DS施設全体でインフルエンザが流行しています。改めて感染症の脅威に触れたとともに、感染症は外から持ち込まれているものであることを職員一人ひとりが確認しています。一方で早めの注意喚起を行うことで、ノロウイルスを予防することができています。

感染症は持ち込まれるもの、まずは職員が感染源にならないように、職員体調不良時のマニュアルを作成し周知しています。

◎感染症の事故件数

感染症	件数
インフルエンザ（職員含む）	15件
疥癬	1件

【褥瘡グループ】

医務や栄養士との連携を図り、入居者一人ひとりの身体状態やADLを確認し、リスクを確認しながらマットレスの選択を行っています。必要な方によって頂けるようマットレス・ベッドモーターの確認を毎月の委員会で管理しました。低栄養状態の方を確認し、褥瘡になるリスクが高い方に関してどのようなケアをしているかを委員全員で周知し、褥瘡ゼロを目指し活動してきましたが、終末期や低栄養状態の方が踵や仙骨部に褥瘡ができる事故が起きています。褥瘡ゼロを目指すために、施設で起きた実例を通し勉強会を開催しています。褥瘡の基礎知識とともに実際に施設職員が行った取り組み、処置を施設全体で把握する事で同じ事故の予防に繋がっています。

◎褥瘡の事故件数

部位	件数
踵	2件
臀部	4件
耳	1件

感染症グループ・褥瘡グループともに外部研修へ参加し、委員会内で伝達研修を行い学ぶことができています。

委員：杉田 松本 伊藤裕 長岡 小山田 藤本 亀井 本郷 渡邊浩 菊地 佐々木陽
菅原あ 島影 國井 湯村

5 安全衛生委員会

2014年度の目標

「働きやすい職場づくり」

- ◆心の健康維持（メンタルヘルスの学習とアンケート、面談）
- ◆定期の健康診断の実施（年2回）
- ◆職場内コミュニケーションを良好に保つ
- ◆腰痛予防対策（勉強会、福祉用具の購入と活用）
- ◆残業と休憩時間確保の意識的取組

[取り組みについて]

上記目標に対し、以下の通り実施しています。

実施月	内容	実施月	内容
4月	委員会	10月	委員会
5月	委員会、面談	11月	職員面談、委員会
6月	コミュニケーション勉強会、委員会	12月	職員面談、事業計画作成、委員会
7月	前期職員検診、委員会	1月	後期職員検診、看取り勉強会、委員会
8月	残業についての意識調査、委員会	2月	職員セルフチェック、委員会
9月	要精査者への受診促進、面談、委員会	3月	事業報告作成

①6月に虐待対策委員会と共同でコミュニケーショントレーニングを、2月に看取りについ

での勉強会を開催しました。働きやすさは環境や精神衛生に左右されるため、このような学習会は定期的を開催する必要性を強く感じています。職責者は新人を中心に育成面談を行い、不安や悩みについて助言する機会を設けました。またドライバーズチェックや職員セルフチェックを行い、職員自身の心の状態を振り返る機会を設けることもできました。

- ②定期の健診は年2回行っています。要精査になった職員には衛生管理者から受診の呼びかけを行いました。数回の呼びかけにも関わらず検査受診をしなかった職員もいたため、健康管理の重要性を伝え根気強くアプローチしていきたいと思えます。
- ③福祉用具は積極的に取り入れ、さらに業者に来てもらい講習会を開催しました。腰痛による長期休業者はありませんでした。
- ④残業や休憩については基本的な方針を確認しながら、リーダー会議や各部署会議で議題にしてもらい、意識的に残業を減らす、休憩時間を確保することを現場で検討してもらいました。人員の問題もなくはありませんが、それでも知恵を出し合い、お互いに良い結果となるよう、今後も取り組みを継続します。

⑤会議日程 毎月第4月曜日開催

委員：安全衛生管理者佐々木陽 産業医錦町診療所医師 労働者橋本、浅沼、大内
管理者渡辺

6 虐待防止委員会

2014年度の目標

- ◆認知症についての勉強会を開催
- ◆安全衛生委員会と共同し、メンタルヘルスの勉強会を開催

【取り組みについて】

- ①メンタルヘルスを良好に保つため、7月に安全衛生委員会が中心となり職員間のコミュニケーションを円滑に図れるよう、コミュニケーショントレーニングと称した学習会を開催しました。職場の異なった職員同士でゲームを通し交流しました。感想からもお互いを知ることやチームとしてその力を発揮することの大切さを学ぶ機会となったようです。
- ②メンタルヘルスと関係する看取りケアについての外部学習に参加し、知識を深めています。外部研修に参加した職員による伝達講習の機会を設け、多くの職員が看取りについて学ぶことができました。
- ③認知症についての学習はキャラバンメイトを取得した居宅事業所の職員が講義を行い、2回に分けて職員29名が認知症サポーター養成講座を修了、オレンジリングを取得しました。認知症の理解を深めることで、職員の知識向上の一助となりました。全ての職員がオレンジリングを取得できるよう、今後も計画的に講義を行う必要があると感じています。
- ④会議時は、事故集計表をもとに原因不明の外傷等の確認を行いました。虐待の有無を判断するものではなく、事故防止や質の高いケアを目指す方向で検討し、現場にフィートバ

ックできたともと思います。また、年度を通し虐待にあたるような事故はないと確認しています。委員会が開催されることで虐待抑止や早期発見に努めたいと思います。

⑤開催日程 職責会議後 毎月1回

委員：施設長、介護課長、介護（特養・ショート・デイ）係長、医務係長、食養係長

7 誤薬撲滅委員会

2014年度の目標

◆誤薬重大事故ゼロを目標にします。

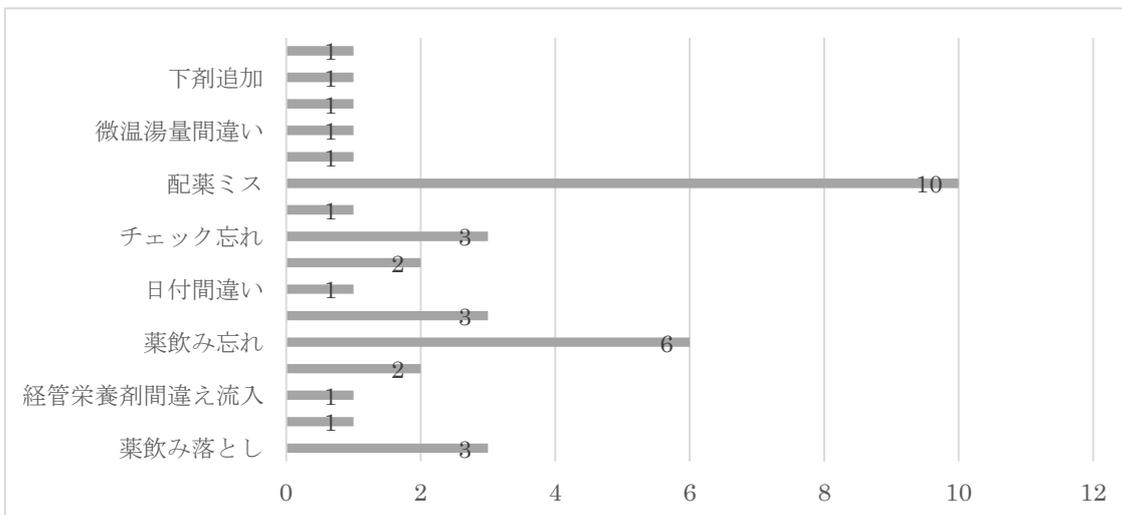
◆事故対策委員会と連携を図ります。

①誤薬事故について

2014年度の誤薬事故件数は以下の通りです。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
誤薬事故	3件	2件	2件	1件	3件	7件
重大な誤薬事故	—	—	1件	2件	—	—
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
誤薬事故	6件	3件	3件	3件	2件	0件
重大な誤薬事故	—	—	—	—	—	—

・誤薬事故の主な内容



・重大事故の内容は、他者の薬を服用させてしまう1件、重複投与1件、指定時間以外にインスリン注射1件で、仕事に慣れていたはずの職員が関わった事故でいつの間にか確認作業が漫然と行われたことが原因の1つです。また、ショートステイでは一包調剤になっていない、薬情報の更新が追いつかず情報のズレがある等特徴的な事故が多く挙がりました。現場サイドだけでなく、ケアマネジャーやご家族の協力も不可欠であるため、対策にあたっては包括的に検討する必要性を感じています。

・重大事故が発生した際は速やかに委員会を開催し、その内容は事故対策委員会で報告、

スタンプレスへ掲載し、施設全体への周知もスムーズに行われました。下半期にかけて重大事故発生はゼロ件でした。各部署で服薬マニュアルのシミュレーションを意識的に取り組んだ成果と考えます。

②事故対策委員会との連携について

2月事故対策委員会主催のリスクマネジメント勉強会では、つばさ薬局多賀城店の薬局長をお招きし薬についての勉強会が開催され、薬に関する知識習得の好機となりました。

③会議の日程 毎月1回職責会議後、重大事故発生時開催

委員：施設長、介護課長、各部署係長（デイ、ショート、特養、医務、食養、居宅）

8 社会保障委員会

①法人社保委員会と連携し社会保障運動へ積極的に参加します。

今年度も法人社保委員会とも連携し、様々な活動へ参加することが出来ました。

②署名内容について学習しながら署名活動を行います。

署名についても、内容について委員内で学習を行ったうえで職員に案内することが出来たと思います。結果として、職員への周知と協力を得ることが出来ました。今後は、職員以外への働きかけを課題とし、取組んでいきたいと思っています。

③財政活動を年4回行います。

職員の協力と理解のもと、計画以上の6回カンパ活動を実施することが出来ました。

④委員会内での学習を重要視し、全職員へも広げます。

委員会内での学習を行った後、各々が職場会議やリーダー会議、サブ会議で同様の学習を行うことが出来ました。各月の活動内容と行事参加を以下に記載します。

月	活 動	行 事 参 加
4月		◆4/24 ヒューマンチェーン行動 2名
5月	平和学習（集团的自衛権） 5/21 カンパ活動（カレー）	
6月	憲法学習（96条について） 6/12 カンパ活動（焼きそば）	◆6/1 保育ウェーブ 3名 ◆6/19 平和行進 3名
7月	平和学習（DVD鑑賞） 7/10 カンパ活動（ホットドッグ）	◆原水禁壮行会、平和パーティ 6名
8月	医療・介護総合法案学習 原水禁世界大会（広島）	
9月	9/3 カンパ活動（歩歩パン販売）	◆8/30-9/1 広島災害ボランティア 1名 ◆9/12 下馬駅前脱原発デモ 6名
10月	情勢学習（沖縄） 広島災害ボランティア報告	◆10/23 国民集会 1名 ◆10/24 下馬駅前脱原発デモ 3名

		◆10/25 福祉ウェブプレ企画 4名
11月	沖縄県知事選支援行動報告 社会保障パンフ学習（民医連・社保協） 11/13 カンパ活動（ホットドッグ）	◆10/30-11/3 沖縄県知事選支援 1名 ◆11/9 福祉ウェブ 13名
12月	情勢学習（「漂流社会～老後破産～」鑑賞） カンパ活動（歩歩クリスマス商品）	
1月	情勢学習（総選挙をうけて） 事業計画案について討議	◆1/21 辺野古情勢報告 2名
2月	情勢学習（集団的自衛権と憲法改正について）	
3月	下馬駅前脱原発デモ参加	◆3/12 下馬駅前脱原発デモ参加 5名

委員：高橋由 坂本 皆川 佐々木隆 三戸部 渡辺

9 食事委員会

今年度から活動を再開した食事委員会ですが、今年は「ひとりひとりに豊かな食生活を」という大きな目標に向かって活動しました。大きく 2 つのグループに分かれ、グループごと話し合いを重ね、食事に関して意識を高めてきました。

①食事マニュアルと衛生管理マニュアルの確認と見直し

上半期で確認を行い、見直しが必要な部分は話し合いで改正し、新しいマニュアルに差し替えました。

②普段とは違う食事を楽しんでいただくための工夫

上半期は就労支援事業所「てとて古川」から定期的にお弁当宅配を行いました。デイサービスやショートステイを中心に提供させていただき、周りの方たちとお話ししながら食事を楽しめたとい意見もありましたが、メニューや食事量など様々な意見がありました。

③おいしい食事が提供のためセントラルキッチンと協力

食事に関して疑問に思っていることを委員会で話し合い、栄養士からセントラルキッチンの方へ献立会議で検討していただきました。また、実際にセントラルキッチンの方が委員会へ参加することで食事について利用者様・入居者様の声を伝えることができました。

④簡単に行事が起案できるよう伺い書の書式検討

たくさんの行事を楽しんでいただけるようのおおまかな伺い書の書式を作成しました。伺い書を作成しやすいよう注意事項や起案の手順を記載し、作成する方も確認する方も分かりやすい伺い書の書式を検討しました。

⑤食事を通した行事開催

11 月におやつバキングを開催しました。人気のないものや反省点もみえましたが、さま

さまざまな種類のおやつを提供することができ、好評を得られました。

⑥勉強会開催

毎年流行になる食中毒と脱水について外部講師を招き、専門の方から知識を学びました。

委員：金野 上山 鈴木美 武山美 藤岡 小野 鈴木佐 遠藤 新田 坂本 佐藤康
菅原あ 島影 國井 浅沼 橋本

10 送迎会議

①送迎の指針を作成しています。(送迎のルール、事故時の対応を含めて)

車両書類管理の見直しを行い、誰が見てもわかる車両状況、通常のメンテナンスの対応、事故の対応が行えるように整えました。

②ショートステイ、デイサービスの送迎の違いはありますが、ご家族とのかかわりというところでは同じ仕事になります。送迎時、ご自宅でご家族のニーズに対応するためにはどのようにしていけばよいのか、話し合いを行いました。

送迎の事故やミスの改善も含めて、上半期途中より送迎委員会を立ち上げ取り組み、送迎にかかわる部署の職員で構成しています。

事故の内容を検討し、送迎用紙を統一し施設全体での送迎と車両使用状態がわかりやすいものへ作り直しています。夕方に次の日の送迎確認を行っています。変更後から、送迎ミス等の減少につながっています。

③車両の管理を行い、安全に入居者様・利用者様の送迎を行っています。

26年度に入り、車両事故が多く発生しています(下記参照)。10月に運転勉強会を行い、仕事中、通勤含めて注意喚起を行います。また、車両清掃を定期的に行い、気持ちよく送迎でき、きれいな車両を運転することで事故予防につながっています。

●車両事件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	1	0	0	2	3	1
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	0	0	0	1	0	1

担当：佐々木隆 浅沼 國井 菊池 渡邊浩 菅原広 湯村

IV ご要望・苦情に関して

今年度のご要望・苦情に関しましては、ケア内容に関するものが7件、請求に関するものが1件、その他が2件となっています。各事案に関しまして他職種と検討し、都度対策を申し合わせています。また年に1回法人の第三者委員に内容を報告し、助言や指導を受けています。それぞれ頂いたお言葉を真摯に受け止め、今後の再発防止に努めて参ります。

	月	日	部署	相談の分類	申出人の希望	第三者委員会への報告の要否	内容
1	4	1	特養	⑥	⑤	不要	行事の内容についてご家族の意見が反映されず、職員間での申し送りも不十分なのではないか。
2	4	8	ショート	①	①	不要	通常ショート利用中に2回入浴をしているが、今回は1回のみであった。記録ミスか何か理由があるのか。
3	6	5	ショート	①③	③	不要	カロリー制限が必要なのに、その管理がされていない。だから血糖値があがるのではないかと。管理をしっかりして欲しい。
4	7	23	特養	④	③	不要	ボランティアがユニットの中まで入ってくるのは如何なものか。ネームもつけておらず不安になる。
5	8	22	デイ	⑥	②	不要	デイ利用後の血糖値が高い。利用時に他の人から飴などを受け取り食べているのではないかと。
6	8	26	特養	①	③	不要	入居者の爪が伸びていた。今回ばかりではない。忙しくて切ってもらえないのか。いつでもきれいにしたい。
7	9	26	ショート	①	③	不要	送迎時、車いすを持参しておらず、車に乗車するまで大変だった。準備はきちんとして欲しい。
8	9	27	特養	①	③	不要	入居者の体調のことでご家族が病院受診を希望したが、予約受診のため期間が大分開いた。対応が遅すぎるのではないかと。
9	10	29	特養	①	①③④	不要	面会に来た際、汚染物が部屋にそのまま置かれていた。今後の対策を考えて欲しい。
10	11	25	ショート	①	③	不要	ショート利用から戻るとリハビリパンツをはいておらず、汚れてしまった。家で交換するのは難しいのできちんと履かせて欲しい。

V その他の活動

県連委員会

介護福祉部会：橋本 社会保障青年部：佐々木隆 青年ジャンボリー：杉田

医療介護安全委員会：渡辺

VI 活動報告一覧表

	施設	委員会	学習会	地域	その他
4月	辞令交付式 入居判定委員会	社保：ヒューマン チェーン		LSA会議、利府葉山保育 園入園式、シニアソフ トボール大会開会式、 町内会総会、福祉まち づくり住民の会10周年 記念式典・総会	【見学】 坂病院新入職員60名 坂病院研修医10名 泉区高森社会福祉協 議会13名 福島県みどりの郷5 名
5月	避難訓練 福島みどりの郷へ見学 入居判定委員会 消火訓練 緊急連絡訓練 宮城県民連総会	社保：財政活動 ふれあいまつり実行 委員会	事故：搜索訓練 ボラ：ボランティア について	福祉まちづくり住民の 会役員会	仙南医療生協30名 山形県福寿乃郷10名 法人ジャンボリー12 名 秋田県花輪福祉会6 名 高輪いきいきプラザ 2名 奈良県和里2名 坂病院友の会10名 秋田県ショートステ イ田沢湖4名 福島県うねめの里10 名 山形県たかはた壮10 名
6月	家族懇談会	社保：財政活動、平 和行進、保育ウェー ブ 広報：風ぐるま第28 号発行	食事：食中毒予防に ついて	町内会清掃活動 福祉まちづくり住民の 会役員会 認知症について考える 集い：利府町菅地区	【研修・実習】 教員免許取得のため の介護等体験受入4 週4名 利府中学校キャリア シップ5名 ユニットリーダー研 修年4回116名 つばさ薬局学生年3 回15名
7月	職員前期検診 粗大ごみ収集 仙台市一重の里へ見学 入居判定委員会 法人共済会総会 消防署立入検査	社保：財政活動、平 和パーティー ふれあいまつり実行 委員会	安衛：コミュニケー ショントレーニング 食事：脱水予防につ いて	廃品回収 LSA会議 福祉まちづくり住民の 会役員会	【ボランティア】 総数1195名
8月	地域ケア会議 入居判定委員会	社保：財政活動、広 島災害ボランティア 、脱原発デモ ふれあいまつり実行 委員会		町内会夏祭り 福祉まちづくり住民の 会役員会	
9月	第9回風の音ふれあいまつ り 全職会議 税理士会計指導	広報：風ぐるま第29 号発行 社保：脱原発デモ、 財政活動	リーダー：接遇につ いて	町内会清掃活動 廃品回収 福祉まちづくり住民の 会役員会	
10月	避難訓練 インフルエンザ予防接種	社保：朝ビラ活動、 国民集会、脱原発デ モ、福祉ウェブプレ 企画	感染：感染症予防に ついて 事務：エクセルの使 い方	LSA会議 福祉まちづくり住民の 会役員会	
11月	ベガ号 福祉ウェブ レツトライヘルス 法人共済会ボーリング大会 職員面談	社保：財政活動、沖 縄知事選支援	感染：褥瘡について 事務：エクセルの使 い方 事故：搜索訓練	ボランティア交流会、 福祉まちづくり住民の 会役員会、福祉ボラン ティア養成講座 黒川石巻合同防災通報 訓練	
12月	緊急連絡訓練 職員面談 入居判定委員会	広報：風ぐるま第30 号発行 社保：財政活動	居宅：認知症サポー ター養成講座 身拘：身体拘束廃止 について	福祉まちづくり住民の 会役員会	
1月	法人学術運動交流集会 職員後期検診 事業計画作成	安衛：職員セルフ チェック	居宅：認知症サポー ター養成講座 安衛：ターミナルに ついて	LSA会議 福祉まちづくり住民の 会役員会	
2月	委員会編成 ユニット費交渉		ボラ：ボランティア について	福祉まちづくり住民の 会役員会	
3月	全職会議 事業報告作成	広報：風ぐるま第31 号発行 社保：脱原発デモ	職責：法令と倫理	福祉まちづくり住民の 会役員会 利府葉山保育園卒園式	

VI 組織体制図



職員数 2015年3月31日現在

部 署	月見園	日向園	汐園	椿園	桜園	紅葉園	1階事務
常 勤	5	4	5	4	5	4	5
非常勤	1		1		1		-
部 署	山吹	花水木	木の实	食養	医務	居宅	2階事務
常 勤	5	4	9	1	5	3	3
非常勤	2		2	4	-	-	1
男 性	21	女性	52	計	73 (休業者含まず)		

デイサービスセンターくりこまの里

ここ数年利用者数を増やしてきましたが、2014年度は後半より実績が傾き厳しい年度となりました。新規の紹介がなかったことが要因でした。2013年度と比べ、10名ほど新規の紹介が少なかったです。原因分析を行い2015年度に繋げていきたいと考えております。

職員体制としては退職した医務職が補充できず、代わりに介護職を補充しています。機能訓練に影響が出ましたが、サービスの質としては3フロアの有効活用が出来、個別な活動が確立できてきています。入浴についても大浴、個浴、機械浴の3形態で対応ができ、認知症の方のマンツーマンでの入浴支援なども出来ています。

委員会としては広報委員の活動が確立でき、ボランティアの調整ができるようになっていきます。社会保障委員会の活動も定着してきており、委員会メンバーの社会保障の意識の向上が図れています。委員会から全体に広げていくことが課題です。

業務全般としては会議方法を見直しています。事前準備を徹底し、議事録への事前記載を徹底し、会議時間の短縮、記録作成時間の大幅な短縮もできています。職員数は変わりませんが、医務職の代わりに介護職の補充をしたことにより、業務改善が進み事務時間が確保できています。結果として、超勤時間が削減でき、職員の負担の軽減が図れています。

2015年度は原点に立ち返り、一つひとつの業務の意味を考え見直しを行っていきたくと思います。また、施設環境の改善にも力を注いでいきたいと思っております。

I 事業規模

1. 各月ごとの利用者数と収入

1) デイサービス I

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	26	27	25	27	26	26	27	25	26	24	24	26
定員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
利用者実績数	585	703	631	676	615	681	689	607	605	551	564	597
利用者/日	22.5	26.0	25.2	25.0	23.7	26.2	25.5	24.3	23.3	23.0	23.5	23.0
利用率	75.0	86.8	84.1	83.5	78.8	87.3	85.1	80.9	77.6	76.5	78.3	76.5
収入(千円)	5,528	5,976	5,574	5,847	5,624	6,240	6,262	5,675	5,594	5,164	5,257	5,559
利用者実数	66	67	73	73	74	75	77	77	77	78	76	73

2) デイサービスⅡ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	26	27	25	27	26	26	27	25	26	24	24	26
定員	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
利用者実績数	184	191	192	180	169	177	173	186	185	170	162	195
利用者/日	7.1	7.1	7.7	6.7	6.5	6.8	6.4	7.4	7.1	7.1	6.8	7.5
利用率	59.0	59.0	64.0	55.6	54.2	56.7	53.4	62.0	59.3	59.0	56.3	62.5
収入(千円)	2,472	2,431	2,478	2,300	2,253	2,403	2,345	2,554	2,539	2,337	2,235	2,702
利用者実数	25	26	26	25	22	18	22	19	22	21	23	25

3) 居宅介護事業所(支援含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収入(千円)	553	592	591	586	579	570	573	614	614	582	615	624
利用者実数	48	51	50	50	49	49	49	52	49	50	52	53

2. 職員体制 2014年4月～2015年3月

	正規職員	契約職員	パート・嘱託・登録	合計	病休	産休	育休	退職	入職
施設長兼相談員	1			1					
生活相談員	2			2					
相談員兼看護師	1			1					
介護職兼相談員	1			1					
介護員	3	2	5	10					1
准看護師	1			1					
栄養士兼介護員	1			1					
調理員兼介護員			1	1					
介護支援専門員	1			1					
事務員	1			1					
計	12	2	8	20					1

II. 各事業所・部門別

1. デイサービスセンターくりこまの里 I

1) 利用者動向

① 年度ごとの比較(平均)

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
利用率 (%)	12.8	42.1	62.1	72.7	83.2	76.2	84.6	83.7	80.9
1日当たりの利用者	2.6	8.4	12.4	13.4	16.6	18.7	21.2	23.3	24.3

② サービス利用開始・終了者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
サービス利用開始者数	1	4	1	1	2	2	1	1	0	1	2	0	16
サービス利用終了者数	0	2	1	1	1	1	2	0	1	7	1	2	19

③ サービス利用終了の理由

理由	死亡	施設入所・入院	認知症型移行	他のデ イに	転居	不調	ショート 中心に	その他	合計
人数	8	9	1	0	0	0	0	0	19

④ 要介護度別利用者数 (年間)

	要支援 1		要支援2		要介護1		要介護2		要介護3		要介護 4		要介護 5	
利用人数	6	288	8	1024	20	1977	20	2100	10	1424	5	439	3	252
割合 (%)	8	3.8	11	13.6	27	26.3	27	28	13	19	7	5.9	4	3.4

右は延べ人数 左は実人数

①月 1 回のケースカンファレンスを開催し、情報共有の場を設け、ケアの統一を図っていきます。

- ・カンファレンス月担当や、様式を決めることで効率良く行うことができました。しかし、ケア実施後の評価につながるような記録が書けていないため、評価に時間がかかってしまいました。今後はケースに記録の内容について検討していく必要があります。また、カンファレンスの評価が記入しづらいため様式の検討が必要です。

②10月に家族も一緒に参加できるイベント(芋煮会)を開催し、デイサービスの様子をみて頂くことにより、信頼関係を深めていきます。

- ・10月の予定でしたが、稲刈りシーズンの為、11月に変更しました。
いも煮を作りながら和やかな雰囲気の中で交流ができました。しかし、参加者が少な

ったため、来年は参加者が増えるよう曜日、内容に工夫が必要です。

③選択的サービスの充実を図る為、こまの部屋の月間予定表を作成していきます。

- ・毎月「こまの活動カレンダー」を作成してきました。こまでの活動も定着してきており「楽しみにしている」との声も聞かれるようになっていきます。利用者様のやりたいことを取り入れながら作成していき、今後も継続していきます。活動内容の反省点、改善点、良かったところなどを職員間で周知し次の活動の充実を図るために、こまの部屋活動記録表を作り記入を行っていきます。

④創作活動を支援して頂けるボランティアさんに来て頂き、活動内容などの充実をはかります。

- ・広報委員会と協力し手芸ボランティアの訪問が実現しました。しかし、ボランティアの都合で水曜日の午前中のみの実施となり、他曜日に実施することができませんでした。今後は、外部からのボランティアさんだけでなく、利用者さんの負担にならない程度に、趣味や技術（先生になってもらう）を活動に生かせるよう準備をしていきます。

⑤会議の前に、司会者は方針を読み上げ確認を行います。

- ・毎月の会議前に方針の読み上げ確認を行ってきました。毎回読み上げる事で、自分たちが立てた方針を見直す良い機会となり、職員の意識統一を図る事ができました。今後も継続して行っていきます。

2. デイサービスセンターくりこまの里Ⅱ（認知症対応型・地域密着型）

① 年度毎

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
利用率 (%)	6.	12.5	27.5	37.9	51.9	63.9	69.6	63.8	58.4
1日あたりの利用者	0.7	1.5	3.3	4.6	6.2	7.7	8.3	7.1	7

② サービス利用開始 終了者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
サービス利用開始者数	0	2	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	5
サービス利用終了者数	0	2	2	2	1	0	0	0	0	0	0	2	9

③ 利用終了理由

理由	死亡	施設入所・入院	通常型デイ	不調	ショート中心に	その他	合計
人数	2	7	0	0	0	0	9

④ 要介護度別利用者数（年間）

	要支援 1		要支援 2		要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5	
利用人数					3	466	6	796	4	362	3	344	2	196
割合%					16	21.5	33	36.8	22	16.7	16	15.9	11	9.1

右は延べ人数 左は実人数

① 月 1 回のデイ II 型会議を開催します。

・月 1 回の II 型会議を開催することが出来ました。職員が会議内容を事前に把握し会議に参加できるようレジメを用いる事が出来ました。参加出来ない場合は議題に対しての意見が聞けるようにしました。

② 定期会議の他に 1 ヶ月に 1 回カンファレンスを開催します。

・カンファレンス開催日を毎月第 3 木曜日とし実施することができました。参加できない職員は意見を持ち合う事でより良いカンファレンスに繋がられるよう努力しています。

③ 利用者様同士が安心でき、楽しみが持てる環境づくりを行います。

・おやつ作り、はっと作りなど利用者様が出来る事を活動の中に取り入れています。楽しんで頂ける雰囲気作りや馴染みの利用者様、職員がいる事で安心して過ごして頂ける環境作りを行う事を実施できています。

④ 利用者様との関わり、様子、症状観察、在宅での様子を確認し、利用者様一人ひとりの理解を深めます。

・利用時に利用者様との関わりの中で情報を得ることは出来ています。しかし職員全員が周知することは出来ていません。また、送迎時に様子観察や連絡帳を通して情報交換を行う事は出来ています。しかし、利用者様一人ひとりの理解を深める事には繋がっていません。職員の意識や連携、ツールなどの不足が原因と考えられます。管理者と相談のうえ、検討が必要です。

⑤ 生活全般が把握できる生活シートの作成を行います。生活シートを活用し、専門的な観察、評価を行いケアに活かしていきます。

・現在、生活シートの作成中でシートを活用したケアを行う事は出来ていません。今後、生活シートを活用し専門的な評価が行えるよう努めていきます。

⑥ 認知症ケアの一つとして午前中の過ごし方を統一し生活のリズムをつくります。レクリエーションは 1 ヶ月ごとに認知症の方に適したものを実施します。

・過ごし方を統一する為、時間割を活かした活動を行う事ができました。レクリエーションは 1 か月毎に評価しています。

⑦ 認知症ケアに有効な支援（回想法・音楽療法・学習療法）を実施します。

・認知症ケアに有効な支援を午前中の活動（授業）の時間に取り入れて実施することが出来ています。しかし、活動の効果などを職員間で共有できていません。まだまだ、専門性が不足しています。

相談員

- ①ケアマネジャーにお試し利用、新規初回利用、利用者の特変状況の報告をし、連携を強化していきます。
 - ・利用者様の様子や特変の状況などの情報提供を行いました。ケアマネジャーと連携の強化に努める事が出来ました。
- ②ケアマネジャーへの連絡基準を明確にし、マニュアルを作成し正確な情報の提供を行っていきます。
 - ・連絡基準のマニュアルを作成しました。しかし、一部の相談員のための周知となり、周知が必要な職員への周知徹底できませんでした。今後は、周知の徹底を行っていく必要があります。
- ③ケアマネジャーに気軽に足を運んで頂けるような場を職員全体で企画し、取り組んでいきます。
 - ・毎月、行事予定を配布し施設の取り組みを伝えることができたが、来訪して頂く事はできませんでした。来年度は、月行事予定と一緒にケアマネジャー宛にメッセージやコメントを入れ来て頂けるように工夫が必要であります。また、地域の方々との交流の機会も設け、風通しの良い施設を目指していきます。
- ④利用者様一人ひとりのデイサービスでの様子を、より細かく記録できるように職員へ指導していきます。そのことによりケース記録の充実を図り、モニタリングへ活かしていきます。
 - ・記録の書き方には個人差がありました。それぞれで気づいていることがあるようですが、記録に残すことができていません。また、書き方にも個人の領域の差が目立ちました。そのため、モニタリングに活かすことができませんでした。来年度は、スタッフ会議で短時間の勉強会を開催し記録の充実をはかります。
- ⑤ケアマネジャーのニーズを把握するためにアンケートを実施します（モニタリング、活動等）
 - ・今年度は実施できませんでした。
- ⑥実績の確認は相談員2人で行い、ミスのないように努めます。
 - ・ワイズマンを活用することでミスなく請求することができました。
- ⑦連絡帳の充実を図るために利用者様一人一人の利用時の様子を把握、情報収集を行っていきます。
 - ・身体状況は、入浴担当職員や医務職員からの情報を連絡帳に記入することができました。午後からの様子や体調の変化は、帰りの送迎時、口頭で家族に伝えております。連絡帳を通して自宅での様子や体調の変化を記入してくれるご家族様もおります。

医務部門

医務

- ① 日々の状態観察（通院の状況や服薬の変更など）及び看護情報の収集に努めます。
日々の状態観察、通院の状況や服薬の変更、身体状況の観察及び入浴時の皮膚観察、処持参軟膏の声かけを行い健康維持管理に努めました。
- ② 色別管理の薬袋を確実に活用し、きめ細かくそれぞれの段階別（薬の入れ替え前・中・後・内服時・服用後の空袋・入浴介助時の所持など）に確認動作を着実にを行い、特に内服時の確認は複数の職員が連携し行います。
色別管理の薬袋を活用することで誤薬「ゼロ」が達成することができました。
- ③ 個別の状態を把握し、数値だけでなく、一般状態を含めた一人ひとりの健康状態の把握に努めます。
バイタル測定後の医務と入浴誘導担当職員による数値の確認を行うことはできていますが、一般状態を含めた健康状態の把握まではできていませんでした。
- ④ 感染予防の重要性を職員と共に認識し、利用者様及び職員の健康管理に努めていきます。
感染予防の重要性をスタッフ会議時の勉強会や、ミニ講話時に取り入れて職員や利用者様に声かけし健康管理に努めました。
- ⑤ ミニ講話を継続し、利用者様の健康維持に繋げていきます。
ミニ講話を継続することで、利用者様の健康維持につなげることができました。
- ⑥ 医務内での情報交換を密に行い、統一した支援を目指します。
医務内での情報交換を意識し行ってきました。しかし、不足していた点もあり休み後の報告方法についてなど検討が必要です。

機能訓練

- ① 在宅での生活動作を意識した、実践的な訓練を行っていきます。
訓練を通してだけでなく、介護職と連携し体操などを多く取り入れています。
- ② 訓練カードを活用し、自分の目標を持って取り組むよう支援します。
訓練カードを活用しても意識される利用者様は少なく、目標を持って取り組んでいただくことが出来ませんでした。
- ③ 楽しんで取り組めるような運動を多く取り入れます。
訓練体操として音楽を取り入れたリズム体操を行うことで、楽しんで取り組めるような運動が行えています。しかし、レパートリーが不足していたこと、実施状況がまばらだったことが反省です。
- ④ 訓練体操（DVD、セラバンド、棒、ダンベル）を午後のレクリエーション時に継続していきます。
訓練体操（DVD、セラバンド、棒、ダンベル）を午後のレクリエーション前の活動で

行いました。医務一人勤務の際には実施できず、実施状況としては反省点が残りました。
※今年度は医務2名体制となり、機能訓練の実施状況がまばらであり、訓練を希望されていた利用者様のニーズに応えることが出来ませんでした。介護保険の改正、事業所の加算査定の方針により27年度より機能訓練を休止することとしました。

食養部門

- ① 利用者の目の前での料理（魚をさばく、そば打ちなど）を企画し、食事の楽しみをつくれます。
 - ・4月にボランティアさんの協力によりそば打ちの実演、1月にはサトー商会のアドバイザーによりぶりの解体ショーを行っています。利用者様の反応もよく、喜んでいただくことが出来ました。
- ② カウンターの窓を開放し、出来立て、盛り立ての料理の提供をおこないます。
 - ・麺類の出来立てを提供し利用者様に好きな具材をのせて食べてもらいました。しかし、3フロアそれぞれの食事提供時間が違うため、早めに用意するようになっています。そのことにより厨房の窓を開け、暖かい料理、料理の臭いを届けることが出来ませんでした。
- ③ 食事のアンケートを取り、利用者様の要望を取り入れた献立作りを行います。
 - ・実施しませんでした。
- ④ 見た目でもおいしく料理をめざし盛り付けや調理の勉強会を行い食養内のスキルアップに努めます。また、食器を購入も行います。
 - ・現在ある食器に合うよう献立作成をしました。またサトー商会アドバイザーの方に味付けや見た目が良くなる切り方、盛り方、火加減などを教えてもらっています。27年度の調理に活かしていきます。誕生会のケーキ用に皿を購入しています。皿を変えることにより、ケーキの豪華さを増すことが出来ました。
- ⑤ 嗜好調査表を作成し、一人ひとりの嗜好、状態にあった食事の提供をめざします。
 - ・嗜好調査表の作成も出来ていません。会議にて意見交換を行い、利用者様の状態にあった食事の提供を心掛けました。食養の意見と現場の意見の調和が今後の課題です。
- ⑥ 毎月食養会議を開催、Ⅰ型Ⅱ型の会議に参加し現場との意見交換を行い、調理・献立に活かします。
 - ・毎月食養会議を行っています。Ⅰ・Ⅱ型会議に時間が合う際は参加し現場との意見交換を行い調理・献立に活かしています。
- ⑦ 体調管理をしっかりし、手洗い、うがいなど二次感染にならないようにします。また、厨房内の清潔保持に努めます。
 - ・栄養士がインフルエンザに罹患しました。厨房内を清潔にするために作業終了時に次亜塩素酸水で掃除を行っています。

⑧食養の作業工程を見直し、効率の良い業務を目指します。

- ・カット野菜・惣菜・てとての弁当を使用しています。カットや材の使用や惣菜の活用にて作業の時間の改善が出来ているにも関わらず、抜本的な改善が出来ていません。食養主体の改善ではなく、管理者などの意見も含め改善を目指していきたいと思えます。

介護職

① 活動内容を充実し、利用者様お一人お一人がご自分のご希望で選択できるようにします。

- ・新しい内容のゲーム等を取り入れ、各フロアでのレクリエーションの内容が充実していました。活動記録を活用し、課題や反省を基にレクリエーションに活かすことができました。②「くり・こま・里」の各部屋での活動を把握し、全ての利用者様の対応が行えるように、当日の担当職員を決めて支援していきます。

- ・昼食時、レクリエーション時には、職員が里、こま、くりのフロアに入り、各フロアの把握ができるよう努めています。しかし、把握しきれていない部分があり、食事時の見守りやレクリエーション時以外でも、全ての利用者様の対応が行えるよう、職員一人一人意識する必要性がありました。

③レクリエーションや脳トレ等はレク記録を活用し、改善点や他の職員が行っている事も把握し、担当になった職員がスムーズに行い、皆様に楽しんで頂けるよう努めます。

- ・今までレクリエーションの活動記録は里フロアしか記入しておらず、こま、くりの活動内容が把握できていない職員がおりました。また、記録用紙も作成していませんでした。今後は、こま、くりフロアの活動内容がわかりやすいよう、出来上がった作品等の写真を張り付けるようにしていきます。

④お風呂場でも季節感のある飾り付けや毎月の行事湯を企画して、雰囲気を楽しんで頂けるようにします。

- ・個浴からの外観を楽しんで頂くため、花や鉢植えを企画しましたが実施できませんでした。個浴の外観をどのように整備していくか、具体的な内容の検討が必要でした。お風呂では季節感のある飾り付けができており、利用者様に喜んで頂く事ができました。来年度も季節感のある飾り付けができるようにしていきます。

⑤連絡ノートを出勤時に確認し、利用者様の情報の把握や対応の統一を図り、より良いケアへ繋げていきます。

- ・連絡ノートに記入している内容が、ケース記録に記入されていないことがあり活用が不十分でした。今後、連絡ノートは入浴の順番(男性からスタートか女性からスタートか)、洗髪拒否がある方の洗髪の有無を記入するのに活用していきます。利用者様の情報やケア変更内容は、ミーティング版とケース記録に記入し、出勤時に確認をしていきます。

⑥月1回の介護職会議を実施します。

- ・レジメに添って、会議を進める事ができており内容も充実しています。会議時間も時間内に終わらせる事ができています。各部署からの情報を基に、職員一人一人会議内容

を意識し、会議に臨むことができています。

⑦医務職との連携を深める為に、適宜合同会議を実施します。

- ・合同による会議は実施しませんでした。今後は医務職に限らず、各部署と連携を取り、検討事項がある際は、スタッフ会議に持ち寄り、より良い連携が図れるようにしていきます。

公益部門

1 指定居宅介護支援事業所

1) 利用者動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
支援開始数	2	0	0	1	0	1	1	2	1	1	1	0
支援終了数	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	1	0

支援終了理由

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
死亡の為	1	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0
他事業所利用											1	

その他：転居 1 サービス利用なし 1

- ・専従のケアマネは実績定員を埋め業務が出来ました。
- ・包括支援センターとの連携を図り、ご利用者様の紹介、要望委託を受け業務にあたりました。

Ⅲ 委員会

社会保障委員会

①委員会を定例で行います。

- ・委員会を定例でおこなうことができた。

②内部にて社会保障の研修会を定期的で開催し、社会保障についての理解を深めます。

- ・社会保障委員会内で勉強後、スタッフ会議時に勉強会を開催しています。

前年度よりは理解が深まってきており、社会保障に対する意識も出てきています。

しかし職員全体の理解度の温度差があり、事業所全体の意識を高める必要があります。

③外部からの講師を招き、年2回社会保障についての勉強会を開催する。

- ・1回目は6月に外部講師を招き勉強会を開催をしています。年2回を予定をしていましたが、講師の選定が進まず、実施できませんでした。年間計画で具体的な予定を立てるなど今後検討が必要です。

- ④原水禁に向けてのビアパーティーに職員を派遣します。
- ・ポスターを職員玄関に貼り出していましたが、職員の意識不足、勤務により施設長1名の参加でした。
- ⑤8月の原水禁世界大会に職員1名派遣を目標とする。
- ・全体的な社会保障に対しての意識が薄いため、職員が参加する自信がなく参加を見合わせました。
- ⑥毎月1回財政活動の一環として工房歩歩の商品を購入します。また、季節商品の購入を行ないます。
- ・毎月1回財政活動の一環として工房歩歩の商品を購入することができます。一時、購入が低迷しましたが財政活動であることを職員に伝えると、購入協力者が増えてきています。
- ⑦署名活動は署名毎に担当を決め、集めていきます。署名を集める際は目標を決め行っています。
- ・毎月担当を決め署名の集約を行っています。署名を集める際は目標筆数を決める予定でした。しかし、職員の協力体制がよく設定がなくても集めることが出来ました。

感染予防委員会

- ①感染の動向をこまめにチェックし、感染時期に合わせた学習会を開催していきます。
- ① 食中毒（5月）、②ノロウイルス（10月）、③インフルエンザ（11月）
- ・今年度、予定通りに感染の学習会を行っています。保健所の感染情報を職員に掲示しましたがあまり効果はありませんでした。
- ②感染の研修会に参加し、知識を深め職員と共有していきます。
- ・感染の研修がありませんでした。
- ③手洗い、うがいの項目に関して声掛けやポスター等の啓蒙活動を行っていき「感染ゼロ」を目指します。
- ・手洗いうがい方法のポスターの設置し、玄関入口への手指消毒の設置し感染予防に努めています。
- ④汚物など感染対応の物品の定期確認、補充を行っています。
- ・点検票を作成し、各担当を決め、毎月点検を行う事ができています。
- ⑤感染マニュアルでのリネン交換に関して統一ができるように働きかけていき、合わせてマニュアルの見直しを行っています。
- ・利用者様が疥癬の疑いがあり、マニュアルを見直しています。情報不足もあり、27年度に再度見直しが必要です。
- ※27年度は感染委員会を廃止し、医務が感染委員会の役割を担います。

リスクマネジメント委員会

1) 事故対策

①アクシデントが起きたら1週間以内に事故対策会議を開き、事故原因を明確にし、対策を考え再発防止に努めます。

- ・月によって対策会議の開催のバラつきがありました。できなかった理由としては日中に時間が取れませんでした。今後はアクシデントが起きた際はすぐに行えるように委員同士声掛けを行います。対策を行い再発防止に努めましたが、毎月ように同じようなアクシデントが起きていました(バイタル確認、靴の履きかえ)。大きな事故に繋がらないよう、全職員が周知していく必要があります。ひとり一人、再度流れの確認、周知を行ない事故防止に繋がるように意識を高めていきます。

前期の反省をふまえて、定期の会議時に月毎の対策の評価と考察を行うことができます。

②ヒヤリハットの強化を行います。ミーティングや報告の中でヒヤリハットの提出が必要と思われるものに関しては、委員会が声掛けし提出を求めます。

- ・インシデント強化月間を6月、1月に実施することができました。強化月間中はインシデントの提出が多いことでアクシデントの発生を未然に防ぐことができました。それ以外の月は提出が少なく強化月間終了後も委員から声掛けを行ないインシデントの提出が増えるよう努めていきます。また、提出の協力が無い職員もいました。職員全体で協力できる体制を検討していきます。

③月1回(月初めに)福祉用具の点検を行い、故障がある場合早急に修理し、安全に利用できるようにします。

- ・職員2名担当制で毎月点検を行っています。故障のある場合は、施設長に報告し修理の依頼をお願いしています。また全職員へも報告し安全に使用できるようにしています。今後も継続して行っていきます。

④外部研修に参加することで情報を収集し、内部研修に役立てます。

- ・委員のメンバーがリスクマネージメントの研修に参加し、内部研修を行う事ができました。

2) 身体拘束・虐待

- ・連絡帳での家族の訴えや、送迎時の会話などから家族の状況を把握し必要な助言やケアマネジャーに報告し虐待などにつながる事例について早期の対応を行うことができました。
- ・利用者様をトイレに座らせたまま忘れるなどの不適切な介助があった。施設内で検討し、認識を改め、同じことが起きないように努めています。
- ・身体拘束の研修に参加しましたが、内部研修に活かすことができませんでした。

事故報告総数 75 件

- ・転倒 16件 ・服薬関係 6件 ・バイタル 9件
- ・外傷・怪我 11件 ・食事関係 9件 ・車輻事故 7件
- ・その他 16件

広報（ボランティア・園芸）

- ①毎月の予定表はⅠ・Ⅱ型を分けて作成し毎月の行事紹介、次月の予定などをご利用者様、ご家族、ケアマネジャーに伝えていきます。
 - ・行事予定は毎月発行し、委員会以外の職員にも確認してもらいデザインや内容も充実した物となっています。
- ②年②年度末を目標に広報誌を作成していきます。
 - ・年度末に発行出来るよう作成しています。デザインや構図については勉強が必要と思われまます。
- ③高校生ボランティアなどを開拓し、くりこまの里の活性化に繋げていきます。
 - ・ポスターや依頼書を出し、高校生ボランティアが来ています。しかし、呼びかけが不足しており継続的なボランティアに繋げることが出来ませんでした。
- ④定期的にボランティアを依頼し、利用者様の楽しみを作っていきます。
 - ・ボランティアの調整を行うことで、バランスよく慰問に来ていただくことが出来ました。

Ⅳ 研修

① 外部研修

外部研修

- | | | |
|----|----------------------|---------|
| 6月 | ロコモ体操について | 医務 2名 |
| | 学習療法について | 相談員 |
| 8月 | 記録・介護技術について | 介護職 |
| | リスクマネジメントにつながる記録の書き方 | 介護職 |
| | 介護に共通するポイントの再確認 | 介護職 |
| 9月 | 地区連絡会 | ケアマネ 2名 |
| | 地域包括支援センター主催 | 相談員 |
| 3月 | ICFの概念と特徴 | 介護職 医務 |

法人・県連関係

- | | | |
|-----|-------|----|
| 12月 | 3年目研修 | 1名 |
|-----|-------|----|

研修に関しては職員体制が変わり、業務体制の変更もあったたことにより職員を積極的に派遣することが出来ませんでした。

V 苦情

苦情 10件

- ・職員 3件
- ・介護 5件
- ・その他 2件

苦情については申し入れについて対策を施し、すべて解決しております。

VI くりはら健康福祉友の会活動

- ・友の会の役員、クリニックの大竹先生や事務長と定期的に話をする機会を作っています。
- ・12月にくりこまクリニックと合同の事業報告会を行っております。

VII 消防防災計画

- ・避難訓練は計画通り開催しています。
- ・大鳥地区と合同の防災訓練を実施しました。
- ・防火設備点検を、定期に実施しました。

介護老人福祉施設 田子のまち

2014年度は、ショートステイも本格的に稼働し、施設として本来のスタートでした。介護職員、看護師の補充を行い、施設ケアマネジャーを2名とし、主任リーダーを配置し職員体制を整えました。

ユニットでの行事や外出の機会も増え、中庭で花や野菜の栽培をしたり、歌や踊りの他にフラワーアレンジメント等の定期的なボランティアの訪問もあり、徐々に生活の場として機能してきたと感じております。10月には「宮城野の里」と合同で宮城野の里まつりを開催することが出来ました。たくさんの地域の方々にお越しいただき、交流を図ることが出来、利用者様も楽しまれております。

しかし、仕事に慣れてきたことに関連する事故や苦情が増えてしまったと感じております。重大な事故はショートで骨折が3件ありました。長期は入居者様のお小遣いを紛失する事象がありました。この件を重く受け止め、金銭に関する取扱い方法を見直し、管理を徹底しております。苦情は職員の対応、言葉遣いに関する事が多く、接遇面についての課題が残りました。施設全体で改善に向けての取り組みを強めていきます。

経営改善に向けて、経費削減に取り組みました。水道光熱費や超勤時間を数値化し目に見える形で職員へ周知しました。職員の協力もあり徐々に効果が表れております。今後はデータを元に分析し、具体的な方法を職員と共に考慮していきたいと思います。

これからも利用者様、ご家族の声を真摯に受け止め、常に自分たちのサービスを振り返ること、職員間の情報共有がしっかりと行えるシステムを作ること、職員もいきいきと働ける職場環境を整え、利用者様、ご家族の満足につながるサービスの質の向上に取り組んでいきます。

【2014年度稼働率・平均介護度】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
94.2	92	94.6	97	93.6	95	96.1	97.5	95	92.9	97.5	93.5
3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.6

【入退居状況】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
入居	4	2	0	2	0	1	3	1	1	2	1	1
退居	2	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	2

【要介護度別】（2015年3月末日）

要介護度 1	要介護度 2	要介護度 3	要介護度 4	要介護度 5
4	15	15	19	25

【保険者別】（2015年3月末日）

仙台市	多賀城市	塩釜市	七ヶ浜町	柴田町	富岡町
64	4	7	1	1	1

【性別・平均年齢】

	人 数	平均年齢	最少年齢	最高年齢
男 性	17	80.6	65	93
女 性	61	85.9	68	102
計	78	—	—	—

ショート部門

【生活相談員】

今年度は 2 ユニット稼働し、利用率も徐々に上がり始めました。同性介助を希望される方が多い為、職員の異動も含めて対応を行っています。病院から退院後、直接ショートをご利用希望される方が多くみられました。退院までの期間が空き、実調時の状態と変わったり、利用直前の実調で職員への周知が遅れてしまうことがあり、現場の混乱に繋がってしまいました。また、利用者様に安全で安心できる場の提供ができるよう、今まで以上にアセスメントをしっかりと行い、利用者様、ご家族の想いを現場の職員にも伝えられるようにしていきたいと思えます。

ロング利用の方も多い時は 6 名おり、稼働率は安定しますが、急な入院や入居が決まり退所となるケースも少なくありません。その際の空床を埋める為に、ケアマネへの連絡、情報提供、利用延長についての相談を行うようにしていきます。

緊急ショートの依頼が予想していたよりも多く、毎月 1～2 件は電話が来ている状況です。実際に受け入れた人数は 5 名となっています。緊急の場合は情報量も少なく受け入れ時間が 18 時以降になることもあります。宮城野の里と連携を図りながら対応を行っています。利用まではケアマネジャーとの電話のやりとりとなってしまう為、出来るだけ情報をもらい、利用者様と職員がお互いに困ることのないように受け入れしていきます。

稼働が上がると同時に、ご家族からご指摘を頂くことも増えてきました。今後もケアの質を向上する為に職員間で話し合いを重ね、職員の気持ちを一つにし、しっかりとチームケアが出来るようにしていきます。

【2014 年度稼働率・平均介護度】

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
74.5	86.7	83.3	81.6	84.5	87.5	86.6	77.3	75.1	80.3	90.5	77.5
2.9	2.7	2.5	2.7	2.9	2.8	3.2	3.1	3.1	3.2	2.9	3.1

【花梨・撫子】

開所当初は初めての事ばかりで悪戦苦闘していましたが、半年が経過し、徐々に自分たちの役割、立場が把握出来てきました。職員の異動や入退職など職員体制の変化が多い 1 年でしたが、その中で外食や趣味のパチンコなど、利用者様のご希望に合わせた外出を実施することが出来ました。写真をお渡しする事で、ご本人だけではなくご家族にも楽しんで頂き、職員のモチベーションアップにつながりました。しかし、時間に追われ、利用者様と日常での関わりが不足してしまい、また他職種、職員間との情報の共有が出来なかった為に利用者様、ご家族にご迷惑をかけてしまうこともありました。今後の課題となりました。

来年度は、外出や催しものも継続実施していきながら、日常生活での嗜好、趣味に合わせた余暇活動を提供し、楽しみを持って頂ける様努力していきます。

1.活動内容

- ・ユニット会議・ショート会議の交互に開催しました
- ・個別の希望に沿った外出、外食、パチンコ
- ・節分、雛祭、クリスマスなど恒例行事

特養部門

【施設ケアマネ】

入居者が田子のまちでの生活に慣れてきたこと、また職員が入居者一人一人と馴染みの関係を築けてきたことで、少しずつその方らしさが見えるケアプランを作ることが出来始めていると思います。しかし今年度は職員の休職もあり、目標であった「よりその方を知るためのバックグラウンドアセスメントの具体的活用」にまで至ることが出来ませんでした。来年度はご家族に負担のならない程度でご協力いただけるよう、使いやすいものに改良しながら、その方を知るためのツールの一つとしてバックグラウンドアセスメントを活用していきたいです。また、また、ケアマネジメントの過程において各専門職を今よりもっと巻き込んでいけるような工夫をしていくことも今後の課題です。ケアプランがケアの根拠になるものだという事を理解してもらえよう働きかけをし、実際のケアにもプランが活きるように、またプランと連動した記録が作成できるように工夫していきたいです。

来年度も各専門職と連携しながら、その方のたくさんの可能性が詰まったケアプランを作成していきたいです。

1.活動内容

介護保険の更新申請を仙台市 37 名、塩竈市 5 名、多賀城市 3 名、柴田町 1 名の計 46 名行い、うち仙台市の 36 名については市からの委託を受けて認定調査を行うことができました。(1 名取消)

サービス担当者会議は全 44 件開催し、うち 27 件でご家族が参加してくださいました。(表 I 参照)

来年度も引き続きご家族へのお声掛けを継続しながら、参加しやすい時間帯などの検討を行います。

表 I <サービス担当者会議開催数 (うちご家族が参加した数) >

4 月	1 (0)	10 月	4 (2)
5 月	2 (1)	11 月	3 (3)
6 月	4 (3)	12 月	7 (3)
7 月	3 (2)	1 月	4 (2)
8 月	6 (3)	2 月	2 (2)
9 月	4 (2)	3 月	4 (4)

【春風】

ユニットの目標『みんながホッと安心できる「いえ」』を目指して業務に取り組みました。中庭を使った家庭菜園や、鳥の餌やり、フラワーアレンジメント等、入居者様の生活の中で楽しみを見つけるお手伝いが出来たと思います。行事も多く企画し、入居者様の『食べたい』『やりたい』という思いを大切にすることを心がけました。ショッピングモールへの買い物や外食、クリスマスパーティー等の企画では、多くのご家族に参加して頂くことも出来ました。反面、常に決まったご家族しか参加して頂けず、交流の少ないご家族へどのように対アプローチしていくかが今後の課題です。

ケアの面では、職員一人一人が主体的に、その方によりよい生活とケアを考え行動を起こすことが出来ました。しかし、ケアの統一が図れず、忙しさのあまり入居者様の生活を大切に出来ていない場面もありました。また、ご家族への連絡、連携不足があり、課題として残りました。

来年度は、皆様の「いえ」を感じて頂けるよう、小さな事の気づきを大事にしていきたいと思います。その方法として、口頭での申し送りの他、会議やノート等を活用していきます。

1.活動内容

4 月 お花見 7 月 七夕 8 月 バーベキュー 9 月 敬老会・外出

10月 秋刀魚焼き 12月 クリスマスパティー 1月 初詣 2月 節分

【ふたば】

昨年度と同様に入居様が安心してその人らしい生活ができる家庭的なユニットを目指して、日々、生活を支えてきました。各職員が入居様との関係性を大切にしながら、四季を共に過ごし、関係性は大分馴染みのあるものとなりました。そうした日々の生活を通じた関わりから好みや意向を伺い、ケアに反映させ、生活が個別の要望や希望に沿った支援をすることが出来たと思います。しかし、業務量に応じての時間の使い方が職員によってバラバラになっており、慌ただしい動きで、ユニットの雰囲気家庭的なものから遠ざかってしまいました。今後は業務量に応じた時間の使い方、職員の動き方を検討し、ケアと間接業務を無理なく行えるようにする必要がありますと感じます。

また、入居様が安全に過ごせるように生活を支えてきたつもりでしたが、原因不明の内出血、服薬のミスが目立ち、リスク把握の不十分さと原因分析不足を痛感しました。今後は各職員が連携し、ヒヤリ・ハットでリスクを事前に把握し、事故を未然に防げるようにしていきたいと思います。来年度も入居様の個別性を大切に、ユニットが入居様にとって住み良いいえになるように努力していきたいと思います。

1.活動内容

4月 加瀬沼公園でのお花見 6月 松島水族館への外出 8月 中総体バレーボールの観戦
9月 龍泉寺の湯への外出 八木山動物園への外出 ユニットでパフェ作り
11月 東北歴史博物館への外出 12月 ユニットでお好み焼き作り クリスマス会
1月 二木神社で初詣 3月 ホットケーキ作り

【夏月】

オープンから1年の歳月が経ち、入居様の暮らしについて考え、少しずつ歩む年でした。ケアの方法に悩み、対応の難しさから「待ってて」と声を掛けてしまうことがあり、反省しています。しかし、職員で情報収集し、記録へ残し、話し合いを重ねる中で、それまで見えていなかった一面に気づき、ケアに反映することが出来ました。入居様やご家族とも心が通い、信頼できる関係を築けたのではないかと考えています。ケアは、ユニット職員だけではなく、他職種と一体になれば前に進まないことを実感しました。

入居様を退屈させない、楽しんで生活していただく、ということに対してはまだまだ課題が多いです。職員のほうでこんなことをしてみたいという思いがあってもなかなか実施できずに終わることも多くありました。職員間でもコミュニケーションが不足し、皆さんに十分満足して頂けていないと思いますが、中心に入居様がいることを再度確認し、小さな変化に気が付けるよう、来年度取り組んでいきます。

1.活動内容

4月 花見 5月 塩釜遊覧船観光 6月 おやつ作り 7月 すずかと合同夏祭り

8月 すしパーティー 花火鑑賞(3F) 9月 たこ焼きパーティー 10月 芋煮

11月 喜久水庵へドライブ 12月 すずかと合同クリスマス会 1月 東照宮へ初詣

2月 節分 3月 ひな祭り お好み焼き作り

・ユニットの1階南側に畑をつくり、枝豆や野菜を育てました。

【すずか】

職員の入れ替わりがあり、新しい職員を迎えてのスタートでした。ご家族には不安やご迷惑をおかけしながらも、コミュニケーションを密にとることで、昔の生活や好きなことを知ることができ、入居者様と向き合い、一人ひとりの思いを大切にしながら過ごすことができたと思います。入居者様のすべての思いにこたえることはできませんでしたが、一緒に野菜を育てたり、包丁を握ったり何かを作ることで、いきいきとした表情を見ることができ、職員も一緒に時間を共有できました。しかし、職員同士でのコミュニケーション不足から申し送りが不十分で、知らない、聞いてないといったことがありました。小さな出来事でも不安なことがあればユニット全体で問題が解決できるよう、自己判断で行動せず互いに指摘し合える関係には、まだまだ足りない部分もあります。

課題も多いですが、入居者様の生活を第一に考え、その中でも楽しみを持って生活していただけるように、一人ひとりの『想い』を実現しながら入居者様と一緒に同じ時間を過ごしていきたいと思います。

1.活動内容

5月 バーベキュー 6月 紙芝居を楽しんでもらう 7月 七夕 夏月と合同夏祭り

8月 花火 10月 芋煮 12月 夏月と合同クリスマス会 忘年会 ゆず湯

1月 みずき団子 2月 節分 バレンタインデーチョコ作り 3月 ひな祭り

・ふたばユニット側に畑を作り、大根、さつまいも、枝豆を育てました。

・ユニットのベランダでも野菜やすいかを育てました。

【秋晴】

今年度は職員の異動があり、入居者様を混乱させてしまいましたが、時間をかけ積極的にコミュニケーションを取る事で、友好的な関係を築くことが出来たと思います。すべての願いを叶える事は出来ませんでした。他部署への協力を得ながら調整し、季節に応じた行事、外出や外食に出かけることが出来ました。

24h シートも担当が中心となり作成しましたが、活用までは至っていません。24h シー

トの意味と活用方法を職員で再確認し、ケアに活かしていきたいと思います。

ご家族との関わりについては、居室担当が担当者会議や面会時に対応していますが、より深くご家族とも関わりを持てるよう、ご家族も含めた行事を企画していきたいと考えています。

マニュアルの徹底を行うことが出来ず、入居者様のお小遣いを紛失するという重大な事故を起こしてしまいました。この事を深く反省し、二度と起こさないよう対応していきます。

来年度は、今年度の反省を活かして入居者様の暮らしを見つめて、あなたらしく暮らして頂けるよう支援していきたいと思います。

1. 活動内容

4月 お花見外出 5月 定義山外出 母の日 しょうぶ湯
6月 あやめ園外出 三越買い物 梅ジュース作り 父の日 焼きそばパーティー
7月 七夕 8月 仙台七夕祭り外出、秋晴・みのり合同夏祭り
9月 流しそうめん 敬老会 風の音祭り外出 楽天観戦 10月 松島ドライブ おやつ作り
11月 秋刀魚パーティー 12月 クリスマス、ゆず湯、忘年会、鏡餅作り
1月 初詣、七草粥
2月 節分 3月 ひな祭り

【みのり】

今年度は「その方らしく暮らしていける支援」を日々の暮らしの中からみつめていくことを目標にし、職員一体となり、新体制のみのりユニット作りに取り組みました。しかし、職員の入れ替わりがあり、職員指導の時間を日々の中でうまく作ることが出来ず、また、ケアの忙しさから入居者様、ご家族、職員の想いを見逃していました。心から向き合えなかったこと、そして個別ケアの大切さが欠けていたと反省しています。厳しい体制の中でどう想いに応えていくか、今後の課題です。今後は 24h シートを活用しながら「あなたらしさ」を見つめ直し、暮らしの中に輝きを見つけ出していきたいと思えます。

環境整備ではリビングの設えを入居者様の生活や個性、相性に合わせながら進めていきました。一息つけるカフェスペース、ソファでゆっくり出来るくつろぎスペースなど、買い物から配置までを職員全員の意見で作りました。今後も入居者様、ご家族が心地よく過ごせるよう環境整備に努めます。

会議では職員が普段何を思って仕事をしているのか、ケアをどうしているかなど意見交換に時間を費やしました。今後は仕事の中でも意見交換の時間を作り、情報の整理、職員間の想いを聞きながら信頼関係の構築につなげていきたいと思えます。

最後に今年度は1名の入居者様の看取りを行いました。看取りを通して学んだこと、私たちが伝えたいこと、今何が私たちに出来ることの大切さをあらためて実感すること

が出来ました。今後も理念を大切に、日々悔いの残らないよう同じ時間を過ごしていきたいと思います。

1.活動内容

4月 花見(加瀬沼) 5月 ドライブ(湖畔公園) 8月 寿司
10月 スウィートポテト作り 12月 クリスマス 1月 初詣(東照宮) 2月
ギョーザ作り 3月ひな祭り

- ・誕生日は一年に一度の大切な日、当日ユニットやレストラン(ぱる)でお祝しています
- ・外部研修、内部学習会参加

腰痛予防、認知症、ボディショニング、排泄、脱水、誤嚥、マニュアル研修(外部)

【美冬】

今年度も、開所からの入居者様、ご家族とともに、互いに支え合い日々を過ごすことが出来ました。その中でも、特に個々の食べたい物、行きたい場所、買いたい物など、少しずつではありますがご希望に応え、入居者様やご家族、職員が共に喜びを分かち合うことが出来ました。環境面では、より「入居者様の視点」を重視し、見える景色、聞こえる音、感じる匂いなど、五感を意識した設えを検討し、リビングや窓際でくつろぐ入居者様やご家族、職員の姿を多く見かけるようになりました。

しかしながら、入居者様同士の人間関係におけるトラブルや、ご家族との情報交換、想いに向き合うといった面で、まだまだ課題も多く残りました。お一人お一人のお気持ちを第一に考えたケアが行えるよう、努力が必要だと感じます。

来年度も、集う方々が「居心地が良い」と思えるよう、ともに支え合い、同じ時間を共有していきたいと思います。

1.活動内容

6月 だら焼き作り 8月 七夕見学 こうめと合同夏祭り
9月 野球観戦 松島水族館外出 こうめと合同芋煮会
10月 松島紅葉ドライブ ピザトースト作り 11月松島水族館外出
12月 光のページェント鑑賞 こうめと合同クリスマス会・忘年会
1月 初詣 お好み焼き作り 2月 チョコカップケーキ作り

- ・その他、ご希望に応じての外出(お寿司、ラーメン、買い物)を随時、行いました。

【こうめ】

7月以降職員がほとんど変わり、不安の中新体制作りからのスタートでした。その中でもみんなで意識したのは、一人一人の今の思いに向き合い、入居者様・ご家族・職員にとって悔いのない暮らしを送って頂くということでした。その結果、「大切な家族とページェントを見たい」「お寿司を食べに行きたい」「昔よく行った紅葉狩りに行きたい」など様々な思いを実現でき、それに伴い、徐々に前向きにご自分の希望を話して下さる

入居者様の姿、ご家族の嬉しそうな顔を見ることが出来ました。それは職員自身のやりがいにもつながったと感じます。また、少しずつ個別のもの（シャンプー類、おやつ、主食の個別化、暮らしの時間など）が増え、その方らしく生活して頂くという理念が定着してきているのを感じています。新体制後、他界される入居者様もおり、いつお別れが来るかわからないこの仕事をしていく中で、私たちが日々の暮らしをどう支えていくべきなのかを再認識しました。その反面、ご家族との情報交換が不足や他職種と連携を図れないことで、入居者様の暮らしに影響が出た場面もあった為、来年度は、より密に関わりを持っていきたいと思えます。

1.活動内容

5月 母の日 8月 美冬と合同夏祭り 9月 花火大会 美冬と合同芋煮会

10月 さんま祭り 11月 鍋パーティー 紅葉狩り

12月 鏡餅作り 光のページェントドライブ 美冬と合同クリスマス会・忘年会

1月 新年会 初詣 2月 恵方巻き作り チョコ作り 3月 ひな祭り 桜餅作

り

- ・個別外出を随時行いました。（お寿司屋、買い物、ドライブ等）
- ・必要な大きな家具やタンス類も購入し、ユニット内の環境整備を行いました。
- ・ユニット業務や協力ユニットとの体制を大幅に見直し、ケアを見直しました。

【ユニットリーダー】

今年はユニットリーダーの産休による異動、交代も多くあり、混乱、不安が付きまとう一年でしたが、協力ユニットのリーダー同士で支え合うことが出来ました。ユニットリーダーとしての役割を理解していても、実際にユニットの状況によって全うできない葛藤を抱え、他己評価の場が少ないことで、これでいいのかと悩むリーダーが多かったように思います。今後はリーダー会議では、もっと悩みなども話し合い、内容のある会議にしていくとともに、主任リーダーの役割を明確にし、新任リーダーや悩みを抱えているリーダーを互いに支えあえる絆を作り上げていきたいと思えます。しかし、昨年度に比べ、それぞれが施設理念を自分の言葉、行動で具現化し、少しずつではありますが、ユニット内でも浸透し始めています。今後も旗振り役として職員を導き、職員一人一人の特性を活かし、魅力あるチーム作りができるよう努めたいと思えます。

1.活動内容

毎月第4木曜にユニットリーダー会議を開催しています。

3つのプロジェクトチームで昨年度から引きつぎ、取り組みを行ってきました。

- ① 24h シートプロジェクトは年間スケジュールに基づき、各ユニットで作成が進むようルールを引き、結果各個人のシート、一覧シート作成が出来ました。
- ② 設えプロジェクトでは、基本となる考え方から各ユニットに広め、少しずつ見直しを行い、最後には違うユニットのリーダーに見てもらい客観的意見をもらいまし

た。今後は他施設の見学にもいき、入居者様にとって暮らしやすい、なじみのある設えを広めていきたいと思います。

- ③ ワイズマンプロジェクトでは随時みんなの意見を聞き、記録しやすいようにケア項目を変更してきました。3月に新人研修では、各プロジェクトチームが24hシート、記録についてパワーポイントで発表しました。

委員会部門

【事故対策委員会】

2014年度は、事故報告のルールを作り、原因分析をして対策を立て、結果を提出するまでの期間を決め、周知しました。事故当日に報告書が提出されるようにはなりましたが、原因分析が不十分で同じ事故が続いてしまいました。具体策が立てられていないのが要因となっている為、分析するためのポイントが明確にあるといいのではと考えています。

委員会では、服薬チーム、搜索チームに分かれて取り組み、服薬マニュアル見直し改定、搜索シミュレーションを行うことが出来ました。それぞれで見えてきた問題点、改善点を来年度引き続き課題とし、取り組んでいきます。

2014年度事故総数

	転倒	誤嚥	誤薬	異食	暴力	無断外	外傷	紛失	他
4月	12		13			1	8		4
5月	16		10			1	7	3	1
6月	20		3				19		1
7月	19		12	1			10		3
8月	17	1	17			1	20	1	
9月	15		7	2		3	11		2
10月	22	1	8				15		1
11月	10		4	1		2	7		1
12月	12		8	2		1	11		1
1月	12		9				9	3	
2月	11		14			1	9	1	3
3月	16	1	9				13		
合計	182	3	114	6		10	172	8	17

合計 512件

【身体拘束廃止検討委員会】

2014年度は、身体拘束について声掛けや表情、態度が入居者様に嫌な思いをさせているのではないかと意見が出され、話し合いを重ねてきました。実際のケアの中で感じることや「これって身体拘束？」と悩むことがあると率直な意見から、意識が高まってきたと感じています。しかし、「身体拘束」の知識が根本的に未熟な為、委員が学ばなければ職員へ伝えることが出来ないと考え、6月と3月に学習会を行いました。その際に、日々のケアで職員の気になる言動や対応に苦悩している事例を出しあい、対応方法について深く考えることが出来ました。職員が困っていることを声に出し、自分のユニット以外の事を知り、一緒に考える時間を持てたことは有意義で、委員会としての体制が出来てきたと感じました。

実際に入居者様やご家族から職員の言動についてご指摘を頂いています。言葉や態度で相手を傷つけることも身体拘束であることを認識し、入居者様の声、言えずにいる心の声に気付き、明らかにし、施設全体で共通の問題意識になるよう取り組んでいきます。

身体拘束ゼロは個人の尊厳を守ることです。生きていることを実感し、生きていることに喜びを感じ、存在価値を認められることだと考えます。私たちはなぜ身体拘束ゼロ宣言するのか、その意味をもう一度職員で話し合います。

1.活動内容

- ・身体拘束に関する意識アンケートの実施 ・「高齢者の人権擁護」について学習会開催(6月)
- ・「身体拘束」についての学習会開催(3月) ・日々のケアで気になる事例を委員会で報告、検討
- ・苦情の報告

【感染対策委員会】

2014年度はお掃除マニュアルの作成、実施を行いました。作成に時間がかかり、マニュアルの周知徹底・実施されているかを確認するには至りませんでした。その為、後半はお掃除マニュアル強化月間を設け、委員が中心となり全職員へ実施を促しました。しかし、まだ浸透しているとは言えません。来年度もこの活動を継続的にを行い、各ユニットで定着することを目指し、感染症予防に努めたいと思います。

また、マニュアルの作成に時間を要してしまった事を反省点として、来年度は取り組むべき項目

(マニュアル作成・衛生抜き打ちチェック、勉強会の開催、職員の意識調査)に対して委員を振り分け、役割分担を行うことでスムーズに活動していきたいと思えます。勉強会の開催についても季節に即した感染症の勉強会を開催するなど随時実施することを目標にあげています。

今後は医務の協力を得て、さらに専門的な意見を交え、来年度からのマニュアル作成などにも他職種連携し進めていきたいと思っています。

1.活動内容

- ・お掃除マニュアルを作成しました。(浴室、特浴室、レンジ、冷蔵庫、シンク、排水溝、汚物室)
- ・お掃除マニュアルの周知に取り組みました。強化月間を設け、委員を中心にマニュアルを各ユニットで実施していき、委員会で確認しマニュアルの内容を更新しました。
- ・今年度より委員会開催時間を 16 時 30 分から 16 時に変更しています。各ユニット、各部署からも出席、協力を得られているので今後も継続し 16 時より開催していく事とします。
- ・食中毒の勉強会を実施しました。

【褥瘡対策委員会】

2014 年度は、「褥瘡についての知識を深め予防を徹底していく」という目標を掲げ活動しました。

まずは、予防徹底の為、各ユニットの褥瘡状況や体位交換に関する情報を報告し合い、職員間で統一した体位交換が行える様、1 人 1 人に合ったポジショニングの写真、ポイントなどを掲載した「寝返りしまシート」を作成しました。しかし、それが正しいポジショニングなのか、どんなクッションを使っていいかわからないという声があり、検討する場が必要という課題ができました。来年度は正しいポジショニングを検討し「寝返りしまシート」の見直しを行います。

今年度 2 回の講師を招いて勉強会を開催しました。中では、実際のケアで困っていることを質問出来る機会や時間を作り、多くの職員が個別に講師へアドバイスをもらう姿がありました。勉強会の開催を継続し、褥瘡に関する知識を深め、シートに活かしていけるよう、来年度も取り組んでいきたいと思ひます。

今年度は昨年度に比べ委員会の出席率も上がり活気ある話し合いが出来ました。来年度も活気ある話し合いを行い、より良い褥瘡対策を考えていきます。

1.活動内容

- ・寝返りしまシートの作成
- ・勉強会の開催

【排泄委員会】

2014 年度は、‘日中帯のおむつ、リハビリパンツ『0』を目指して。～無理なく最後まで下着でいられる人として当たり前ケア’を目標に委員会が始まりました。まず、おむつ、リハビリパンツから綿パンツへ移行するという考え方のもと、一人一人の排泄ケアを見直し、各ユニットからリストアップし取り組みました。しかし「お金がかかる、

お腹まわりがきつい、ずれる、拒否がある、水泡ができた、漏れることが多い」など問題点が明らかになり、綿パンツでの使用方法について専門家のアドバイスをいただき勉強会を開きましたが、実際に移行出来た方は少なかったのが実状です。

後半から、新たにコスト面の見直しへの取り組みを始めました。適切なオムツ、パット、排泄ケア用品が正しく使われているか、一人一人に合ったケアになっているかを委員が中心となり、ユニット会議で話し合えるようになっていきます。来年度は、もっと詳しく使用量や金額を出し、検討していけるような仕組みを作りたいと思います。

個人を尊重した排泄ケアは生活の質と深く関係しています。プライバシーを守ることは大前提に、環境整備、ケア用品の清潔を定期的に確認し、来年度も取り組んでいきます。

1.活動内容

- ・トイレ掃除基本マニュアル作成、職員への周知
- ・委員が中心となり、各ユニットのトイレ内の環境整備、掃除方法検討
- ・講師を招いての内部学習 ・排泄ケア用品の紹介（パット類、洗浄剤 等）

【入浴委員会】

今年度、入浴委員会では3つの目標を掲げ活動してきました。1つ目は個別入浴シートの作成です。各ユニット、全入居者様分のシートを作成することが出来ました。しかし、作成のみで終わってしまい、実際の活用方法の提案や見直しまでは出来ず、来年度の課題として残っています。2つ目は個別入浴シートの書き方や使用方法に関する勉強会の開催です。委員が中心となりユニット職員全員が作成に携わり、使用方法をユニット内で伝えることは出来ましたが、勉強会開催には至りませんでした。来年度は入浴介助に関する勉強会を企画しています。3つ目に入浴環境の整備です。前年度の課題として残っていた特浴排水溝、ユニットの脱衣場手すりの移動工事を行いました。各ユニットの入居者様に合わせた手すりの位置に変更したことで「立ち上がりやすくなった」という声を頂くことが出来ました。

また、ユニットでは季節に合わせた行事湯を設けることも出来、入居者様にも喜んで頂けました。

来年度も入居者様にゆっくりにお風呂に入って頂けるよう環境整備を行っていきたいと思います。

1.活動内容

- ・毎月第3火曜日会議開催 ・個別入浴シートの作成
- ・特浴環境整備（掃除、暖簾の設置、CDラジカセ設置、予約表見直し）

【食事委員会】

2014年度は「幸せな気持ちになる食事づくり」を目標に掲げ、入居者様が日々の食事

に満足していただけるよう一年を通して委員会で意見を出し合いました。

今年度初めに食事マニュアルが完成し、各ユニットへの周知を行うことが出来ました。また、8月に誤嚥の勉強会を開催し、食事をする時の姿勢や食事提供の工夫、吸引器の設置、使用方法などの基本を改めて学びました。

今年度より、セントラルキッチンの松本栄養士さんに2カ月に1度、委員会にも参加して頂き、一緒に献立の検討を行ったことで、やわらか食メニューのバランス調整、味付けや固さの改善など、現場の声を素早く反映できる体制になりました。ユニットが盛り付けや食器の選び方でどんな工夫をしているのかを全職員にアンケートを行い、様々な工夫をしていることが分かりました。

来年度もそれぞれのユニットでの「～したら良かったよ、美味しかったよ」という声を多くのユニットへ伝え、「幸せな食卓」を目指します。

1.活動内容

4月	目標、年間計画作成	10月	献立の検討会 口腔ケアマニュアルの検討
5月	職員向けアンケート実施・集計	11月	口腔ケアマニュアルの検討 フードパン下膳開始
6月	献立の検討会、脱水の勉強会開催 アンケート結果の評価 冷蔵庫温度測定開始	12月	献立の検討会 ノロウイルスについての勉強
7月	誤嚥の勉強会準備 吸引器マニュアル作成	1月	今年度のふり返り
8月	献立の検討会、誤嚥の勉強会開催	2月	献立の検討会 口腔ケアマニュアルの検討
9月	誤嚥の勉強会のふり返り	3月	保健所監査の結果報告

【ボランティア委員会】

田子のまちに多くのボランティアさんをお呼び込むための受け入れ態勢の強化を目標に活動しました。

広報誌やホームページでの呼びかけに対しての問い合わせがあり、多くの文化的ボランティアさんに来て頂く事が出来ました。定期開催の催し物、教室も行っています。

ボランティア受け入れの為のマニュアル、ボランティアのしおり、活動記録等の作成を行い、来年度にはユニット内での活動をお願いできるボランティアの受け入れ準備を始めました。

委員会のレジュメを充実させて、活動の振り返りや協議事項、具体的にどんなボランティアさんを

呼びたいかの意見等を委員それぞれが持って臨めるようになった為、効率的な会議運営

が出来るようになりました。

1.活動内容

- ・委員会の定期開催（月1回第2木曜日）
- ・ボランティア活動内容

（定期開催）

民謡ショー	大正琴で 歌いましょう	フラワー アレンジメント教 室	いきいき 美容教室	囲碁 (みのりユニッ ト)
第3金曜日 延べ12回	第2,4金曜日 延べ17回	月1回 延べ7回	月1回 延べ6回	毎週月曜日 延べ18回

（不定期開催）

・ナターシャグジューバンドウーラ演奏・ピアノ演奏会・シャンソンショー・詩吟・銭太鼓・カラオケ・フラダンス・お茶会・民謡・コーラス・マジック・田子小学校金管バンド・宮城野児童館交流・高砂老人福祉センター交流・ハンドトリートメント・宮城学院チアリーディング

【広報委員会】

広報誌「穂の花」発行も2年目となり、今年度は3回の発行を通して、入居者様の日々の様子やユニットでのイベントの様子を伝えてきました。目標としていた年3回の発行は出来ましたが、読んで下さる皆様の興味ある内容や知りたい情報を盛り込むことは出来なかったと感じています。読者の評価を得る方法を定めていなかったことが要因の一つと考え、今後は定期的なアンケートを実施し、結果を反映させながら作成していきたいと考えています。

また、委員会開催日が発行に合わせたものになる為、突発的な日程になり、委員全員が集まることが出来ませんでした。委員会開催日を計画的なものとし、計画的に進めていきたいと思えます。

1.活動内容

- ・7月 3号 1000部発行
- ・10月 4号 800部発行
- ・3月 5号 900部発行

【入居検討委員会】

長期ユニット80室の満室を目指し、空室が出た時点で入居選考委員会を開いて時期入居者の選考を行いました。待機者名簿の優先順位の高い方から連絡してご本人の状況を把握し、入居するユニットの状況を考慮しての選考を行っています。申込を受理してから2年後のお声掛けという事もあり、状況が変わって“申込取り下げ”のお返事の場合も多くありました。

今年度は、新期入居者18名の入居可能の判断を行っています。入居検討委員会の回数

は 13 回、2015 年 3 月末の待機者は 520 名です。

【誤薬撲滅委員会】

2014 年は重大な事故（重複投与、翌日の薬を服用、配薬ミスにより薬を服用していない）が 7 件ありました。事故原因は、服薬マニュアルの逸脱に加え、配薬時のミスによるものでした。委員がユニットに行き、直接「服薬マニュアルチェック」を行った結果、意識の薄さが浮き彫りになり、事故対策検討委員会と合同で「セルフチェック表」作成、集計データをもとにユニットでの啓蒙活動に役立てました。また、「配薬マニュアル」も 12 月に完成し、原因が明確になりました。薬の事故全体で見ると、昨年度は月平均 10,7 件、今年度は年間 114 件で月平均 9,5 件でした。ほぼ変化は見られていない状況です。誤薬は「減らす」ではなく、「なくす」ことを目指します。

今年度は委員会を 3 回しか行っていません。活発な活動に向け、定期開催にし、誤薬事故の傾向を把握し、施設全体で取り組んでいきたいと思えます。

2014 年度誤薬事故件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
重大な誤薬事故		1			1	
誤薬総数	13	10	3	12	17	7

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
重大な誤薬事故			1	2	2	
誤薬総数	8	4	8	9	14	9

重大な誤薬事故内容

- ・ 5 月 17 日 昼の薬として翌朝の薬を注入してしまった
- ・ 8 月 18 日 昼食後、翌日の朝食後薬を服用
- ・ 12 月 6 日 薬変更に気が付かず重複投与
- ・ 1 月 8 日 朝食後にインスリンを打ち忘れた事に気が付いた
- ・ 1 月 15 日 同じ薬が別処方さえて重複投与してした
- ・ 2 月 9 日 昼食後、翌日の朝食後薬を服用
- ・ 2 月 21 日 昼食時、翌日の朝食前薬を服用した

【虐待防止委員会】

2014年度は、入居者様に対して不適切と思われるケアが報告され、施設として、対応、指導を行ってきました。一つは、ベッドのNCを手の届かないところに置いていたという報告です。入居されている方にとって、NCがどれだけ大事なものであるかを考えていない行動であり、虐待当たると判断し、個別指導と定期的の確認を行いました。もう一つは、職員の言葉で入居者様を傷つけたという報告でした。このことについては、言葉だけではなく、態度や表情が与える印象や親しい中での礼儀の大切さを実感しました。

職員が入居者様との関係性を一歩間違えると、理念とは反対の方向へといってしまう。人権を無視した行為は、介護現場だけではなく、社会の一員として決して行ってはいけないことを理解し、来年度も「絶対に許さない」というゆるぎない姿勢で取り組みます。

委員会は、日々のケアを振り返り、見直す役割も担っています。これまで定期開催ではありませんでしたが、来年度は定期開催で行いたいと思います。

【安全衛生委員会】

年度途中で構成員の変更があり、安全衛生委員会の役割、規定を委員全員で再度把握しました。腰痛予防ベルトの使用の促進、腰痛予防体操の名称をストレッチ体操に変更し実施しやすい内容を検討し再掲示・促進を行っています。

しかし、腰痛予防ベルトは、目的や効果がうまく伝えられず年度の前半は使用している人はわずかでした。再度目的や効果について伝達を行い後半は使用する人が徐々に増えています。またストレッチ体操も本来は始業前に行うことにより気分の切り替えや体を柔軟にし、腰痛予防や危険回避に効果的ですが、実際に行えている職員はほとんどいませんでした。

11月にはメンタルヘルスケアの学習会を開催することが出来ました。講師をお招きし、セルフチェックも行いましたが内容をうまく活かせないまま過ぎてしまいました。

来年度も引き続き、職員の安全衛生を守る為に職員の健康診断の実施や腰痛予防の呼びかけを行い、職場の現状をアンケートや職員の声から把握し、学習会や個別の対応が出来るよう委員会の体制を作っていきたいと思います。

1.活動内容

- ・腰痛予防体操から就業前ストレッチ体操へ名称の変更
- ・新しいストレッチ内容掲示
- ・腰椎ベルト使用の推進
- ・学習会の開催（メンタルヘルスケア）
- ・月1回委員会の開催
- ・チェックリストに沿ったの定期巡回

【社会保障委員会】

目標に挙げていた勉強会（原水禁）を開催することが出来、かんぱ飯も3回実施する

ことができました。活動としては充実していたと思います。

しかし、財政活動や勉強会への参加者が思うように集まらず、来年度に向けて職員への周知や広報

の仕方に課題が残りました。署名活動も当初は取り組みが弱く進みませんでしたが、担当を決めたことで多くの署名を集めることができました。来年度も継続して取り組んでいきたいと思っています。

1.活動内容

- ・ 財政活動（かんぱ飯 4、7、12月） ・ 福祉ウェブへの参加（11月7名）
- ・ 原水禁勉強会（2月）

その他部門

【食養】

今年度、①厨房職員による食事の配達、②嗜好調査の実施と献立会議の開催、③業務の効率化と衛生管理の徹底、④マニュアルの遵守とコミュニケーションを取り合い仕分け業務のミスをなくすこと

の4つを目標に業務を行ってきました。まず、①ですが、食器の下膳を11月から開始しました。下膳は問題なく行えている為、来年度は配達が出来るようにしたいと考えています。次に②ですが、嗜好調査は行えなかった為来年度も課題です。献立会議は8月からセントラルキッチンと開始しました。次に、③と④ですが、日々の業務の中で気づいたことはその都度解決し、話し合いが必要なことに関しては月1回開催した食養会議で検討し遂行してきました。しかし、今年度は職員の入れ替わりにより、仕分け業務のミスが続いたことは来年度の課題です。

続いて、栄養ケアマネジメントですが、職員の退職による人員不足で、厨房業務と給食管理業務に追われ、個別性のある栄養ケア計画を立てることが出来ませんでした。しかし、11月からパートの管理栄養士が1人入職したことで、少しずつユニットへ行き、モニタリングをする時間を作ることが出来ました。今年度は、入居者様が生活をより豊かに出来るような栄養ケア計画を立てたいと思います。

来年度は、安全安心な食事提供、職員同士のコミュニケーションの円滑を目標に、食を通して利用者様を幸せにしたいと思います。

1.活動内容

- ・ 月1回食養会議 ・ 8月から2ヶ月に1回セントラルキッチンと献立会議
- ・ 11月から厨房職員による下膳を開始 ・ 11月20日 パート管理栄養士1名入職

【医務】

2年目となり、特養入居者のご希望に沿えるよう、各関係機関と連絡調整し、診療の補

助にあたってきました。嘱託医の訪問診療は週一回で、他往診対応しています。医療処置別には、在宅酸素療法1名、胃瘻管理8名、導尿カテーテル2名、褥瘡処置2名(うち1名軽快)インスリン注射・血糖測定3名、整形用皮下注2名。ストマ管理2名は指導のもと介護士が行っています。

今年度、看護師1名が加わり、業務改善がされました。PC一台譲受し、入力・事務業務時間短縮から残業時間の削減につながりました。しかし、増員されたにも関わらず誤配が多く、配薬マニュアルがない事が原因となり、マニュアル作成となりました。マニュアルの厳守と各関係者へ必要な協力依頼をし、薬の事故をゼロにしていかなければならないと看護師で意思統一しました。

利用者情報の医務での共有とユニット職員への確実な情報提供と共有をどう行っていくか今後も課題です。他職種に協力依頼、連絡調整につとめます。

1.活動内容

- ・利用者様の健康管理に努めました。医師、薬剤師と連携し、診療の補助、療養上のお世話をしました。

- ・他職種間との連絡調整に努めました。利用者様個々の医療処置を安全、安楽に行うよう努めました。

- ・誤薬ゼロに努めました。配薬準備・配薬マニュアルの作成と周知徹底を行いました。

- ・月一回、医務会議を行いました。

- ・外部研修へ参加しました。感染対策ベストプラクティス…1名 施設における褥創管理…2名

- ・北村神経内科クリニック、つばさ薬局とよりよい診療のため意見交換をしました。

【事務】

今年度、会計業務については、新会計基準に基づき作業を行ってきましたが、すべて把握するまで読み込むことは出来ませんでした。今後まずは日々の作業でのミスがなくし、予算に基づいた正確な会計処理を行っていきます。総務関係はマニュアル化がまだですが、記録と確認作業等をしっかり行うことでミスが減りました。また、今後書類も増えてくるので、年度初めには速やかに整理していきたいと思います。

事務窓口対応は「明るく、親切、丁寧」をモットーに取り組んできました。また、利用者様やご家族とは前年度より多く会話をもつことが出来ました。名前や顔をしっかり覚え、挨拶だけではなく、ちょっとした会話も持てるようにしていきたいと思います。窓口の印象が、施設の印象となることを自覚し、対応を心掛けていきます。

職員への情報伝達はスタンプレスだけでは限界があり、今後は夕方の引継ぎや、リーダー会議、職責会議等も合わせて活用し、直接伝達する場面も多く持ちたいと思います。

1.活動内容

- ・2013年度決算作業
- ・2014年度補正予算作成
- ・2015年度予算作成

- ・ 社会保障運動への取り組み（署名活動への取り組み・国会要請行動参加）

【研修計画】

開所2年目となる2014年度は、委員会やユニットリーダーが主催の研修会を毎月行い、職員スキルアップの年でした。外部講師を呼んでの講習会の他に、委員が現場で必要とされる内容を自分たちで企画、準備、開催までを行い、参加者だけではなく、主催側も成長できたと感じました。しかし、年間内部研修計画は立てたものの、各部署や委員会への呼びかけが薄く、日々の仕事の中で企画、開催準備の時間を作ることが難しいことから、開催出来なかった研修がありました。研修は勤務として保障していますが、どうしても勤務時間外での参加となってしまう、職員が負担と感じてしまうこともあります。必要な研修を精査し、また、参加したいと思えるような内容を考えていきたいと思えます。

外部研修では、認知症実践者研修、認知症リーダー研修へ参加し、認知症への学びを深めています。研修を終えた職員の協力も得ながら、「認知症学習」に力を入れていきます。

1.活動内容

4月	褥瘡予防研修会	10月	腰痛予防学習会
5月	排泄学習会	11月	メンタルヘルス学習会
6月	人権擁護研修会	12月	
7月	食品衛生講習会	1月	認知症学習会、腰痛予防学習会
8月	誤嚥学習会	2月	
9月	排泄学習会・ポジショニング学習会	3月	新人研修

乳銀杏保育園

2014年度、乳銀杏保育園の保育所経営について次の取り組みが行われました。

1、事業規模

①入園状況

年齢	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0歳	14	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
1歳	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
2歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
3歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
4歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
5歳	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
合計	133	134	134	134	134	134	134	134	134	134	134	134

②職員体制（4月1日現在）

	保育士	看護師	栄養士	調理員	園長	その他	計
正規職員	16		1		1		18
臨時職員	7						7
パート（6H）	1			2		1	4
（5H）	1						1
（4H）	3	1		1		1	6
（3H）	1					1	2
（2H）				1			1
土曜・休日保育	2						2
計	31	1	1	4	1	3	41

・規定の月10日休日を保障するために、10月より臨時保育士を1名採用しました。正規保育士1名が前年度3月からの産休に引き続き育児休業を3月まで取得しました。臨時職員が出産のために12月末で退職となり、その代替え職員は派遣会社からの雇用となりました。

③保育事業内容

・一時保育の利用延数は2,165名で補助金が5,378,000円、利用料は4,086,000円で、昨年より、3歳未満児の特定保育利用が多くなるなかで、補助金、利用料とも大きく増額をしました。異年齢保育の工夫や困難を抱えた保護者への支援を心がけ担当者と管理部が連携して、個別面談も取り入れて行いました。しかし一日10名の定員の中で、特定利用が半数近くいる中で、本来の目的である用事やリフレッシュ利用が制限して受けなければならないため、担当者がその希望に応えるために苦勞している状況でした。

- ・休日保育延利用人数は 696 名、実人数は 338 名、開所日は 70 日でした。昨年度の 786 名から大きく削減しました。補助金収入は 4,110,000 円、利用料は 805,700 円でした。予算達成ができませんでした。
- ・延長保育は日々平均利用人数が 2.2 名でした。0 歳児が 2 名利用しました。補助金は 2,603,000 円、利用料は 1,024,000 円でした。昨年は 2.5 名利用でしたが少なくなりました。3 歳未満児と幼児組に分かれて保育するなど、落ち着いた環境で保育できました。

④職員の役割分担

- ・主任保育士を 2 名体制にしたことで、多岐に亘る業務を分担して行うことができました。
- ・環境衛生委員会、安全委員会をつくり、管理部からだけの発信だけでなく、職員自身が主人公になって、問題提起を行い問題解決にむかうことができました。
- ・休日保育の体制を含めて担当者と園長で会議をおこないました。担当者が計画実施を行い、園長は点検や承認、担当者間の連絡を行い業務が行われました。
- ・一時保育は緊急の場合等も含め、日常の電話、申請受付、集金を園長、主任、事務員も入り行っています。利用可否は代替え職員を入れて、担当職員が 3 時から 30 分の時間保障を行い連絡する流れにしたことで、煩雑さが解消しました。
- ・食育については転勤してきた栄養士が中心になり保育士との連携をつくりながら行ってきました。
- ・保健業務は今年度の看護師体制が変わり、業務遂行のむずかしさもあり、主任保育士が補完して行いました。

⑤設備・環境

- ・旧園舎の方が外壁塗装工事できれいに整いましたが、トイレの臭いや排水関係に問題があります。今年度はトイレの臭い対策を業者に発注して行いました。
- ・安全のための細かい補修や日除け地震対策などは用務員の力を借りて行いました。
- ・計画通り、老朽化した椅子や机を整備しました。
- ・面積基準のため、1 歳児クラスと 2 歳児クラスを交換し、年齢に合った保育環境を整えました。

2、保育内容について

1) 保育内容

- ①保育者の人権意識を高め、子ども一人ひとりを尊重し仲間の中で育ち合う保育について、研修し、職員会議の中で深め保育実践を行ってきました。
- ②行事への取り組みは日常の保育内容の蓄積として、どの子ども達成感や楽しさを感じられる取り組みになりました。
- ③障害児保育：今年度は 5 歳児クラスに 2 名の児童が在籍しました。クラス集団の中で、友だちと一緒に成長する姿が多くありました。就学を前にさまざまな行事の取り組みなどを経て、仲間と一緒に自信を持って卒園していきました。
- ④ 1, 2 歳児の部屋の交換から 2 歳児が狭い面積基準であるため、廊下も利用し 2 クラス

の交流を行い保育を行ってきました。

⑤今年度は1・2歳児クラスでの嘔みつきへの対応を子ども理解を深めて、減少していく方向を取り組みました。

2) 保健活動

・毎日の薬の確認や、継続している子への病状や傷の状態の確認をしました。与薬について、受け取りの思い込みのため、2件の誤薬を起し重大なミスであることを全職員で確認しました。幸い医療機関に確認し同じ薬であったことなどで、影響はないことを保護者へ謝罪しました。

・対応が必要な子への視診をおこない看護師の判断を基に必要な処置をとりました。

・感染症発生時にはすぐクラスの消毒や、掲示など必要な措置を実施しました。

インフルエンザは1～2月初旬にA型が32名、罹患状況を仙台市に報告しました。

胃腸炎罹患は11名でした。感染の広がりをおさえるために、おむつ交換の場所や交換時の職員の対策を管理部、担任と確認して行いました。

・歯科検診の結果は保護者に伝えると同時に仙台市提出用にまとめ報告しました。虫歯予防について懇談会で取り上げていますが、幼児組は仙台市の平均とほぼ同じ罹患率でした。

・健康診断は年2回実施。診断結果を各保護者に伝える。大事な点は面談で伝えました。

・受診した怪我は3件と大きく減少して、目標が達成されたと評価できます。ヒヤリハット記録をつくり全員が確認し、全職員会議で報告検討をして取り組みました。

3) 食育活動

楽しく食べる体験を深め「食を営む力」の基礎を培うことをねらいにとりくんできました。写真を玄関の展示コーナーにその日の内に掲示して保護者に知らせてきた。子どもが主体的に食に楽しく関わることを大事にしてきた。選んで食べることや、自分でジャムを塗る、ハンバーガーをつくる、給食室のラーメン屋さんで、チケットと交換してなど、行事食と共に日常の給食で取り組みました。懇談会では試食会を行い塩分摂取について考えてもらい、保護者との日常の関わりをつくることを行ってきました。野菜の皮むき活動（そら豆、筍、とうもろこし）や5歳児クラスでの「赤、黄、緑の食品」を学ぶや「朝食しらべ」、クッキング活動も行いました。

*離乳食、アレルギー食、配慮食の対応。アレルギー食の誤配や誤食を防ぐための日々の打ち合わせやチェック表を活用して防ぐことができました。誤食はありませんでした。

4) 安全管理

①安全管理マニュアルや防災マニュアルを職員会議で研修を行い、職員1人ひとりが意識的に備えて、対応できるようにしました。特に散歩は緊張感をもって取り組み、事故はありませんでした。

②避難訓練を事前に時間をしらせないで行うことを取り入れました。児童の避難靴を整備し、履く訓練も行いました。

③不審者対応訓練を行い職員間で避難対応を連携して行えるように備えました。

④救急救命講習を行い常勤職員20名受講しました。

3、保護者支援と連携

①全体職員会議で保護者の状況や保護者からの意見や要望、苦情を毎月討議して、保護者の状況を理解していくことを大事にしてきました。特に一時保育利用の保護者も含め、鬱や貧困など、支援の必要な保護者については、担任と管理部が連携して配慮し支えていくようにしました。欠席が続いたときは担任や園長が電話での連絡をして、保育園へ出席することで子どもの生活が守られるようにしました。ひとり親家庭12%、非課税世帯が6%で前年度より少なくなっているが、生活支援の必要性があることを捉えておきたい。

②年3回のクラス懇談会を開き子育てについて語り合い、保護者同士の交流をはかってきました。1回は土曜日午前か平日の午後の時間帯を設定し、子どもの長時間保育の負担軽減を行いました。試食会等を入れ参加者は80%以上は達成できました。欠席した保護者へは個別の面談も行いました。

③アンケートを取り、行事や日常の保育内容や職員の対応や環境について記入してもらいました。回収が61世帯で満足、どちらかと言えば満足が90%であるが、長く保育園にいる保護者は職員の退職に伴い、職員のチームワークや雰囲気についての意見があり、職員会議で検討し改善の確認をしました。新入児の保護者からは雰囲気良さや職員のやさしさを評価する声が直接寄せられています。また、1家庭から生活の厳しさから、保育内容の方針で行っている、3歳未満児の手作りエプロンの使用や個別の手作り人形についての苦情が寄せられました。さまざま親への寄り添いが必要になってきていることを捉えていきたいと思います。

④一時保育や「遊ぼう会」で、地域の子育て支援を行ってきました。一時保育は緊急の場合は職員の手配をして0歳児から受け入れを行い、役割を果たしました。

4、職員の研修と評価

①子どもの人権を大切にしていくための学びや子どもが生き生きと活動するための研修を行ってきました。今年度は描画や感触あそびなど、年間を通して文献と実践検討で行ってきました。

②年2回の保育・食育の総括会議を行い全常勤職員（担任のパート職員）で報告と検討を行い、職員の自己評価と園としての自己評価を行いました。保育で達成したこと、不十分だったことの捉えを深め、次年度に活かせる自己評価ができました。

③延長担当保育士の会議を定期的に行い、延長保育時の問題など意見を出し合い改善することができた。他のパート保育士も含めた職員会議の報告と短い論文の学習を行いました。

5、小学校との連携

①今年度は特に障害を持っているお子さんの就学に向けた連絡や直接教諭が保育園に来て、観察をしてもらい、学校での配慮に繋げてもらいました。

②「保育要録」を学校に送付するとともに、学校の見学を行いました。

柳生もりの子保育園

1. 事業規模

(1) 入所児童

2014年度は、120名定員に127名で出発し、5月末に4歳児の障がい児の1名が退園し126名になりました。0歳児の希望多くが15名の入所となり産休明けの2.5か月乳児3名が入園しました。障がい児は、年長児に進級した1名と通常枠から移行した1名、4歳児の新入児1名の合計3名でした。しかし、新入児の障害児は認可園の大きな集団保育には慣れるために時間が必要でしたが、保護者の理解を得ることは難しく、5月末で退園し、障害児の補充はありませんでした。その他、年間通して1名の入退園がありました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
1歳	16	16	16	16	16	16	16	17	17	17	17	17
2歳	23	23	23	23	23	23	23	22	22	22	22	22
3歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
4歳	25	25	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
5歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
合計	127	127	126	126	126	126	126	126	126	126	126	126

(2) 職員体制 (3月1日現在)

	園長	保育士	看護師	栄養士	調理師	調理員	その他	計
正規職員	1	11 (3・育休)		1	1			14
臨時職員		6						6
パート (6H)		3						3
		1						1
(4H)		2	1					3
(5H)						1		1
(3H)		5				1	2	8
合計	1	28	1	1	3		2	36

上記の他に嘱託内科医 1 名、歯科医 1 名

*0 歳児が 15 名を受け入れ、職員体制も 0 歳児の 6 名と 0 歳高月齢 9 名の 2 クラスで編成し、主任の一人を配置に入れて運営しました。

*食物アレルギー児の安全な保育（0・2 歳児）を作っていくために、少人数のクラスへの配属を保護者と相談の上配属しました。また、土曜保育の合同についての注意事項も職員全体で確認して保育にあたりました。

*主任業務については、田中が 15 時までは 0 歳児クラス担任となり、杉井と田中の主任二人体制は、日々の職員配置は田中が担当し、保育全般については杉井が担当しました。

*26 年度より 8 時間労働の本実施を行い、職員体制は厳しい状況でしたが、月 10 日の休暇について実施してきました。今年度は、臨時保育士や調理員の途中退職があり、職員の確保が非常に難しく、一年通して募集した年でした。

4 月中旬に臨時保育士が退職し、求人していましたが確保できず、11 月の病休代替えと 12 月の産休代替えの十分な補充もできず、パート職員の勤務時間延長や 4 時間のパート保育士の採用と短期の調理員アルバイトを採用し体制を確保しました。

（3）保育事業内容

計画通り運営費収入、補助金収入、利用料収入で行いました。延長保育の利用は、平均 16 名と昨年度より少なく、食物アレルギー児の対応に考慮するため、延長保育室を 2 歳児クラスで行いました。特別保育事業は乳児、障害児、延長保育を行いました。5 月末の障害児退園に伴い、障害児保育加算の返金があります。

（4）職員の業務分担と役割

*8 クラスを担当保育士で運営しました。

園長就任 1 年目を過ぎ、主任保育士の助けを借り主任会議等で協議しながら、総括的指揮を執りました。主任 2 名体制は、職員体制配置と未満児保育の運営管理、保育全体の管理と 2 歳児・幼児組の管理運営等役割等の分担を決め、保育内容全般を 2 名の主任保育士で確認し合いながら行いました。また職員間や保護者との関係が円滑になるよう園長と主任で協議し、配慮して日々の業務管理を主任保育士が行いました。

*会計は、園長交替後は特に事務員と日々の経理業務を確認し、保育所運営全般の事務を、前年の書類で確認しながら行いました。

*保育士、栄養士、看護師、用務が管理部に集中し連携を取り、児童の栄養管理、食育、保健、環境整備を行いました。

（5）設備、環境、保育材料

*2014 年 4 月の消費税 8 %前に各クラス遊具の点検を行い、年齢に合わせた購入を行いましたが、予算案と連動した執行出来なかったところは反省ですが、ほぼクラス担任の希望通り購入できました。また、開園 11 年目にあたり劣化していた施設整備や給食

設備関係費の修理、購入があり補正予算を組みながら整備してきました。

*園庭の植栽は、主任保育士と用務が中心に整備して行いました。

*給食室のガス給湯器 1 台新品に買い換え、保存用冷蔵庫と給食職員用洗濯機を買い換えました。

2. 保育内容

(1) 子どもや保護者の状況と保育実践、保護者支援

*柳生地区は、戸建やマンションが多い地域であり、経済的に安定している家庭が多い地域ですが、126名の在籍中16名が非課税世帯（生活保護世帯1名を含む）で、そのうち一人親家庭は13名です。保育料の滞納は、1家庭ありましたが深刻な状況は免れているようです。ひとり親家庭で、離婚調停中で、休みなくWワークしている家庭もあります。また、精一杯生活している家庭によっては、保護者が子育てへのゆとりを持たず、子どもの気持ちに寄り添えない状況からか、園で大人に関わってほしいような自己主張をだす場面も多く、個別の家庭状況を把握したうえで子ども理解が必要です。また、子どもを支える保育者の心労を支えるための管理部体制と職員体制が重要になっています。

*行事は例年通り実施できました。2月にアンケートを実施し、111家庭中73家庭から回答を頂きました。行事については天候に左右された場合以外は、おおむね満足との回答でしたが、小学校行事と日程が重ならない希望が数件あり、次年度検討していきます。保育園便り等で園の方針やクラスの保育で大切にしたいことがどのくらい伝わっているのかを知りたいと思い項目に入れました。おおむね読んでくれています。クラス便りのみという方もいて、お便りに工夫が必要との数件の意見もありました。保育者の接遇に対する不満やわが子を見てほしい思いや子ども同士の関わりなど伝わりにくく感じている家庭も、年齢が上がるたび多くなる傾向があることが分かりました。それも関連して発達への園で関わり方やトラブルでの対応の仕方、園でのこどもとのルールなど知りたいとの思いもだされました。園長が交代して一年になり、以前より温かみを感じない・事務室内に声のかけにくい雰囲気があるとの率直な意見もあり、保護者の方との関わり方を考えていきたいと思えます。園の設備についても、片付けの仕方、子どもの把握の死角の場所、設備の不具合、駐車場のルール等について意見が出されましたので、検討していきたいと思えます。

年二回のクラス懇談会は、年齢の発達の大事にしたいことを知らせる機会でもありますが、保護者同士が同じ悩みを持つ親として知り合える場でもあり、悩みを話せる大切な時間だと感じます。時間配分を考えながら、皆さんが話せるように進めていきたいと思えます。

*保育内容については、「一人一人の思いを大切に、仲間の中で育ち合う」を掲げてクラスごとに保育を行ってきました。研修を大事にして、チームワークと保育士の専門性を

高める努力をしてきました。各クラスの月ごとの職員会議で子どもを捉え保育計画を立て実践し、3歳未満児会議、幼児組会議で反省し次の計画に反映するようにはしてきました。5歳児クラスでは配慮の必要な児童が複数在籍しており、クラス会議で個別の方針を検討しました。幼児組の3、4、5歳児の縦割り活動は、4年目となり異年齢の交流保育の中で育つ保育の目標・年間計画を立てて異年齢のこども交流を作ってきました。同月齢では生まれない育ちあいも生まれています。との中堅保育士からの提案による自主研修「場面記録会」は正規職員を中心に参加し、臨時保育士にも呼びかけ、担当クラスの気になる子どもを職員みんなで検討できたことは、保育を前向きに見直すきっかけとなり、職員の励みの場となりました。

(2) 保健活動

*怪我：受診した事故は3件でそのうち、日本スポーツ振興センターに請求した事故が1件でした。前額部裂創、外部性歯の脱臼、脳震盪でした。ヒヤリハットでは、障がい児ではない支援の必要な園児の公園滑り台からの落下等もあり、支援の必要な園児の園外保育時援助の必要を感じ対策を取りました。事故とヒヤリハット含め全体職員会議で問題点と対策をその都度検討し確認しながら再発防止に努めました。

*給食職員体制が変更になったころ、誤食をだしてしまいました。給食職員が間違っ配膳し、食物アレルギー児に誤食させてしまいました。給食室ですぐに気付かなかったことや保育士も配膳時の確認でも気づけず、関係者で会議し、全職員に伝えました。大事には至りませんでした。アレルギー児への誤食という、あってはならないことへの職員の意識を改めて確認し、給食室の体制についても検討し、リスクを減らすためのメニューの再検討を行いながら進めています。

*与薬は、年間(4～2月)で3015人でした。アトピー性皮膚炎の毎日の軟膏も含まれていることもあり、昨年より多い与薬になっています。看護師が一人で与薬をしています。人数が多い日は1時間以上かかり大変さはありますが、専門に行くことで、誤薬を防いだり、薬の量の確認などができています。

*今年度は、感染性胃腸炎が1月に0歳児クラスに流行し、全年齢でぼつぼつ広がり家族間での感染や職員の感染もありました。23日に合計で10名の罹患率を超え、太白保健所に報告したところ当日に保健所の指導が入りました。翌日2名の検体からノロウイルスが検出されました。園内の清掃と消毒を行い、おむつ替えの手順についても徹底しました。罹患者の合計は、子どもは18名、職員3名でした。2月2日には、終息しました。

*インフルエンザについては、正月休みに家族で罹患しましたが、家族間で単発的に罹患するものの、園で蔓延することはありませんでした。

*

(3) 給食室から

栄養士が変わり、今までつくられてきたもりの子保育園の給食計画を継続していくため、給食職員と協議を重ねて給食業務を務めました。年間を通して食育基本法に示された一人一人に対応する考え方で取り組みました。クラスの食育は、調理師と共に食材に触れる取り組みや栽培を活かした献立、また保育者の要望に応えたクッキング活動への取り組みを行いました。しかし、栄養士がもりの子の給食を継承しようと取り組んできましたが捉えが十分でない面もあり、栄養士が行う意図を明確化したり自分のものとしたうえで取り組んでいくことが、今後の課題です。

(4) 安全管理

*防災マニュアルを確認し、ゲリラ豪雨などで名取川氾濫時の避難先として市民センター2階への避難を今年もお願いしました。また情報収集用の防災備品のチェックも避難訓練時に行いました。

*不審者対策として、年1回訓練を実施、普段使用しない音楽を流すことで、瞬時に危険を察知できるようにしました。

*年間を通して月一回の避難訓練を行いました。内容は火災訓練8回、地震訓練4回、通報、消火訓練を行いました。

*散歩時はマニュアルに基づき、経験保育士が気を配る点を後輩保育士に伝えあいながら安全に行えるようにしました。

3. 職員の研修と評価

(1) 研修テーマは「仲間のなかで一人ひとりを大切にする保育」とし、研修計画をたて計画的に行ってきました。園内、法人内研修は年間11回実施しました。また仙台市保育所連合会、仙台市、私立保育園協議会主催の研修、全国合研、全国保問研へ参加させてきました。

職員の自主研修として、仙台保育問題研究会に参加していますが、園内でも自主的に保育の場面記録研修会が行われ、子どもをどう捉え、その時の働きかけがどうであったか振り返り自己研鑽に励む成長が見られています。

(2) 障害児保育については、園内研修ではアールより講師を招き、保育を観察してもらい担当職員や園長が研修を受けました。

統合保育児童ではないが、発達に困難を抱えている児童が在籍している中で、多くの職員で研修会に参加して学ぶことが今後必要に思います。

(3) 年2回の総括会議を行い、保育指針に示されている保育士等の自己評価を職員集団の討議を経て、保育の質を高める視点で自己評価を行いました。

4、小学校や地域との連携

- (1) 就学に向けて年長児の児童要録を児童の入学する小学校へ送付しました。また柳生小学校1年生の学習時間の見学をさせていただきました。近隣の柳生児童館と西中田児童館から指導員が見学にきました。小学校で行う幼保小連絡会に年長児担任と主任が出席し引き継ぎしました。
- (2) 小学校の町探検(2・3年生)での保育所の紹介や中学校の職場体験と保育学生のボランティア4名を受け入れました。
- (3) 柳生町内の老人会と昔遊びを教えてください、交流しました。
- (4) 地域の子育てを支援していく「遊ぼう会」は園庭解放も含めて、わらべうたやプール、芋ほり、給食食事会など12回計画しました。年間を通してのべで組の親子の参加でした。参加者がいない会がみられました。保育所入所にむけた体験の意味合いがある参加者も見られました。専用の場所もないことが悩みで、大きく呼びかけていけないことがあります。保育園前にポスターを張り、見学者に案内プリントを渡している程度の取り組みになっています。また、案内の掲示やプリントに育児相談の受付も書いておきましたが、利用はありませんでした。今後地域の子育て支援の取り組みを限られた条件の中で、どのようにしていくか検討が必要です。

5、補助金事業

①延長保育について

- ・利用時間については18時15分までの子ども数が減少することがなく、しかし延長保育までは利用しない児童が多い状況です。昨年より利用数や登録が減少しています。
- ・年間後半にかけて、利用人数が少なく、平均13~18人でした。今年度は0歳児の登録がなく、一つの保育室で延長保育を実施、遊びの工夫をしながら行いました。あわせてアレルギー児への配慮も行いました。

古川ももの木保育園

I. 事業規模

2014年度は定員90名に対して、4月は104名でスタートしましたが、年度途中の入退園が多い1年でした。

① 入園状況（毎月1日の利用数）

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	11	11
1歳	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
2歳	20	20	20	20	20	19	19	20	20	20	20	20
3歳	19	19	19	19	19	18	18	18	18	17	17	17
4歳	17	17	17	17	17	16	16	16	15	16	16	16
5歳	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
合計	104	104	104	104	104	101	101	102	100	100	100	100

② 職員体制（4月1日現在）

	園長	保育士	看護師	栄養士	調理員	事務・他	計
正規職員	1	13		1			15
臨時職員		4					4
パート(6H.)		2			1		3
パート(5H)						2(事務.用務)	2
パート(4H)		5	1		2		8
パート(3.5H)		1					1
パート(3H.)					1		1
パート(2.5H)		1					1
計	1	26	1	1	4	2	35

*今年度は古川くりの木保育園開設に伴い、古内文子園長から、小関靖子先生が園長業務をひきつぎました。中堅職員の移動に伴い、6名の新入職員を迎え年度当初35名の体制でしたが、7月末看護師が退職、9月に保育士1名が産休に、2月からさらに産休者1名、2月怪我のため4時間パート職員の欠員となりました。園児数の減少もあり職員の協力のもといずれも補充なしで運営できました。

*9月産休に入った伊藤由比の後任に森谷梓を副主任とし、保育業務が滞らない体制をとることができました。

Ⅱ. 保育内容について

1) 子どもや父母の状況と保育実践

①保育で大事にしてきたこと

*6名の新入職員を迎えたことで保育について確認、伝え合うことを丁寧に取り組んできました。そのことで、今までの保育を振り返ることもできました。年齢に応じた保育の工夫が見られ0.1歳児混合クラスでは保育室をダンボールで仕切った環境構成についてまとめることができました。今後はどの年齢でも、意識的にとり組むことが必要です。また集団作りについて全職員で学ぶことを確認しました。

*子どもの人権について全職員で学ぶ機会を持ちました。常に理念に立ち返ることの大切さを確認しました。

*障がい児へのかかわりは、加配保育士を配置したことでどの子へもきめ細やかな配慮ができました。

ダウン症のお子さんは(4歳)、食べる意欲や、身体的な発達が目覚ましく、立位、歩行につながりました。

②保護者との関係づくり

年2回のクラス懇談会、クラス便りなどを通し、また日々の伝え合いを大切に保護者との信頼関係が築けるよう取り組んできました。10月に「保護者アンケート」を初めて実施し、保育園に対する評価、要望等を知ることができ、保護者に対する接遇を振り返る機会となりました。12月には宮城野児童館館長の菅井先生による「育児講座」を実施、9名の保護者が参加、子育てで大事にしたいことを確認できました。開催時期をもっと早めるべきでした。今年度は、保護者と共に子ども・子育て支援新制度についての学習会、保育合研への参加、保育署名、保育パレードにも取り組みました。

2) 保健活動から

7月に看護師が退職し、その後補充ができないまま、看護師業務を園長、主任で担ってきました。

感染症予防を徹底し、冬季の感染症はロタウイルス感染で0歳児2名が1月に入院したものの拡がりを防ぐことができ、インフルエンザは1月に6名、2月に2名、3月に1名の罹患で終息し、感染が拡がることなく過ごせました。

年2回の内科検診、歯科検診も全員受診しました。歯科では3歳児になり急に虫歯のり患が増え

特に5歳児では、1人で10本、6本など前期より増えている傾向が見られました。個別に保護者に声掛けをしました。保育園での指導とともに、保護者に対する、働きかけの必要を感じました。

病院受診は6件ありました。(1歳児2件、3歳児4件：転倒による打撲、擦傷、指はさみなど)

《2014年度 投薬依頼数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	177	154	185	152	136	194	239	223	192	150	154	265	2221

《2014年度 アクシデント件数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	21	19	12	10	13	18	12	14	13	11	13	9	165

3) 給食室より

《配慮食》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	10	9	0	2	3	4	2	8	0	4	2	0	44

今年度も配慮食のほとんどが下痢による配慮になっています。

《アレルギー除去食》

年齢	アレルギー除去食内容
0歳児(2名)	小麦全般、卵全般、牛乳全般 卵そのもの
1歳児(3名)	ゴマ全般・キウイフルーツ、卵全般、卵そのもの
1歳児(1名)	ピーナッツ
3歳児(1名)	卵そのもの、牛乳そのもの
3歳児(1名)	乳全般、卵全般、小麦全般

年間での誤食は2件(マヨネーズの味付魚を食べた・床に落ちたものを拾って食べた)
いずれも1歳児)

《主な食育活動》

4月	菜園活動計画	10月	魚の解体ショー、クッキング
5月	よもぎだんご作り	11月	収穫祭、クッキング、地場産給食
6月	野菜皮むき・おにぎり、サンドづくり	12月	もちつき会、バイキング給食
7月	野菜の収穫、クッキング	1月	クッキング
8月	お泊まりクッキング、	2月	クッキング、食具調査、味噌パーティ
9月	青空給食、団子づくり	3月	バイキング給食、クッキング

*今年度は、畑を整備し、JA 古川の指導も得ながらトウモロコシ、大豆の栽培に取り組みました。

秋の大豆収穫後、調理員の協力を得ながら、味噌作りをし、2月の懇談会時、味噌パーティ

ィを実施し保護者にも好評でした。年間を通しての活動ができ、来年度の計画にもつながることができました。

*年齢に応じた食育活動を実施し、その日の活動を写真を含め玄関に掲示し、保護者に伝えることができ好評でした。

*父母への働きかけとして：離乳食試食(父母懇談会にて)・レシピ配布・各家庭食事アンケートを実施しました。

4) 職員の研修と評価

全職員が、学べるように、法人の研修を優先に、園外研修に積極的に参加し資質の向上が図れるようにしました。研修の復命を重視し、全体の学びになりました。職員会議や、総括会議では、グループ討議を取り入れるなど、どの職員も発言でき、さまざまな役割を経験できるようにしてきました。今後は各人の課題を明確にし学んでいくことも必要です。

Ⅲ. 補助金による事業

① 延長保育事業

延長保育登録数は、在園児の半数が登録し利用しました。7時過ぎのお迎えもみられ、保護者の仕事の大変さが伺えます。延長保育時間の保育の配慮や職員体制の検討・改善も行ってきました。また延長利用児のアレルギー対応も確認しあい誤食の防止に努めてきました。

〔2014年度の利用状況〕

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6:01 時点の平均数	27	30	29	27	22	27	29	27	31	28	17	28
6:31 時点の平均数	14	16	16	16	13	15	15	17	18	16	12	14

〔2014年度延長保育事業収支報告〕

収 入	国・大崎市の特別保育補助	5,933,000	支 出	人件費	
	大崎市延長保育利用料補助	1,206,000		・延長専任パート職員分(2名)	1,877,000
				・常勤職員延長担当分(3名)	1,656,000
				・保育教材・水光熱代	520,000
				・延長オヤツ代	200,000
		7,139,000			4,288,000

収支 7,139,000 - 4,288,000 = 2,851,000 延長保育事業収益 2,851,000 円

② 地域交流事業

地域交流事業として「夏祭り」を行いました。また、地域・世代間交流として「お店やさんごっこ」を1月に実施しました。あそぼう会は年5回行い、わらべ歌遊びを3回実施、地域の子育て中の親子の交流の場となっていますが参加家庭が少なかったため(述べ大人10人、子ども12人) 今後は宣伝方法などを考え、多くの参加を呼び掛けていくことが課題

です。

収入		支出	
保育所地域活動事業補助	100,000	夏祭り地域交流会 (ほうねん座) 出演料	100,000
		育児講座・遊ぼう会講師料	29,000
	100,000		129,000

収支 $100,000 - 129,000 = -29,000$

地域交流事業収益 $-29,000$ 円

下馬みどり保育園

1 事業規模

(1) 入所児童

多賀城市の合計特殊出生率は県内で一番高く、待機児童は60名程度いましたので定員を超えて入所させました。

毎月1日現在

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11	12	1月	2月	3月
0	5	6	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
1	15	14	14	15	15	14	14	14	14	14	14	14
2	15	14	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
3	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
4	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
5	11	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
合計	66	64	68	69	69	68	68	68	68	68	68	68

(2) 職員配置

年度末

	園長	保育士	保育 補助	栄養士	調理員	看護 師	事務 員	用務 員	計
正規職員	1	8		1					10
臨時職員		5							5
パート6時間		2			1	1	1		5
5時間								1	1
3:15時間		1	1						2
計	1	16	1	1	1	1	1	1	23

2 保育内容

(1) 行事

月	行事名
4	入園式
5	内科検診 歯科検診 遠足 鶴ヶ谷保育所と交流保育
6	蟻虫検査、交通安全教室、 クラス懇談会（0歳児、1歳児、4・5歳児クラス）

7	七夕会 クラス懇談会（2歳児、3歳児クラス） プール開き、なつまつり
8	5歳児お泊り会
9	交通安全教室 坂病院デイサービス訪問、
10	運動会、鶴ヶ谷保育所と交流保育 内科検診、歯科検診 さんまパーティー 芋ほり
11	子ども作品展 鶴ヶ谷保育所と交流保育 勤労感謝訪問 食育（鮭の解体） 焼きいも会
12	もちつき会 クリスマス会
1	正月遊びの会
2	豆まき 交通安全教室
3	ひな祭り会 卒園式・修了式

*避難訓練、誕生日会は毎月実施

（2）保育活動

活動名	内容
菜園活動	<p>屋上に33㎡の畑、有機肥料の土を補充、 レタス、スナックエンドウ、キヌサヤ、ホウレンソウ、はつか大根 レタス、キュウリ、プチトマト、玉ねぎ ジャガイモ18kg…イモ餅クッキング、おやつのパテトチップ等 サツマイモ32kg…焼きも会で使用、交流保育をしている鶴ヶ谷保育所を招待して芋ほりをする予定だったが雨天のため中止になったので、当園の子どもだけで芋ほりをして、鶴ヶ谷保育所に届ける。</p>
食育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の観察 タケノコの皮むき、ピーマンの種取、枝豆もぎ、白菜解体、 たまねぎの皮むき、トウモロコシの皮むき ・さんまパーティー ・鮭の解体を見学 ・親子クッキング…のり巻き ・クッキング ・行事食…七夕、クリスマス、餅つき、七草粥、豆まき、ひな祭り ・リクエストメニュー…ラーメン屋さん、寿司パーティー、 くまさんアイス ・保護者向け…クラス懇談会で給食試食会

3 保健活動

(1) ヒヤリハット

項目	件数	主な内容
転倒	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 床で滑った ・ 椅子の背持たれに座って後ろに転倒 ・ 椅子に浅く座って尻を滑らせて尻もち ・ 園庭の滑り台の階段で足を滑らせた。
衝突	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホールで思いっきり走り回って曲がりきれなく柱に衝突した。 ・ 子ども同士走って衝突
アレルギー誤食	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 午睡後あわただしくおやつに時間になり牛乳カットの子に飲ませた。 ・ アレルギー児がお替りしたいというので、うっかりして普通食を与えてしまった。
誤薬	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0歳児にスポイトを使って飲ませて、スポイトを机に置いていたら他の子がなめた。
その他	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ エプロンにキャップがないボールペンを入れていて0歳児を抱っこしたとき足に書いてしまった。 ・ 前日の夕方保育室で教材準備してプラスチック破片が落ちたのに気付かず、拾って口に入れた ・ 散歩でビービー弾を拾って鼻に入れたと子どもの訴えで受診したが入っていなかった。
合計	13	

反省… 保育士の不注意によるものが多いので、落ち着いて職員間で確認しながら防止していきます。

(2) 事故 なし

(3) 病欠の主な病名

病名	インフルエンザ	突発性発疹	水痘	手足口病
人数	9	4	6	9

病名	とびひ	感染性胃腸炎	ヘルパンギーナ	溶連菌感染症
人数	1	7	11	2

*病名を診断された人数（発熱・かぜ・腹痛等は含まず）

(3) 与薬 3,043 件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
件数	321	344	216	290	184	246	237	218	195	167	85	56

3月 は 13日 までの分です。

4 補助金事業

(1) 特別保育事業 (補助金額)

単位：千円

事業名	内容	人数	金額
延長保育促進事業	対象時間 7:00~7:30 18:00~19:00	31	6,519
乳児保育促進事業	乳児保育のための保育士を配置して年度途中入所に対応する。	9	1,000
地域活動事業	なつまつり、運動会、クリスマス会に地域の子どもが参加		90
障害児保育	自閉症広汎性発達障害 ダウン症	2	1,502
病後児保育	病気回復期にあり集団生活が困難な児童の保育	のべ53	4,213
合計			13,324

(2) その他の補助金事業

事業名	内容	金額(千円)
私立保育園環境整備補助金	私立保育園の運営に要する費用 1人当たり 3,000円×のべ人数 811	2,433
入所児童処遇特別加算費	用務員雇用	1,015
保育士等処遇改善臨時特例事業	正規 85,000円 臨時 70,000円 パート 50,000円(6時間) パート 20,000円(5時間) パート 10,000円(4時間未満)	1,689
合計		5,137

5 実習生等の受け入れ

保育実習生	保育観察実習	研修医	中学生体験実習	ボランティア
5	8	4	0	2

6 苦情

- ・「気になる子」の保護者と面接して、保育園の様子を伝えたところ後日、苦情申し立てをしたということだった。
母親から担任の対応が悪い、うちの子はそんなに落ち着きがないのかという内容だった。専門機関で検査の結果、知的、身体的な発達の遅れがあると診断されて、入学後は配慮してもらうことになった。

7 課題

- ・1歳、2歳児の入所申込みが多く、1歳児クラス、2歳児クラス各12名定員のところ各15名を入所させた。3歳未満児6人を拡大して入所させることにより、前年度比較で約8,000千円の増収になった。
毎年3歳になると幼稚園に移行する子どもがいるが、今年度は全員継続入所になったので、3歳以上児の保育室の面積にふさわしい入所児童数にしなければならない。(各年齢12名)
- ・保育士の確保が困難で、臨時保育士は人選する余裕がなく、資格があれば誰でもいいという状態です。保育の継続性、質の向上に影響しています。
- ・病後児保育の利用数は昨年度より増加したものの依然として少ないので、利用者の拡大を検討します。
- ・職員研修として障害児保育関係に多く取り組みました。次年度は身体的障害や発達の遅れがある子どもについての研修機会を作ります。

くさの実保育園

子どもの健やかな成長と保護者の就労支援を重点目標として、産休、育休明けの子どもを受け入れてきた。当初は20名程度の入所見込みがありましたが、地域の認可保育所に入所できたので13名の入所になった。

また夜勤や休日勤務、諸会議等に対応するため夜間保育、休日保育を実施してきました。

1 利用児童数

①日中園児数

月末

数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人	1	1	2	2	2	3	7	9	12	13	13	13

保育時間 8:00～18:00

②夜間保育のべ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人	14	14	19	20	20	22	24	22	25	25	15	22	242

保育時間 16:00～21:00(休日を除く) 前年度比407人増

③休日保育のべ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
人	4	4	9	6	6	7	5	12	14	3	9	8	87

保育時間 8:00～18:00 年間32日

2 職員配置

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
保育士 8h	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3
保育士 6h	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補 助6h	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
保育補 助4h	1	1	1	1	1							
保育士						1	1	1	1	1	1	1

4H												
合計	6	6	6	6	6	6	6	7	7	7	7	7

- ・ 経営的に正規保育士は 1 名にしており、臨時・パート職員の割合が多く、保育の質を確保するのが課題です。
- ・ 年度途中で保育士を雇用するのは困難なので 4 月当初から一定の保育士の雇用する必要があります。

2 保育内容

① 日中保育

- ・ 子どもと保育士の愛着関係を大切にした。
- ・ わらべうた、手遊び、をとおしてスキンシップや友達関係を広げた。
- ・ 保護者に保育園の子どもの様子を伝えながら信頼関係を作った。
- ・ 母乳育児の推進…今年度は 2 人
- ・ 遊び、睡眠、食事を基本に生活リズムを整えた。
- ・ 体づくりのためベビーマッサージ、赤ちゃん体操、屋上で外気浴、散歩
- ・ 誕生日会、避難訓練は下馬みどり保育園と合同で実施した。

② 夜間保育

- ・ 1 歳～小学 2 年生の 30 名の子どもの一時保育を実施した。
- ・ 利用頻度は 2 か月に 1 回という子もいれば月に 10 回利用する子どももいた。
- ・ 登園時に発熱している子どももいて、受け入れ時の健康状態に注意した。
- ・ 小学生には広い空間での遊びを大切にして下馬みどり保育園のホールを利用することもあった。

③ 休日保育

- ・ 毎回 5 名程度の利用でゆったり楽しく過ごせるように工夫した。
- ・ 事故、怪我に注意して安全面に配慮した。

3 健康

- ・ 内科・歯科検診は年に 2 回実施
- ・ アレルギー児への対応
診断書に基づきアレルギー食を提供しています。除去食を提供していますが、拾い食い等で蕁麻疹反応があった。
- ・ 感染性胃腸炎の子どもが出ると、昨年同様全員に感染する状態です。
- ・ 受診するような怪我はなかった。

4 安全衛生環境整備

- ・避難訓練は下馬みどり保育園と合同で実施
- ・採光、換気、冷暖房、湿度の管理
- ・おもちゃの消毒、保育室の清掃に配慮した

5 認可外保育施設運営費補助金

多賀城市に居住する子どもに対して補助金がありました。

@4500 円×のべ22人=99,000 円

5 評価と課題

- ・日中園児の保育時間は 8:00～18:00 だが迎えが 18:00 を過ぎることが多く、病院の時間外勤務が常態化しているようだ。
- ・夜間保育と休日保育の予約が急にキャンセルされることがあり、勤務予定職員の業務がなくなることがあった。
- ・年度当初は日中保育の子どもが少ないので、下馬みどり保育園で実務研修ができた。

古川くりの木保育園

東日本大震災後の資材不足と建築費高騰の中での建設でしたが、4月に予定通り開園でき法人理念に添った施設運営に努めてきました。

1. 事業規模

1) 入園状況（毎月1日の利用数）

初年度の2014年は定員75名に対して、幼児の4・5歳の入所希望が少なく未満児の希望者が多かった為、0歳～3歳児中心の64名で出発し年間通して変動なく推移しました。

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
1歳	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
2歳	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
3歳	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
4歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64

2) 職員体制

	園長	保育士	看護師	栄養士	調理員(師)	事務・他	計
正規職員	1	11		1			13
臨時職員		4					4
パート(6H)		3+1	1		1		6
パート(5H)					1	2(事務・用務)	3
パート(4H)		2					2
パート(3H)					1		1
計	1	21	1	1	3	2	29

上記の他に嘱託内科医1名、歯科医1名。

職員体制は、古川ももの木保育園からの8名の異動職員と、新たに採用した20名の計28名でスタートし、途中給食パート1名の交代がありました。

新規保育事業の一時・特定保育に正規保育士1名・臨時保育士1名の2名を配置し、病後児保育に看護師・4Hパート保育士の2名を配置しましたが、利用者が増加したことで8月に6Hパート保育士1名を補充し対応しました。

3) 保育事業内容

事業としては大崎市より要請があった一時・特定保育、病後児保育の他、産休明け保育・

1 時間延長保育・障がい児保育・地域交流事業（遊ぼう会）を行いました。

4) 職員の業務分担と役割

- ・新設園のスムーズな運営に向け、園長・主任・副主任の 3 名の体制で管理運営に努めました。
- ・0 歳児 1 クラス、1 歳児 2 クラス、2 歳児 1 クラス、2・3 歳児混合 1 クラスの未満児中心の 5 クラスを担当保育士 15 名で運営しました。
- ・一時・特定保育クラス、病後児保育は 4 名の担当職員と管理部・事務が協力して対応しました。
- ・事務は本部の指導の下、初めての経理・総務業務を事務員と管理部が協力して日常業務に支障のないよう努めました。
- ・児童の栄養管理・保健業務・環境整備等は、保育士・栄養士・看護師・用務が管理部と連携をとりながら取り組みました。

5) 設備・環境・保育整備について

- ・開園後、保育や行事に必要な備品・保育材料を検討しながら計画的に購入し、保育内容の充実に努めました。
- ・保育運営の上で、安全や不具合があるところの改善を必要に応じて行いました。
- ・園庭や園周辺の散歩コース等の安全点検を随時行い必要に応じて改善しました。

2、保育内容について

1) 保育内容

- ①新設園として、職員も多数加わり、法人理念をもとに保育の共通認識をはかることや日々の伝え合いを大切にしてきた 1 年間となりました。クラスの悩みを共有したり、課題があればどうしていくかなど定期的に行い話し合えるよう会議など工夫し行ってきました。また、年 2 回の総括会議ではグループ討議を行い保育について一人一人が意見を出しあい、確認し合えました。年齢ごとに発達をおさえて保育していく重要性も感じたので、今後クラス会議でも学習を位置づけ担任同士が共通認識で保育できるようにしたいと思います。園内研修は、保育理念の研修を行い全職員で学ぶことができました。その中でも“場面記録”を学ぶことができ、今後の保育に生かしていきたいと思います。
- ②障害児保育：今年度は 1 歳児クラスに 2 名、3 歳児クラスに 1 名の児童が在籍しました。子どもや保護者との信頼関係を作りながら、友だちの中で成長する姿がみられました。担任間の悩みなど園全体で理解し子どもの育ちを見守り、関わっていくことが求められていると感じています。

2) 保護者との関わり

日々の伝え合いを大切に、保護者との信頼関係づくりにつとめました。年 2 回の父母懇談会では、保護者の悩みや子どもの成長を喜び合える場となり、保護者同士をつなぐ大切な場であることを感じました。また、保育参加では保護者が一緒に保育に参加

することで保育を知ってもらう良い機会となり、保護者と交流できる場にもなりました。今後も保護者理解につとめ、保護者が安心して預けられるよう寄り添っていききたいと思います。

3) 安全管理について

- ・災害時の非常食は後期に購入し、備蓄できるようにしました。災害用の避難リュックについては今後準備していききたいと思います。
- ・年間を通して月 1 回の避難訓練と年 1 回の不審者訓練を実施しました。職員同士の役割・連携をしっかり行っていききたいと思います。
- ・危険個所の改善については、2 階の窓からの転落防止の為、柵を設置しました。今後も安全に保育園生活を送れるよう配慮したいと思います。
- ・全職員を対象にして救急救命講習を年 1 回行いました。

4) 職員研修について

- ・法人経験のない新入職員が増え、保育理念や子ども一人ひとりを捉え大切にする保育の共通認識を持つために、研修計画を立てました。園内や法人内の研修は、年 8 回実施し、職員同士で学び合うことができました。その他、大崎市、県保協、現任保育士研修、全国合研、全国保問研、などへ多数参加し全国の保育情勢や保育実践を学ぶことができました。
- ・年 2 回の総括会議を行い、保育で大事にしてきたことを確認し深めることができました。

5) 小中学校や地域との連携

- ・中学校の職場体験受け入れや工業高校との交流がありました。さらに広がりをもていききたいと思います。幼保小との連携については、今後の課題です。
- ・福沼地域の方との交流については、今後行事（夏祭り、もちつき会）に誘い、近隣の学校とも連携をし、様々な取り組みを通して地域の中の保育園として取り組んでいききたいと思います。

6) 保健活動について

《2014 年度 投薬依頼数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	140	277	226	228	171	206	214	110	160	130	200	212	2274

《2014 年度 アクシデント件数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	9	8	12	5	7	18	7	3	3	2	3	3	80

投薬依頼は感冒が大半を占め、一年を通して依頼の件数が多く体調を崩しながらも登園している子どもが多いことが分かります。子どもの体調の変化に十分配慮して保育していくことや、保護者に対して家庭での過ごし方（休息や栄養などの基本的な部分）、病気のとときの対応について指導援助が重要であると感じた1年です。

投薬は同じクラスで一日に5名以上依頼がある場合もあり、細心の注意をはらいミスが起こらないよう、ダブルチェックを基本に確認を継続していくように努めました。

保育中のアクシデントについては、前半に誤食に関するアクシデントが発生しました。その都度、給食室内や職員間の意思統一を図りミスが減りました。アレルギー児の誤食は、命に関わる事例に発展する事もあり注意していく必要があります。アクシデントで病院受診に至ったケースは2件ありましたが、早い病院受診の対応で保護者との関係は良好でした。

また、集団保育の中での感染拡大防止の点から、適切な時期に予防接種を済ませてもらう呼びかけを重視しながら、予防接種歴の把握に努めてきました。

7) 給食室より

- ・開設1年目は離乳食やアレルギー食、障害を持つ児童一人一人に丁寧に対応する考え方で取り組んできました。しかしアレルギー児への誤配膳といったミスがあり、献立の見直しや職員の話し合いで配膳前のチェックの改善を図りました。また、離乳食では0歳児クラスや一時保育児の離乳食の進み方に個人差が大きく、1歳を過ぎても完了食に移行できないケースの、家庭との連携が十分に図れなかった点は今後の課題です。

- ・「日本人の食事摂取基準」に基づき栄養所要量の評価を行い献立に活用しました。必要量は毎月ほぼ充足していますが、食物繊維は70%程度の充足率の為改善を図ります。

- ・行事食は毎月1回のお誕生会と地場産給食を行いました。行事の趣旨や子どもの食べている様子を家庭に伝える工夫が必要と感じました。来年度は食事の展示のほかに家庭への情報提供になる掲示物の作成に取り組めます。

- ・保育と一緒に以下のような食育活動に取り組み年齢に応じた経験ができました。

- 野菜、果物に触れてみよう（0, 1歳児クラス）

- 野菜の皮むき活動（1～3歳児の各クラス）（空豆、ピーマン、とうもろこし等）

- 箸、スプーンの持ち方指導（2～3歳児の各クラス）

- おにぎり作り（2～3歳児の各クラス）

- ・食育活動の計画案・報告書を作成して“テーマとねらい”を園全体で共有していきます。

3. 補助金による事業

①延長保育事業

〔2014年度の利用状況〕

申し込み利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
18～19時の平均数	2	5	6	7	8	8	8	8	9	9	8	7

・在園児 64 名で求職中やパート就労の保護者が当初多かった為か、利用者が少なめで、18時から19時までの年間利用は1日平均7.1名となっています。年齢別では0・1歳児が半数をしめ子育ての大変さが窺えます。

②病後児保育事業

《2014年度 病後児利用数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	6	5	9	8	12	20	8	13	19	14	31	11	156

病後児保育をスタートして1年目は利用者が延べ156名となり、月平均約13名程度の利用となりました。年齢的には、0・1・2歳児の利用が大部分を占めます。また、ダウン症などの基礎疾患を持つ子どもの利用もあり、障害を持つ子どもの支援という点からも、病後児保育室の果たす役割は大きいと感じた1年でした。下肢の骨折のため長期間（約3週間）の利用というケースもあり、働く保護者の支援としての病後児保育の役割を今後も担っていきたいと思います。

③一時・特定保育事業

《2014年度 一時保育利用数》

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	18	45	66	117	100	167	210	192	174	190	188	273	1740

一時保育の経験が初めての為、スタートから全職員が情報を共有しながら取り組みました。

登録・申請・予約・利用料金管理等の業務に追われる中、待機児童の増加に伴っての利用が定員10名を超え、保育体制づくりに努めながら1年間乗り切ることができました。年間の利用予定数は300名増加し補助金・利用料金で収益増につながりました。

④地域交流事業

〔2014年度の実施状況〕

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
あそぼう会								18	14		
世代間・地域交流(夏祭り)				362							362

地域交流事業として「夏祭り」を行いました。地域の方や一時保育利用の家庭の方が足を運んでくれ、くりの木保育園を知ってもらえる良い機会になりました。遊ぼう会は園が落ち着いてきた後半に2回実施し、わらべ歌の心地よさや子育て中の母親の交流の場になり、今後も取組みを広げていきます。

仙台市宮城野児童館

- 1 地域に支えられ、みんなで子育ての理念のもとに、地域の実情を踏まえた児童館運営を行うことを目標としてきた。
 - (1) 地域の実情を的確に把握し、そのニーズに応えられる児童館運営に取り組んだ。
 - ①学校・保育関係・町内会等の関係諸団体からの意見、要望を反映していくため、児童館運営懇談会を開催してきた。
 - ②利用者のニーズを調査するため、利用者アンケートを実施してきた。
 - ③幼稚園入園前や保育所待機児童の親子の情報交換や安全な遊び場提供の役割を果たしてきた。
 - ④館行事などでは、多くの地域ボランティアの方々に支えられながら運営してきた。
 - (2) 子どもたちの健全育成・世代間交流を重視した運営に努める。

大規模放課後児童クラブへのニーズに適切に対応してきた。また中高生・高齢者との交流を図る活動に努めてきました。
- 2 利用者サービス向上では、地域住民に親しまれ、愛される子育て支援の拠点としての児童館づくりをめざすことを目標として活動してきた。
 - ① 地域に開放され、地域の方に愛される児童館をモットーに広報活動に努めてき
 - ② 児童館だよりの小学校実家庭数への配布、地域町内会回覧板の利用、外部掲示板の充実、新聞等での情報提供等を行った。
 - ③ ホームページを開設し、行事や感染性疾患の流行情報など、誰もが簡単に児童館情報を入手できるようにした。
 - ④ 利用者との共感、信頼関係の構築に努め、そのための内外の研修に力をいれてきた。
 - ⑤ 個人情報保護に細心の配慮をし、信頼される居場所づくりに努力した。
 - ⑥ 年間利用者総数も 30000 名を超え、ボランティア参加の方も延べ約 300 名を超えた。
- 3 人材確保・育成では児童館職員は、子どもの人格形成にまで及ぶ職責を担うことを認識して児童館運営に従事することを宣誓し、日々研修に専念する。

One for all かつ All for one を合い言葉に、チームワークを重視する。

 - ①職員全員の子ども観を高め、日々、子どもの遊びの研修に努めました。
 - ②毎週 1 回全職員会議と毎日実施のミーティングでは、成長していく子どもの姿や課題を確認してきた。
 - ③各機関の実施する講習会や各種研究集会などへも積極的に参加し研鑽を重ねてきた
 - ④子どもの育ちの背景を知るためにも、保護者の労働環境の学習にも努め、保護者との対話を充実させてきた。
 - ⑤思春期を迎える小学校高学年以上の発達に係る研修にも参加した。

4 健全育成事業では子どもの成長発達を促し、可能性を引き出す日常の遊び・活動を充実させ、常時、発表や展示の場を積極的に設ける計画を具体化してきた。

(1) 乳幼児親子の絆を高める活動の展開

- ①児童クラブ室は、小学生の不在の午前中を子育てサロン室とし、ランチタイム、カフェコーナーで仲間づくりと子育て談義の場を展開してきた。
- ②2、3歳児登録制の幼児クラブ2クラスの活動を展開し、集団遊び、絵本の読み聞かせ、わらべうたあそびを充実させ、またおもちゃ作りや粘土あそび等の創作活動も実施し、幼児期に大切な心・感性・からだ・知恵を育ませてきた。
- ③「赤ちゃんサロン」を毎月1～2回開催し、育児相談活動や、育児談義と仲間づくりと、保健師や栄養士から子育ての知恵を学ぶ機会をつくってきた。
- ④利用者アンケートに寄せられた「幼児遊びの充実を」の声に応えるため、「ぷちぷち遊びの会」を月に1～2回開催してきた。
- ⑤夏場には乳幼児の水あそびの会を館の駐車場に簡易プールを準備して行ってきた。

(2) 小学生期には自主的な活動と手足を使った活動の展開、とりわけこの時期に「自分の責任で、自由に遊ぶ」子どもたちが育つための支援と個性を生かす活動を推進してきた。

- ①手指や道具を使用し、作って遊ぶことの奨励
- ②集団遊び、伝承遊びの奨励
- ③運動を通して体と頭と心を鍛える機会をさまざまな場面で展開してきた。
- ④読書や歌、ピアノやギターの練習など遊びを通して楽しんできた。
- ⑤日常の遊び・活動を大切に、子どもの個性や特技を生かし伸ばす活動を積極的に推奨し、図工作品の展示・人形劇の発表・草花の世話・折り紙・囲碁等の活動を日常化してきた。
- ⑥「こども会議」を開催し、子どもたちの意見で児童館活動を改善する機会を作り、また利用する子どもたちの課題については、必要に応じて「こども集会」を開催し、約束事の徹底を図ってきた。

(3) 中学・高校生対象には、自由で開放感を味わえる場と時間があり、自分の存在が認められる喜びの体験。思春期の悩みに耳を傾ける機会を設けることに努めてきた。

- ①行事への参画ーポスターづくり
- ②自主活動の場の提供ー運動や音楽活動
- ③小学生との交流
- ④仙台工業高校吹奏楽部の定期演奏会の実施

- ⑤仙台工業高校模型部作成のコマ撮りアニメの制作と上映会開催
- ⑥仙台工業高校建築クラブの協力を得て、木工教室の開催
- ⑦中高生の職場体験・ボランティア体験への積極的な協力

5 地域における子育て支援事業を推進してきた。

(1) 登録制の幼児対象クラブの活動

2歳児 3歳児を対象の登録制幼児クラブで、毎月1回、親子交流、仲間づくりの行事活動を展開してきた。

(2) 赤ちゃんサロン

乳幼児からの子育てのノウハウを学び、育児相談・育児談義と仲間づくり、保健師や栄養士の指導を受ける機会を設けてきた。

(3) ぷちぷちあそびの会

あかちゃんあそびを学びたいという利用者アンケートの要求に応え、月1～2回ぷちぷちあそびの会を開催してきた。

(4) 育児相談室

週5回のランチタイムと週2回のカフェコーナーを設け、おしゃべりサロンとしての親子交流の場を通して、育児諸問題・引きこもりの親の発見・館への誘い等の相談活動を行ってきた。

6 地域交流推進では、地域で子育て、みんなで子育てをモットーに地域連携を図り、地域の力を児童館運営に生かした。

児童館運営に地域の声を反映させ、よりよい地域子育て支援の拠点づくりを行う目的で、地域の教育・子育て福祉関係諸団体（小学校2校、中学校2校、高校1校、保育所（園）、幼稚園、連合町内会、社会福祉協議会、児童福祉協議会、民生児童委員等）で構成する宮城野児童館運営懇談会を開催してきた。

隣接する仙台工業高校との連携では、①吹奏楽部演奏会（8年目）、模型部のコマ撮りアニメの制作と映画会を実施（5年目）、建築クラブの木工教室（3年目）②生徒のボランティア活動も、もちつきや児童館まつりなど様々な行事の場で展開されてきた。③仙台工業高校の2年生全員が、家庭科保育単元の学習で移動教室を児童館で実施、乳幼児親子とふれあう場をもってきた。

地域に居住する方の水彩画や子どもたちの折り紙作品、平和を願う千羽鶴などの館内掲示で、季節感あふれる館内装飾を心がけてきた。

中学・高校生の利用数が初めて1000名を超えた。

地域の子育てママのハンドベルサークルの練習会場、演奏発表の場の提供をしてきた。地域の子ども会の催し物や子ども会役員の会議の場として、利用が拡大した。

- 7 放課後児童健全育成事業では、保護者が就労等で放課後家庭が留守になる子どもたちの居場所として、「児童クラブ」が果たす役割の重要性に応えるべく、安心・安全快適な「生活の場」を保障してきた。

保護者のニーズに応え、入会希望児童は全員承認してきた。

- ・小学校 2 校からの 100 名を超える大規模児童クラブ対応として、宮城野小学校教室にサテライト室（第 2 児童クラブ）増設して、希望者全員を受け入れてきた。
- ・本館と分室のクラス編成を行いながら、交流を密にして、子どもたちに満足感を満たさせる運営の工夫に努めてきた。また保護者や学校との連携を密にするよう努めてきた。
- ・遊びや行事参加の公平性に努め、自由来館児との融和を積極的にすすめてきた。

8 事故防止・防犯防災への取り組み

(1) 事故防止、防犯防災

利用者の生命を預かる使命感に徹し、安全安心の場に努める。また、不審者等から守る任務を常に念頭に入れて運営した。

- ① 月 1 日を安全点検日、また 11 日を防災の日とし、防災訓練を学校、警備保障会社（セコム）、消防署、警察署と連携をとりながら実施した。
- ② 防災訓練では、火災・自然災害対応等の訓練及び非常口経由の避難訓練、救急治療法の研修などを実施してきた。小学校との合同避難訓練も実施してきた。また、利用者及び職員の事故防止のための研修会参加、伝講に努めた。

(2) 事故、災害、緊急時への対応体制

- ① 非常事態に備えた職員組織体制の確立
- ② 指揮系統図、連絡系統図、職員分担、災害時対応のフローチャート等の作成、館内全室に緊急時のマニュアルを掲示した。
- ③ 児童及び来館者への日頃の教育、啓蒙を図ってきた。

(3) 来館児童・来館者の衛生管理

児童館における安全安心の維持管理に加えて、衛生管理の重要性にも配慮する。館内外の衛生管理状態を把握して、常に良好な状態の保持に努める。また、保護者への保健衛生に対する啓蒙—子どもへの指導、しつけ、生活習慣の改善—をしていく。

- ① 子どもたちの衛生状態、衛生管理（特に感染症）について、研修会等での学びを交流し情報の還元を行ってきた。手洗い場・トイレの清掃管理、ペーパータオルの常備、及び、館内外の清掃に努めてきた。
- ② 遊びから戻ったときやおやつ前の手洗いなど、日常的に呼びかけてきました。
- ③ インフルエンザの流行時には、児童館内外に感染症の病気の発生を知らせるポス

ターをり、感染拡大を防ぐよう努めた。

9 施設維持管理面での取り組み

(1) 施設の管理全般

警備保障会社（セコム）と業務委託をし、夜間・休館日の施設管理の徹底を図ってきました。また組織図に基づいた指揮系統の下に、管理に係る問題発生時は、仙台市並びに関係諸機関に相談連携し、迅速に対応できるようにしてきた。

(2) 施設の維持管理に係る個別業務

開館日の早朝全館清掃は、明光ビルサービスに業務委託し、また年 2 回の窓掃除（窓ガラス・網戸）と床のワックスがけ清掃を委託してきました。

また、印刷・コピー・冷暖房・施設内消毒・消火設備点検、樹木の消毒なども業務委託してきた。

(3) ごみ減量・エネルギー削減等環境配慮

利用者に電気水道の節約、ごみ持ち帰りの呼びかけを掲示物で行い、減量の意識化、地球環境への意識づけの広報活動を行ってきた。また牛乳パック工作、古新聞紙の再利用体験活動を実施してきた。

有機性廃棄物リサイクルの堆肥を利用しての花壇づくり、プランターでの花の栽培に取り組みました。

工房歩歩

【昨年度の事業活動状況】

工房歩歩の経営状況ですが、昨年度に引き続き赤字額を計上しているところです。(表1) 施設としては、これからも継続的に働く職場(施設)を守るため、更なる経営努力が求められるところです。

昨年度は、経営資源確保のため、内部売上の底上げとあらゆるコスト削減を図ってまいりましたが、結果(赤字額解消)まで至らなかったのが実態であります。

また、事業活動を通して一般就労も視野に入れた適正配置を一部職員及び利用者様も含めた編成見直しを図ってまいりました。定員20名 利用者数15名「利用率75%」(表2) 利用率を上げることが出来なかったことにより、宮城野の里(清掃業務)を取れなかったことも売上微増に留まった要因でもあります。そして、更にはサービス管理者不在による減算もあり、非常に苦しい一年となりました。

【今年度の取り組みとして】

今年度も新規利用者登録がないことから、昨年度の実績を維持しつつ、売り先を外部へとシフトながら開拓の課題を検討してまいります。また、展示会見学や外部講師も活用しながら新商品にも力を入れてまいります。

そして、利用率10%UP、売上ベース月間130万円を目指してまいります。

就労支援については社会的自立をめざし、「やる気・我慢・助け合い」を基調とし、どんな仕事に対しても役割を担うことで、責任を持って向き合う姿を実現できるよう支援してまいります。また、本意ではありませんが、黒字化対策の最終版として利用者工賃見直しの検討も視野に入れて進めてまいります。

行事予定について

4月	5月	8月	10月
・4/10 観桜会(G21) ・4/18 野球観戦	・5/6 てとて古川見学 ・5/20 避難訓練 ・5/31 共済運動会	・鐘崎笹かま館見学	・芋煮会 ・避難訓練

平成26年度 工房歩歩就労事業売上状況

(パン事業・受託清掃事業)

表 1

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
25年度	986	1,227	1,012	973	1,017	997	1,208	1,409	1,366
26年度	1,238	1,232	1,194	1,234	1,049	1,226	1,351	1,123	1,335

1月	2月	3月	年間合計	月間平均
1,100	1,120	1,146	13,286	1,107
1,138	1,135	1,173	14,433	1,202

☆前年度より、単月売上平均 10 万円 UP
年間 120 万円の上積みが出来た。
また、七十七銀行様の助成金 20 万円を
頂き、作業機材購入費に充てました。

※年間のサービス活動費差額

「収入(就労事業収入+訓練等給付費) - 諸経費」 = ▲ 1,943,346 円 (赤字)

【就労事業配置】

表 2

	職 員	利用者様
利府 工房歩歩	(正) 伊藤 裕智 (副) 小野 英俊 君ヶ袋美奈子	5名:製造業務 3名:包装業務
葉山 風の音	桜井 二三子	3名:清掃業務
田子 田子のまち	山王 栄二	4名:清掃業務
田子 宮城野の里	未 定	未 定

(定員 20 名) 実稼動利用者数 15 名 / 利用率 75%

障がい児者サポートセンターてとて

1. 平成 26 年度事業概要

障がい児者サポートセンターてとては、平成 26 年 4 月 1 日に開所しました。しかしながら、建築工事の遅れから障害福祉サービスの事業指定を受けたのが 6 月 1 日からということになってしまいました。年度途中の開所ということもあり、4 月から 6 月までの間には、利用者様へのサービス提供はない状態が続き、非常に厳しい状況下での経営となっております。児童発達支援において、6 月中旬からは少人数ではありますが「放課後等デイサービスてくてく」が稼働を開始することができるようになっております。また、9 月には「児童発達支援センターりんごのほっぺ」が稼働しております。就労支援においても、2 名の正式な利用者様が通所を開始されました。

年度後半以降は、各事業ごとに徐々に利用者数を増やしていき、3 月末までに何とか稼働率を 25～50% 台まで到達させることができています。しかしながら、厳しい経営状況であることに変わりはなく、法人及び事業所職員が一丸となって次年度の「大幅赤字解消」と「黒字化」へ向けた取り組みを計画的に進めています。

2. 各事業所の取り組み

(1) 児童発達支援部門

①基本方針

住み慣れた地域で相談から療育までのワンストップでの支援、そして幼児期から少年期までのライフステージで個々の状況に応じた専門性のある支援が多機能に提供できるセンター機能の定着を図ります。

②事業内容

事業名	利用定員	職員配置状況	員数
		管理者（事業所内の管理者を兼務）	1 人
児童発達支援センター りんごのほっぺ	10 名 (現契約 数 6)	・児童発達支援管理責任者 ・児童指導員及び保育士 ・調理員	1 人 4 人 1 人
放課後等デイサービス てくてく	20 名 (現契約 数 15)	・児童発達支援管理責任者 ・指導員及び保育士 ・支援員補助	1 人 4 人 1 人
保育所等訪問支援 てとて	定員なし (現契約 数 0)	・児童発達支援管理責任者 ・訪問支援員	1 人 2 人

相談支援事業所として (障害児相談支援) (特定相談支援)	契約数 児童 19 就労 9	・相談支援専門員	1人
---	----------------------	----------	----

③各事業所の取り組み

【児童発達支援センターりんごのほっぺ、放課後等デイサービスてくてく】

項目	具体的内容
個別支援 計画	障害児の身体、精神の状況及びその置かれている環境に応じ計画書を作成し、実施状況の把握、評価を実施。
集団生活 適応訓練	グループでの制作活動、ゲーム、スポーツ等のレクリエーション活動を企画、提供。
個別指導	個々の発達の状況に応じた個別課題（感覚遊び、積木、マッチング等）を設定し、療育訓練を実施。
必要な介助	排泄の介助のほか、利用者の希望及び心身等の状況に応じ、利用時に必要とする介助を行った。
家族支援	家族からの医療・福祉・生活等のご相談に随時応じるとともに兄弟や保護者同士の交流の場を企画。

【保育所等訪問支援てくてく】

項目	具体的内容
個別支援 計画	障害児の身体、精神の状況及びその置かれている環境に応じ計画書を作成し、実施状況の把握、評価を実施していく。
訪問支援	保育所等の施設を訪問し、集団生活への適応のための専門的な支援（利用者及び保育士等へ）を実施していく。
家族支援	家族からの医療・福祉・生活等のご相談に応じるとともに、希望に応じて療育技術の指導を実施していく。

【相談支援事業所てくてく】

項目	具体的内容
サービス等 計画の作成	障害福祉サービス等を申請した障害者（児）について、サービス等利用計画の作成、及び支給決定後のサービス等利用計画の見直し（モニタリング）を実施。
家族支援	家族からの医療・福祉・生活等のご相談に応じるとともに、希望に応じて療育技術の指導を実施。

④行事、家族等との交流

実施月	内 容	実施月	内 容
7月	七夕会	12月	クリスマス会
8月	夏祭り（大崎花火大会）	1月	もちつき会
9月	遠足（松島水族館）	2月	豆まき
10月	ハロウィンパーティ	3月	ひな祭り 修了式
11月			

(2) 就
労 支 援
部 門
① 基
本方針

地域で生活する障がいのある方々が「働くこと」を通して、一般就労や生産活動を行う中から働く事の楽しさを知り、また、生活していく力を養い、社会的自立に向け訓練から雇用までのステップアップを実現する事を目的に支援を図ります。

②事業内容

事業名	サービス種別	利用定員	職員配置状況	員数
多機能型就労支援事業所としてとて古川			管理者（事業所内の管理者を兼務）	1人
	就労移行	6名 (現契約数 4)	・サービス管理責任者 ・就労支援員 ・職業指導員 ・生活支援員	1人 1人 1人 1人
	就労継続A型	10名 (現契約数 0)	・サービス管理責任者 ・職業指導員 ・生活支援員	1人 1人 1人
	就労継続B型	14名 (現契約数 9)	・サービス管理責任者 ・職業指導員 ・生活支援員	1人 1人 1人

③各事業所の取り組み

【就労移行支援事業】

項 目	具体的内容
-----	-------

個別支援計画	就労移行支援に必要なプログラム（事業所内での生産活動及び社会適応訓練、現場実習）を基本とした計画的な個別支援計画を作成します。
訓練	事業所内及び企業にて、一般就労に必要な知識、能力の向上のための訓練を行います。適正にあった職場への就労、定着を図ることを目標としその他の便宜を図る。
生産活動	生産活動の機会及び職業訓練、職場実習の場を提供します。 ※食品製造（弁当の製造）、職業訓練、企業実習 ＜工賃の支払＞ 上記生産活動における事業収入から必要経費を差し引いた額に相当する金額を工賃として、生産活動に従事した日数分を支払います。
実習及び求職活動等の支援	本人の適正、希望に基づき、必要に応じた施設外支援（現場実習・求職活動・在宅就労等本事業所以外で行う作業）や施設外就労（一般企業にて職員が付き添う作業）を行います。
健康管理	利用者の健康状態に注意するとともに、希望に応じて服薬の管理・記録を行います。健康保持、傷害時の適切な支援を行います。
送迎サービス	旧古川市内において停留所を設けて送迎を行います。旧古川市外の方については相談に応じます。
欠席時の対応	当日急に休まれる場合、連絡がなく休んだ場合には、安否確認を含め電話連絡等必要な支援を行います。また、5日以上連続して利用がなかった場合は利用者様ご家族の同意のもと、ご自宅を訪問して相談や支援を行います。

【就労継続支援A型】

項目	具体的内容
個別支援計画	生産活動の中で適正な役割及び作業を提供しながら、利用者様の作業の継続性及び巧緻性を伸ばす個別支援計画を作成します。
訓練	当事業所内において、生産活動を正確かつ適切に行うために必要な知識、技術を習得するための訓練を行います。
生産活動	生産活動の機会を提供します。 ※食品製造（弁当の製造）、仕分作業、出荷作業 ＜工賃の支払＞ 雇用契約を締結して生産活動に従事した場合は、労働基準法及び最低賃金法その他関係法令に基づき、賃金を支払います。
健康管理	利用者の健康状態に注意するとともに、希望に応じて服薬の管理・記録を行います。健康保持、傷害時の適切な支援を行います。

送迎サービス	旧古川市内において停留所を設けて送迎を行います。旧古川市外の方については相談に応じます。
欠席時の対応	当日急に休まれる場合、連絡がなく休んだ場合には、安否確認を含め電話連絡等必要な支援を行います。また、5日以上連続して利用がなかった場合は利用者様ご家族の同意のもと、ご自宅を訪問して相談や支援を行います。

【就労継続支援B型】

項目	具体的内容
個別支援計画	生産活動の中で適正な役割及び作業を提供しながら、利用者様がやりがいをもって生産活動に参加することのできる個別支援計画を作成します。
訓練	当事業所内において、生産活動を正確かつ適切に行うために必要な生活リズムの構築及び継続性を習得するための訓練を行います。
生産活動	生産活動の機会を提供します。 ※食品製造（そうざいのパック詰め作業） <工賃の支払> 上記生産活動における事業収入から必要経費を差し引いた額に相当する金額を工賃として、生産活動に従事した日数分を支払います。
健康管理	利用者の健康状態に注意するとともに、希望に応じて服薬の管理・記録を行います。健康保持、傷害時の適切な支援を行います。
送迎支援	旧古川市内において停留所を設けて送迎を行います。旧古川市外の方については相談に応じます。
欠席時の対応	当日急に休まれる場合、連絡がなく休んだ場合には、安否確認を含め電話連絡等必要な支援を行います。また、5日以上連続して利用がなかった場合は利用者様ご家族の同意のもと、ご自宅を訪問して相談や支援を行います。

④行事、家族等との交流

実施月	内容	実施月	内容
7月		12月	
8月	夏祭り（大崎花火大会）	1月	もちつき大会
9月		2月	
10月		3月	
11月			

3. 共通事項
(1) 防災計画
① 避難誘導訓練の

実施・・・年3回（7、9、11月）

- ② 通報訓練の実施・・・年2回（8、12月）
- ③ 防災器具、設備の自主点検の実施

（2）職員の健康対策

- ①職員の定期検診の実施・・・年1回
- ②嘱託医検診・・・年2回

4. 平成26年度総括

正式な開所が2ヶ月遅れの6月だったため、年度途中の利用者獲得が非常に困難であった。稼働率を予算通りに執行することができず、結果的に年間の収支を大きく赤字にしてしまったということが反省すべき点です。9月以降、利用者獲得のために地域における学校や専門機関等との連携を強化し、情報収集を行った結果、3月には児童発達支援センターでは定員の半分以上を埋めることができております。就労支援事業においても、就労移行支援では4名（定員6名）が利用し、就労継続支援B型は9名（定員14名）と着実に利用者を獲得することができています。4月以降の利用契約者も控えており、今後の稼働率アップを見込むことができるようになってきました。

平成27年度の大きな目標を「大幅な赤字解消」として、各事業ごとの稼働率を上げるための取り組みを計画的に進めていきます。これを実践するために、北部事業統括事務長と管理者及び現場職員が共通認識をもち、目標を数値化することで日々の職務を遂行していきます。